

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウケン ヲアヒガケン 学校法人 相愛学園								
フリガナ大学の名称	ソアイダイク 相愛大学 (Soai University)								
大学本部の位置	大阪府大阪市住之江区南港中4丁目4番1								
大学の目的	本学は大乗仏教特に浄土真宗の精神に基づき、宗教的情操を涵養し広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。								
新設学部等の目的	〔人文学部 人文学科〕 「共生」と「利他」の思想のもと、生命の尊さを学び、人生の目的を追求するとともに、市民的公共性と総合的な判断力を養い、ボランティア精神を涵養するとした大学の教育目標を踏まえ、様々な分野の観点より、文化の諸相を読み解く能力と複雑化する現代社会を生き抜く力、仏教精神に基づく知情意のバランスのとれた人格、他者及び異文化の理解を備えた国際社会への適応性と共に、企画する力、実行する力、協働する力、持続する力を持った人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人文学部 [Faculty of Humanities] 人文学科 [Department of Humanities] 計	年 4	人 90 90	年次 人 — —	人 360 360	学士 (人文学)	年 月 第 年次 平成25年4月 第1年次	大阪府大阪市住之江区 南港中4丁目4番1	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	人文学部 日本文学学科 (廃止) (△60) ※平成25年4月学生募集停止 仏教文化学科 (廃止) (△60) ※平成25年4月学生募集停止 文化交流学科 (廃止) (△60) (3年次編入学定員) (△10) ※平成25年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成27年4月学生募集停止)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	人文学科	172科目	64科目	10科目	246科目	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	人文学部 人文学科	10人 (10)	8人 (8)	0人 (0)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	96人 (51)
		計	10 (10)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	96 (51)
	既設分	音楽学部 音楽学科	9 (12)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	15 (18)	0 (0)	262 (260)
		音楽マネジメント学科	4 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (9)	0 (0)	106 (100)
		人間発達学部 子ども発達学科	5 (5)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	90 (88)
		発達栄養学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	7 (7)	90 (88)
		共通教育センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	23 (23)
	計	27 (32)	16 (16)	9 (9)	0 (0)	52 (58)	7 (7)	360 (354)	
合計		37 (42)	24 (24)	9 (9)	0 (0)	70 (76)	7 (7)	401 (364)	

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計						
	事 務 職 員		59 人 (59)	22 人 (22)	81 人 (81)						
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)						
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計		61 (61)	22 (22)	83 (83)							
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	53,868 m <sup>2</sup>	1,263 m <sup>2</sup>	5,814 m <sup>2</sup>	60,945 m <sup>2</sup>	相愛高校 (収容定員:1,200 名)					
	運 動 場 用 地	13,028 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	13,028 m <sup>2</sup>	相愛中学校 (収容定員:450人)					
	小 計	66,896 m <sup>2</sup>	1,263 m <sup>2</sup>	5,814 m <sup>2</sup>	73,973 m <sup>2</sup>	と共用 届出面積 7,077m <sup>2</sup>					
	合 計	66,896 m <sup>2</sup>	1,263 m <sup>2</sup>	5,814 m <sup>2</sup>	73,973 m <sup>2</sup>						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		35,331 m <sup>2</sup> ( 35,331 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	35,331 m <sup>2</sup> ( 35,331 m <sup>2</sup> )						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	47 室	13 室	129 室	7 室 (補助職員 1人)	1 室 (補助職員 0人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数							
		人文学科		18 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	人文学科	113,359 [13,894] (112,699 [13,834])	194 [100] (194 [100])	43 [43] (43 [43])	836 (830)	3,721 (3,721)	23 (23)				
	計	113,359 [13,894] (112,699 [13,834])	194 [100] (194 [100])	43 [43] (43 [43])	836 (830)	3,721 (3,721)	23 (23)				
図 書 館		面積		閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数		大学全体				
		4,110 m <sup>2</sup>		339	244,000						
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
		3,024 m <sup>2</sup>		テニスコート6面、ゴルフ練習場							
経費の見積り 及び維持方法の 概要	人文学科	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費は大学全体	
		教員1人当り研究費等		200千円	200千円	200千円	200千円	一千円	一千円		
		共同研究費等		4,500千円	4,500千円	4,500千円	4,500千円	一千円	一千円		
		図書購入費	0千円	500千円	500千円	500千円	500千円	一千円	一千円		
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	一千円	一千円			
学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,245千円	1,045千円	1,045千円	1,045千円	一千円	一千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								
大 学 の 名 称		相愛大学									
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	音 楽 学 部 音 楽 学 科		4	120	—	480	学士 (音楽)	0.74	平 成 12年度	大阪府大阪市 住之江区南港中 4丁目4番1	
	音 楽 マ ネ ジ メ ン ト 学 科		4	50	—	100	学士 (音楽マネジメント)	0.40	平 成 23年度		
	人 文 学 部 日 本 文 化 学 科		4	60	—	280	学士 (人文学)	0.39	昭 和 59年度		※平成25年4月より 学生募集停止
	仏 教 文 化 学 科		4	60	—	120	学士 (人文学)	0.11	平 成 23年度		※平成25年4月より 学生募集停止
文 化 交 流 学 科		4	60	10	120	学士 (人文学)	0.11	平 成 23年度	※平成25年4月より 学生募集停止		

人間心理学科	4	—	—	160	学士 (人間心理)	—	平 成 12年度	※平成23年4月より 学生募集停止
社会デザイン学科	4	—	—	120	学士 (現代社会)	—	平 成 12年度	※平成23年4月より 学生募集停止
英米文化学科	4	—	—	70	学士 (人文学)	—	昭 和 59年度	※平成21年4月より 学生募集停止
人間発達学部 子ども発達学科	4	100	—	400	学士 (子ども発達学)	0.76	平 成 18年度	
発達栄養学科	4	100	—	400	学士 (発達栄養学)	0.63	平 成 18年度	
附属施設の概要	該当なし							

## 学校法人相愛学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成24年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>相愛大学</b>					<b>相愛大学</b>				
音楽学部	音楽学科		120	→	音楽学部	音楽学科		120	
	音楽マネジメント学科		50			音楽マネジメント学科		50	平成23年度設置(届出)
人文学部				→	人文学部	<b>人文学科</b>		90	学科の設置(届出)
	日本文化学科		60						平成25年度より学生募集停止
	仏教文化学科		60						平成25年度より学生募集停止
	文化交流学科	3年次 10	60						平成25年度より学生募集停止
	人間心理学科		80						平成23年度より学生募集停止
	社会デザイン学科		60						平成23年度より学生募集停止
	英米文化学科		70						平成21年度より学生募集停止
人間発達学部	子ども発達学科		100	→	人間発達学部	子ども発達学科		100	
	発達栄養学科		100			発達栄養学科		100	
音楽専攻科			12	→	音楽専攻科			12	
<b>相愛高等学校</b>				→	<b>相愛高等学校</b>				
	普通科		360			普通科		360	
	音楽科		40			音楽科		40	
<b>相愛中学校</b>				→	<b>相愛中学校</b>				
			150					150	





		書道B	3後	1				○							兼1
		国語学演習A	3前	2				○							兼1
		国語学演習B	3後	2				○							兼1
		映像と文学	3前	2											兼1
		浪速の文学	3後	2											兼1
		文化資料論A(日本文学)	3後	2				○		1					
		文化資料論B(日本文学)	3後	2				○		1					
		日本文化特殊講義(日本文学)	3後	2				○		1					
		日本文化史A	2前	2				○		1					
		日本文化史B	2後	2				○		1					
		日中文化交流史	2前	2				○		1					
		日中比較文化論	2後	2				○		1					
		日本の哲学A	1前	2				○							兼1
		日本の哲学B	1後	2				○							兼1
		日本思想史	3後	2				○			1				
		文化資料論A(歴史文化)	3前	2				○		1					
		文化資料論B(歴史文化)	3後	2				○		1					
		日本文化特殊講義(歴史文化)	3後	2				○		1					
		大阪文化入門A	2前	2				○							兼1
		大阪文化入門B	2後	2				○		1					
		サブカルチャー入門A	1前	2				○							兼1
		サブカルチャー入門B	1後	2				○			1				
		中之島文化論	3前	2				○		1					
		現代大阪文化論	2前	2				○							兼1
		大阪ビジネス論	2後	2				○							兼1
		上方落語論	3後	2				○							兼1
		文化資料論A(大阪文化)	3前	2				○		1					
		文化資料論B(大阪文化)	3後	2				○							兼1
		日本文化特殊講義(大阪文化)	3前	2				○							兼1
		日本のSFとバーチャル文化	3前	2				○							兼1
		日本社会とメディア	3前	2				○			1				
		日本のアニメ文化	2前	2				○			1				
		日本漫画史	2後	2				○							兼1
		文化資料論A(サブカルチャー)	3前	2				○							兼1
		文化資料論B(サブカルチャー)	3後	2				○			1				
		日本文化特殊講義(サブカルチャー)	3後	2				○							兼1
		現代文明論	3前	2				○							兼1
		宗教学概論B	1後	2				○		1					
		仏教学概論B	1後	2				○			1				
		仏教と生活	2前	2				○							兼3
		パーリ語入門	2前	2				○							オムニバス
		サンスクリット語入門	2後	2				○							兼1
		宗教儀礼概論	1後	2				○							兼1
		宗教社会学	2前	2				○							兼1
		宗教史	2前	2				○		1					
		仏教史	1前	2				○							兼1
		真宗史	2後	2				○							兼1
		日本仏教史A	2前	2				○							兼1
		日本仏教史B	2後	2				○							兼1
		仏教思想論	3前	2				○			1				
		宗教哲学	3前	2				○			1				
		比較宗教学	2後	2				○			1				
		宗教心理学	1後	2				○							兼1
		仏教と社会福祉	3前	2				○							兼1
		身体論	2後	2				○							兼2
		真宗学概論	1後	2				○			1				
		真宗聖典学	2前	2				○			1				
		宗教社会活動論	3前	2				○							兼1
		ビハーラ演習	3後	2				○							兼1
		真宗教学史・教団史	3前	2				○							兼1
		真宗儀礼演習	3前	2				○							兼2
		真宗学特殊講義	3前	2				○			1				
		真宗伝道演習	3後	2				○			1				
		寺院運営論	3前	2				○		1					

専 門 科 目		仏教文化講読 1	2 後	2							1								兼 1
		仏教文化講読 2	3 後	2															兼 3
		仏教文化演習	3 後	2															兼 1
		アジアの仏教と社会	3 後	2															兼 1
		知覚心理学	2 前	2				○											兼 1
		学習心理学	2 後	2				○											兼 1
		カウンセリング演習 I	2 後	2					○			1							兼 1
		カウンセリング演習 II	3 後	2															兼 1
		心理学実験演習	2 前	2					○										兼 1
		心理学実習	3 後	2							○	1	2						兼 2
		カウンセリング実習	3 前	2							○								兼 2
		生涯発達の臨床心理学 (乳幼児期)	2 前	2				○				1							兼 1
		生涯発達の臨床心理学 (児童期)	2 後	2				○											兼 1
		生涯発達の臨床心理学 (青年期)	3 前	2				○				1							兼 1
		生涯発達の臨床心理学 (成人・高齢期)	3 後	2				○											兼 1
		異常心理学	3 前	2				○											兼 1
		社会心理学	1 前	2				○					1						兼 1
		人間関係論	2 前	2				○					1						兼 1
		心理学研究法	2 後	2				○											兼 1
		健康心理学	2 後	2				○					1						兼 1
		心理統計学	2 前	2				○					1						兼 1
		パーソナリティの心理学	1 後	2				○											兼 1
		発達心理学概説	1 後	2				○				1							兼 1
		カウンセリング論 I	2 前	2				○				1							兼 1
		カウンセリング論 II	3 前	2				○											兼 1
		精神分析学	3 後	2				○											兼 1
		精神医学	3 前	2				○											兼 1
		神経心理学	3 後	2				○											兼 1
		家族心理学	3 前	2				○											兼 1
		グループダイナミックス	2 前	2				○					1						兼 1
		産業・組織心理学	2 後	2				○					1						兼 1
		消費者行動論	3 前	2				○											兼 1
		多文化社会論入門	1 前	2				○				1							兼 1
		ことばと文化	1 前	2				○				1							兼 1
		文化交流論	1 前	2				○					1						兼 1
		英米文化入門	1 後	2				○					1						兼 1
		文化人類学入門	1 後	2				○				2							兼 1
		国際関係入門	1 後	2				○											兼 1
		異文化間コミュニケーション	2 後	2				○				1							兼 1
		英米文学概説	2 前	2				○					1						兼 1
		イギリスの社会と文化	2 前	2				○					1						兼 1
		フィールドワーク論	2 後	2				○					1						兼 1
		スピーチとプレゼンテーション	2 後	2					○			1							兼 1
	ビジネス英語	3 前	2					○			1							兼 1	
	コミュニケーション実践	3 前	2					○			1							兼 1	
	翻訳入門	2 後	2					○				1						兼 1	
	翻訳演習	3 前	2					○				1						兼 1	
	通訳入門	2 後	2					○			1							兼 1	
	通訳演習	3 前	2					○			1							兼 1	
	比較文化論	3 前	2				○					1						兼 1	
	情報社会論	3 前	2				○					1						兼 1	
	英米文学講読	3 後	2					○				1						兼 1	
	文化交流実践	3 後	2					○			1							兼 1	
	アメリカの社会と文化	3 前	2				○				1							兼 1	
	社会調査入門	1 前	2				○					1						兼 1	
	現代社会論演習	2 後	2					○				1						兼 1	
	マス・メディア論	1 前	2				○											兼 1	
	国際金融論	2 前	2				○				1							兼 1	
	国際政治論	2 前	2				○											兼 1	
	社会統計学	2 後	2				○					1						兼 1	
	地球環境論	2 前	2				○											兼 1	
	社会調査方法論	2 前	2				○					1						兼 1	
	企業管理	3 後	2				○				1							兼 1	
	国際経済・貿易論	3 前	2				○				1							兼 1	



専門科目	専門 関 連 科 目	企業経営論	3後		2		○			1							
		社会調査演習	3通		4			○		1							
		比較企業文化論	3後		2		○			1							
		比較文化論演習	3後		2			○		1							
		小計(147科目)	—	0	294	0	—			10	8	0	0	0	0	兼46	
合計(246科目)		—	28	459	0	—			10	8	0	0	0	0	兼103		
学位又は称号		学士(人文学)		学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
○基礎科目・共通科目22単位以上 基礎科目から8単位以上(I群から必修4単位を含み6単位以上、II群から2単位以上)、 共通科目①から8単位以上(人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から1科目2単位以上)、 共通科目②から4単位以上(語学関係Iから4単位以上を含む) ○専門科目80単位以上 ゼミナール科目から必修16単位、入門科目から必修2単位を含み6単位以上、キャリア支援科目から必修6単位を含み8単位以上、 専門関連科目から30単位以上 ○自由選択科目(他学部開設科目も含めて)22単位以上  合計124単位以上修得すること。  (履修科目の登録の上限 : 44単位(年間))										1学年の学期区分			2学期				
										1学期の授業期間			15週				
										1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要					
(人文学部人文学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
基礎科目・共通科目（大学共通）	I 群	建学の精神	本学は1888年に相愛女学校として設立されてから121年の歩みが続けてきた。本願寺第21代の門主であった明如上人は、建学の精神を「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と定め、大都大阪の中心である船場の子弟教育にこころを注いできた。1958年には山田耕筰氏らによって、関西における最初の女子音楽大学が開設された。その相愛女子大学、学則の第一条にあっては、「本学は大乗仏教とくに浄土真宗の精神に基づき、宗教的情操を涵養し、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開させることを目的とする」と定めている。相愛大学は1984年には人文学部を、2006年には人間発達学部を加え総合大学としての歩みをたどっている。相愛教育121年の歴史にながれる建学の理念と、その理想的人間像実現への方途を教授する。		
		仏教思想と現代	人間はみな自分の人生に、生きる意味を何らかの形で見出したいという願望をもつ。それぞれ宗教発生の起源である。宗教はわれわれの生命体の生存の意味の発見に不可欠なものであることを明示したのはゴータマ・ブッダである。混沌とした現代に身を置かれわかれである。人間が抱え直面する環境、平和、民族、性差などのさまざまな問題、ブッダの智慧と慈悲の教えは、どのような理解と実践のありかたを示しつつ人類共通のこの危機を救済するのかを考えて行く。		
		科学と人間	科学は現代社会になくてはならないものである。科学の成果は、技術と結びつくことで計り知れない恩恵を人間にもたらす一方で、人間生活にマイナスの影響も与えている。科学とは何か、人間はいかに科学を創りあげてきたのか、科学と技術とはどのような関係にあるのか、科学はどのような功罪をもたらしてきたのか、今後の科学はどうかあるべきか、など、さまざまな切り口から科学と人間について考える。		
		環境と人間	まず生命科学の基礎的知識を学ぶ。分子生物学の基礎、細胞レベルの生物学、集団レベルの生態学的生物学などを中心に、現代生物学の常識的知見を紹介する。つぎに、生態学的考察から地球環境について学ぶ。環境問題を、自然科学的観点から外観する。最後に地球生態系と今日の環境問題の展望を述べる。		
		生命と人間	今日の科学技術の進展は、個人の選択肢の範囲を拡大し、人類の未来に明るい展望を開くと同時に、人間が自由に操作・コントロールしてもよい範囲と操作してはならない範囲との境界を、私たちにあらためて問うている。 本講義では、とくに身体を改善し改造する技術に即して、臓器移植、代理出産、安楽死、能力増強などの具体的な問題に、哲学的・倫理的にアプローチすることを通して、現状を分析し、未来を展望する。そのさい、ただのデータ分析で終わらないように、どの問題にもその根源にまでたかかえって、その思想的背景をえぐり出すことによって、より深い洞察を得ることを目標とする。		
	II 群	大学生のための日本語入門	近年日本の大学生の国語力低下がとりざたされている。外国語の学習も大切だが、すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、発展させるのが本クラスの目的である。日本語の組み立てを理解するとともに、さまざまなタイプの日本語の文章を読み、読解能力の開発に努める。たくさん文章を読むことに慣れるのもこのクラスの方法のひとつである。新聞記事なども使用して、あわせて時事問題についての理解を深め、就職対策の一助ともしたい。		
		日本語表現法	自分の考えを文章や音声の形で上手に表現することは、生活の様々な局面で必須である。書くべき文章の性格を理解し、その文章の読者を想定した上で、事実や意見を分かりやすく表現し、読み手を納得させる文章を書くこと、口頭表現が正確に、上手にできるようになること、これらを目標にする。なお、受講者の作成した文章を素材として使用することがある。		
	共通科目系①	人文系	文学と人生	高等学校を卒業した三四郎は、東京の大学に入学する。「人生という丈夫そうな命の根が、知らぬ間に、ゆるんで、いつでも暗闇へ浮き出していきそうに思われる」とは、三四郎の東京での感想である。大学を舞台とした夏目漱石の青春小説『三四郎』に、「青春」と「人生」の意味を考える。	
			音楽の楽しみ	オペラでは、恋愛、政治、陰謀など多種多様な題材が取り扱われ、そこに繰り広げられる世界は多岐に渡っている。そのオペラを材料とし、作品に描き出される登場人物の生き様や人生の諸相について検討したい。そのとき手助けになるのが音楽であり、音楽の表現によって登場人物の内面を推測できる。その推測は聴衆自身の心理の反映でもある。オペラを通して、音楽と人生を考えたい。	

基礎科目・共通科目（大学共通）	人文系	西洋美術史	古代からルネサンスに至る西洋美術の歴史について述べる。絵画、彫刻、建築などの美術作品は、それぞればらばらなものとして存在するのではなく、実は表現においてつながりあうスタイルや精神性を持っている。本講座では、西洋文化の粋といえる古代ギリシャ、中世、ルネサンスにおける美術を取り上げ、その作品を通して、西洋文化の深い精神性にふれる。	
		西洋文化史	フランス革命前夜の18世紀中葉から20世紀までの西洋文化を概観する。貴族からブルジョワへの文化の担い手の変化、工業化や都市化がもたらした生産と需要の変化に着目しながら、西洋における絵画、音楽、文学、映画などの表象文化の変遷を追う。「芸術」や「大衆文化」といった枠にあまりとらわれることなく、西洋文化の奥深さと魅力を探りたい。	
		美学	芸術のモダニティ（現代性）について、映画作品を通して考察する。映画を美術、音楽、文学、ダンスなどの複合的な芸術として読み解くだけでなく、スタジオ・システムと作家性との関係、ハイアートと大衆文化との関係など、近代産業社会における芸術の有り様をめぐる様々な論点について検証していく。	
		日本歴史入門	近現代を中心とした日本の歴史を学ぶことを通して、私たちにとって「日本歴史とは何か」、ということを考える。さまざまな歴史資料を読み解きながら具体的に学ぶ中で、現在そして未来を生きる私たちにとって、歴史を学ぶとはどういうことか、その大切さと楽しさを会得してもらいたい。	
		世界歴史入門	ヨーロッパやアメリカや、日本を含むアジア・アフリカの諸国も、すべてが世界の一部であり、それらの相互関連の中から、「世界史」が生まれてくる。従来のように西洋史・東洋史・日本史というように、個別に取り上げるだけでは、一国の歴史さえ理解できない。おのおのの文化圏の相互の影響を統合的に考えて、世界の歴史または人類の歴史を考えたい。	
		地理学入門（地誌を含む）	地理学は人間が生活する地表のさまざまな現象を解明する科学で、近代に科学に位置づけられた。自然環境を検討する自然地理学、人間の活動が地域に与える影響を検討する人文地理学、地域を総合的に検討する地誌（地域地理学）、地理学的表現方法としての地図についての概要を確認する。	
		倫理学入門	倫理学は、「人間はいかに生きるべきか」という倫理規範に関する問題を、様々な角度から考える学問である。共同体で育まれた自然な義務感情が倫理規範を支えているが、それは国家権力を背景とした法的規範や絶対者の命令に基づく宗教的規範とも、緊張をはらみながらも、密接に関連しつつ人間の生き方を基礎づけている。先哲の種々の倫理学説を紹介しながら、この複雑な問題系にアプローチする手掛かりを考えてみたい。	
		心理学入門	心理学には様々な方法論的立場があるが、本講義では、人間の行動や心の働きに関して、経験科学的な心理学がもたらした知見を紹介する。入門の講義なので、知覚、学習、記憶、思考、知能と創造性、動機、性格、社会心理など、心の働きの広範な側面について最も基礎的な事柄を取り上げ、心に関する全般的な理解を図る。また、心という非実体的な対象を扱う上での、経験科学的心理学独特の観点や研究方法についての理解を目指す。	
	社会科学系	社会学概説	社会学の「社会」とは何をさすのであろうか？「実社会に入る」というときの社会なのか、「社会科」という科目の社会なのか？高校で学ぶ「現社」「政経」とはどう違うのか？テレビでよく見られる「現代社会」という言葉にしても、実は具体的イメージは描きづらい。こうした社会学にまつわる根本的な問いに答えつつ、社会学の基礎を、環境や恋愛問題など身近なところから解説する。	
		社会と芸術	芸術のない、感情の失われた社会は想像することはできない。産業革命に始まる機械の出現は人間に代わって物を作り出す新しい時代を告げることになるが、機械自体に感情はない。産業革命に始まる近代社会と芸術のかかわりについて、絵画、工芸、建築を通して考える。	
		経済学入門	経済は不思議なことではいっぱいである。市場経済では、なぜ価格が上がったり下がったりするのか、なぜ経済成長にもかかわらず失業がなくなるのか、なぜ好況と不況が繰り返してやってくるのか、なぜ貧富の格差は広がるのか。こうした経済の不思議をテーマに、経済学の基本を講義する。現実の経済現象を把握するため、ビデオを使用できる限りビジュアルな講義とする。	
		経営学入門	世界的金融危機の中で、企業経営は大きな曲がり角にきている。物を作り、それを売れば済むような時代ではなく、時代の需要を先取りし、先端を行くことが求められている。この講義では、経営学の基本、人材育成、生産管理、販売計画などを押さえた上で、これからの経営に求められる、情報化（ICT）戦略、財務戦略、国際化戦略などを論じた。	

基礎 科目 ・ 共 通 科 目 （ 大 学 共 通 ）	社 会 科 学 系	マーケティング入門	マーケティングとはただモノやサービスを売ることではない。必要な人に必要なものを適時に提供するという基本がなければ、マーケティングは成り立たないのである。このようなマーケティングの基本を、身近な例、たとえば、コンビニエンス・ストアーはどのような営業をしているのかなどを例に、論じたい。		
		観光学入門	初めて観光を学問として学ぼうとする学生に対し、その基礎となる概念や知識を提供する。前半ではまず「観光とは何か」についてその基本的な理解の仕方を説明した上で、観光の歴史や諸制度、観光の社会とのかかわりを学ぶ。後半では、観光を支える社会システムとして、観光に関連した諸事業について概観する。		
		政治学入門	この講義では、近代民主主義国家の主権者としての国民、「選挙に際して平等に一票を有する国民」が、政治に関して知っておくべきさまざまな点について講義する。政治学の基本知識の理解と政治学的思考方法の習得を目指す。抽象的な概念だけでなく、現代日本の政治的現実のさまざまな側面にも触れていく。		
		法学入門	人によって作られるあらゆる社会に人の存在を保障し、社会を維持する「ルール」が存在する。このような「ルール」の中で「法」は最も基本となる。法がどのように生まれ、どのような役割を果たしているかを、人の権利の概念の成立と発展をたどりながら、明らかにする。その上で、現代の日本及び国際社会における法の役割の拡大と発展を論ずる。		
		日本国憲法	誰でも知っているはずの憲法が実際には、あまりにも守られていないのではないかと疑問から出発します。そもそも、今の憲法は、なぜこんな形になっているのかを歴史的に明らかにし、日本という国の形を考えることから、今日重要なもろもろの課題について、新聞記事などを多用しながら、論じます。さらに、現代の人権保障が国際的つながりを持つことも明らかにします。		
		教育原論	この科目は、教育の基礎理論に関する科目であり、教育思想の歴史を振り返り、教育の理念、目的に関してこれまで蓄積されてきた知見に関して思想的な考察を行なうこと、及び、現在の学校教育が抱える様々な問題について、教育改革の歴史や諸外国との比較も視野に入れつつ、その背景にある社会状況の現代的変容を検討すること、の2点を通じて、子どもの発達、成長を促す営みとしての教育の意義と課題について原理的な理解を深めることを目指す。		
	自 然 科 学 系	数学入門	数学は自然科学の基礎として、古い歴史を持っている。本講義では、自然科学の歴史の変遷において数学が果たした役割を概観する。古代ギリシャの幾何学から近代科学誕生以降の高等数学の発展まで、具体例をあげつつ、その意義を簡明に紹介し、こうした数学の発展が、人間社会においてどのような意味を持つのかを考える。また、現在の情報化社会において必要とされる情報数学についても、初歩的な解説を加えていく。		
		地球と宇宙	地球を含む惑星系について、最新の知識を概観しつつ、この地球が、宇宙全体から眺めて、どこに位置し、どのような歴史を経て現在に至ったかを解説する。惑星系の未だ解かれていない謎を紹介し、太陽系以外に続々と発見されている系外惑星系について、第二の地球が発見される意義をお話する。更に、現在の地球が抱える様々な環境問題を解説し、今われわれがやらねばならない事柄について、共に考えていきたい。		
		物理学入門	現代の最先端の物理学も、その源流をたどれば、古代ギリシャの自由で想像力豊かな自然哲学から発展したものである。本講義では、そのような物理学の長い歴史を、人間理性が自然をどのように理解していったのかという観点から概観する。また、ニュートン力学に代表される近代科学の成立から、相対論と量子論という20世紀の新しい物理学の登場までを、工業化社会の成立という歴史的視点をふまえて、できるだけ平易に解説する。		
		科学史入門	「科学」というと比較的新しい学問であると思いがちであるが、実は古くから続いてきた人間の知的活動である。世界のさまざまな地域で、さまざまな科学が生まれ、発展し、衰退していった。そのような科学の歴史を、いろいろな実例をたどりつつ概観する。特に、私たちに親しい西洋近代科学についてはその特徴をじっくり調べ、なぜこの科学が成功を収めたのか、またどのような弊害をもたらしたのかを考える。		
		化学入門	化学は分子や原子のレベルで物事や現象を認識する学問である。自然の中で「化学」は広く存在しており、化学なしに自然現象の認識は不可能である。また、化学は科学技術にとっても欠かせぬ重要な分野である。本講義では、原子と原子が結びつき形成される分子、原子と原子との結合である化学結合、物質の状態である気体、液体、固体にどんな性質があるか、さらに我々の生活にもっとも関係しており、また生命現象の解明にも密接に関連した有機化学、有機化合物について概説する。		

基礎科目・共通科目（大学共通）	自然科学系	生物学入門	生物学や生命科学のめざましい進歩は日常生活にも様々な影響を及ぼすようになってきている。また、生物界を含めた自然環境の激変も人間にとっての重大な問題となっている。したがって、現代社会を生きる上で生物学的知識の素養はますます重要になっているにもかかわらず、大学入学までに十分な教育を受けていない学生が多い。そこで、高校の科目「生物」の水準を念頭に、生物学に関する最も基本的な内容を解説する。具体的には、生物の進化の道筋、遺伝・生殖・発生の仕組み、種々の細胞や器官の構造と機能、人間も含めた生物同士あるいは生物と環境との相互作用などのテーマを取り上げる。	
		現代と医学	科学としての医学の成立過程、生命の成り立ち、病気の成り立ちなど、現代医学の基礎について分かりやすく説明するとともに、生命倫理や医療過誤、医療経済、ターミナルケアなど、具体的なトピック、エピソードを交えて紹介し、現代医療と我々の社会が直面する課題を共に考えることを目的とする。また、公衆衛生学の概念・理論に基づき、環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。	
		看護介護入門	人間が生きていくためには心身ともに健康であることが、第一条件である。健康を害した場合、回復の働きかけを担うことが看護であり、心身の機能低下によって起こる生活障害を改善し、人生を支える働きを担うことが介護である。様々な年齢における健康問題にも焦点を当て、そこでの看護介護の役割を考える。	
	共通科目①	健康科学	健康的な生活はわれわれの幸福の源であり、生活の質を高める基本的な条件である。健康的な生活を維持するためには積極的な取り組みが必要である。この授業は健康を維持・増進するための方法を生理的・身体的・精神的な側面から明らかにする。具体的には、乳・幼児期のみならず青少年期、青年期、高齢期にわたる発達と運動、運動の生理と心理、運動の練習法、社会生活と体育・スポーツとの関係について論理的・科学的な検討を加え、生涯にわたり健康で豊かな生活を送るため、健康を自己管理していく際に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。	
		健康とスポーツ実習	これまでの体育科の授業を基礎にして体力・運動能力の向上を目指す。楽しいスポーツの在り方を学び、実習を通して、理解を深め、健康的で充実した学生生活を送るための健康とスポーツ実施の意義を学ぶことをねらいとする。種目としては、「テニス」、「バドミントン」、「卓球」、「ゴルフ」を予定している。前記の種目のうち、指定された2種目あるいは3種目の中から1種目を選択することになる。	
		生涯健康とスポーツ実習	「健康とスポーツ実習」を基礎に、体力・運動能力のいっそうの向上を目指す。生涯スポーツを視野に入れたスポーツの在り方を学び、健康的で充実した生活がおくれるよう、実習を通して理解を深める。種目としては、「テニス」、「バドミントン」、「卓球」、「ゴルフ」を予定している。前記の種目のうち、指定された2種目あるいは3種目の中から1種目を選択することになる。	
		その他	キャリアデザイン論	単なる就職対策的なハウツーではなく、進路選択に必要な情報の提供とビジネストレーニングの手法を取り入れた参加型学習なども取り入れながら、将来のキャリアへの意識づけを行なう。「学生生活をどう過ごすか」を軸に「学問の目的」「人生と仕事」「将来ビジョン」を考える。また社会人基礎力としての「ビジネスマナー」「コミュニケーション力」などについて、ワークショップなども適宜行う。具体的内容は、①自己研究(自己理解)、②外部研究(業界・職業理解)、③キャリア研究(社会人基礎力)の3つの分野から構成される。
	その他	キャリアデザイン演習	本演習では、「生きること」「働くこと」の意味、社会の最近の変化と社会が求めている「人材」への理解、「自分を発見すること」の重要性などを考えてもらうことにする。学生が卒業後の進路・キャリアを考えるうえでの、基本的な知識、視点、技術を獲得することを目的とする。社会の色々な分野で活躍しておられる方を講師として招き、①日本の経営の変化、②企業の求める人材、③自己分析・自己理解、④女性が働く社会(ワークアンドバランス)⑤ビジネスマナーの実践、⑥ビジネスの場におけるコミュニケーション力などについて、事例研究や討論、ワークショップなど参加型授業方式を中心に進める。	
	その他	インターンシップ	企業、官公庁、諸団体等において2週間程度の就業体験を行う。管理、総務、営業、企画、製造、研究開発など様々な業務内容を経験することで、①会社の仕組みについての知識や職業適性などについての理解を進め、②自分の適性を見極めることを目的とする。今後の就職活動を考え、将来のキャリアを考える機会とする。具体的な流れは、事前に、①インターンシップの目標設定のレポート作成、②企業関係者等によるビジネス・マナー・トレーニング、③受け入れ先担当者の指導による事例研究を行った後、⑤夏季休暇期間を利用して2週間程度のインターンシップを行う。終了後、⑥自己評価、まとめをしレポートを作成する。	
	その他	情報処理演習	大学生が授業を受けたり研究をしたりする上で必要な、パソコン使用のための基本技能を習得することを目指す。具体的には、コンピュータOSの基本操作、検索ソフトを使つてのインターネット上での情報収集、ワープロソフトによるレポートなどの文書作成、表計算ソフトによるデータの分析、プレゼンテーションソフトを使つた資料の作成と発表などに関して講義を受け、実習を行う。また、タッチタイピングの訓練も行う。	

基礎科目・共通科目（大学共通）	共通科目①	その他	情報と社会	「情報化社会」と呼ばれる現代社会で生きていく上で必要な知識や技能の理解を目指す。そのために、情報や情報処理などの基本的概念、社会の情報化の歴史的経緯と現状、情報化が生み出す様々な利便性や弊害などを解説する。そして、そのような社会の中で、情報を取捨選択したり、利用したり、弊害を避けたりする上で必要な態度や技能を理解する。また、将来に向けての望ましい情報化の方向についても考えていく。	
			生涯学習概論	今日の急激な社会の変化を背景として、生涯学習が多くの人たちの関心を集め、さまざまな場で多様な学習活動が展開されている。この講義では、地域において行われている生涯学習活動の実践事例について具体的に紹介するとともに、成人期の発達段階と発達課題、生涯学習及び社会教育の本質と意義、図書館・公民館等社会教育施設の概要、生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育それぞれの役割と相互の連携、学習者への支援策について概説し、国や自治体の関連施策をふまえ、今後の生涯学習の振興策について考えていく。	
			図書館概論	歴史社会が一定の段階に達すると文献情報を蓄積し、利用に備える施設を産み出す図書館現象を歴史の文脈に即して語るとともに、その歴史の変遷に沿って変化する図書館機能の拡大・分化・統合と社会経済的意義、そこで一定の業務に従事する人々と利用者等について論ずる。伝統的紙媒体図書館像からデジタル・ライブラリーへの変貌も主要な論点を構成する。	
			ボランティア論	ボランティアは、障害者、高齢者、児童といった社会福祉の分野を中心に、地域の教育支援、防犯から、さらには国際協力に至るまで、さまざまな分野への広がりを見せている。ボランティアの担い手も、一部の有志者から、企業人にまで及んでいる。ここでは、授業計画に沿って、基礎的なボランティアに関する知見を得ることによって、学生自身による自発的、主体的なボランティア活動につながるよう授業を進めてゆきたい。内容は、「ボランティア活動とは」、「ボランティアと障害者」、「バリアフリー」、「ボランティアと高齢者」、「ボランティアと児童」、「ボランティアとNPO」、「企業フィランソビー」などから成る。	
			ボランティア体験	ボランティア活動の研修を通じて、社会人としてのエチケットを身につけ、人格の涵養に努めて、ボランティア活動や社会貢献・地域貢献の重要性を理解し、社会人としての心構えを学ぶ。事前指導として①ボランティア活動の研修先（候補・期間）の説明、②ボランティア活動計画をたてる、③実習先の紹介、実習にあたっての心構えの指導、④実習に先立っての必要な研修事項等の指導。最低1週間のボランティア活動を経て事後指導。その内容は、①ボランティア活動の報告、経験交流、②自己のボランティア活動に対する評価を行う。	
			音楽実技	各自の技術レベルに応じた楽曲を実際にピアノで弾くことを通して、音楽に触れ、親しんでもらいたい。ピアノの演奏技術や、音楽内容、さまざまな時代の様式等を少しずつ総合的に勉強してゆきたい。ピアノ実技は個人差が大きく、基本的には個人指導となるが、受講者全員での授業というメリットを生かし、お互いに聴講しあい、学びあえるように授業をすすめ、教養の一つとしての音楽を身に付ける。	
			学校と教師	本科目は、教育職員免許法の教職科目「教職の意義等に関する科目」に該当し、この授業では、様々な教育実践、授業方法の実例を題材として、実践者の子どもも理解、実践意図、実践までの構想や準備を含めて総合的に検討することを通じて、現在の子どもたちと学校がかかえている課題を的確に把握し、それに対応する方法を創り出す力を形成することを目的とする。子どもたちの自己実現を助ける営みとして教育をとらえ、受講生がどのような持ち味と力量をもった教師になろうとするのかを自ら設計していくための契機とした。	
			人権教育	社会には自分自身を含めさまざまな人々が生活している。人々がお互いに幸せに生活していくためのキーワードの1つが「人権」である。なぜ現代社会で「人権」が重要な意味を持つのか。人権を尊重する社会とはどのような社会なのか。人権を尊重する社会の実現のためには何が必要なのか。そして、人権を尊重する人間を育てるにはどのようにすればいいのか。日常生活の中での素朴な疑問や視点から「人権」「人権教育」に対する理解を深めていきたい。	
			異文化間教育論	異文化間教育とは二つ以上の文化にまたがって展開される教育を指します。私達が暮らす21世紀では、環境、情報、資源、食物等、世界の国々との相互依存が益々重要視されています。人々の移動に伴って異文化摩擦が生じます。教育もその例外ではありません。このクラスでは異文化コミュニケーション論の視点から、文化とコミュニケーションへの理解を深め、在日外国籍市民の数が200万人（うち2万人が日本語指導の必要な子ども達）を超えるという現実を踏まえて、主に日本における異文化間教育を考察し、異文化感受性を養うことを目的とします。	
			宗門法規	本講義は、浄土真宗本願寺派僧侶に開かれた基礎資格免除課程の講座であるが、近年は必ずしも僧侶志願者に限定することなく、幅広くこの講座が受講されている。そこで浄土真宗本願寺派が、どのような組織機構をもち、どのような目的で活動しているのか学んでいく。	

基礎科目・共通科目（大学共通）	共通科目①	その他	布教法	聞法と布教は、浄土真宗では最重要であって、その布教理論や方法論は詳細に考究されなければならない。海外をふくめた布教現場の実体験から得た、具体的な課題や問題点を考えていく。	
		その他	勤式作法	浄土真宗本願寺派のおつとめに関する基礎知識を中心に、唱法・作法・経意などについて講義する。また、定められた音程でおつとめのできる練習。また定められた動きで作法ができる練習。経典の内容と理解が広がっていく読誦の練習を行う。	
	共通科目②	語学関係 I	英会話 I	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上させることである。主に英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。	
			英会話 II	Following English Conversation I, this course will help students develop communicative skills in English. Since classes will be smaller than in the first semester, students are encouraged to participate in the class activities more actively than in the first semester. 英会話Iに続いて、この授業では英語コミュニケーション能力の育成を測る。前期よりも受講生が少ないことが予想されるので、受講生はますます活発に授業に参加することが期待される。	
			英会話 III	英会話I, IIにおいて養った英会話の基礎力の応用として、より高度な会話力の涵養に努める。あいさつやきまり文句に留まらず、意見のやりとりができる程度の会話力を身につけることを目標とする。	
			英会話 IV	英会話IIIの続きとして、英会話力を更に発展させる。意見のやりとりができるような高度な会話力をつけることを目的とする。	
		語学関係 II	英語 I	基本的な文法を復習しながら、英語の理解力と運用力を総合的に向上させることを目指す。そのために音読を重視し、語彙力を増加させることに努める。さらに英語を学ぶことを通じて、国際感覚を育成することも授業の目標とする。文法を復習し、重要な文法規則の活用練習をする。語彙力を向上させる。正しい発音とイントネーションで英語を読む練習をする。「聞く」「読む」「書く」の三技能を重点的に学び、簡単な会話練習もする。	
			英語 II	英語Iに引き続き、基本的な文法を復習しながら、英語の総合的な理解力と活用能力を向上させることを目指す。英語になれるために音読を重視し、各種英語検定試験を受験するために語彙を増加させることに努める。教科書の各Unitが終わるごとに小テストを行う。文法を復習し、重要な文法規則の活用練習をする。語彙力を強化する。音読を重視する。「聞く」「読む」「書く」の三技能を重点的に学び、簡単な会話練習も導入する。	
			英語 III	英語I, IIにおいて養った英語の基礎力の応用として、なるべく幅広いトピックで書かれた英文を読み、読解力の涵養に努める。可能であれば速読、多読にも挑戦し、英語の文を読む力を実用の域にまで高める。	
			英語 IV	英語IIIの続きとして、英語の読解力を更に発展させるためにコンテンツも重視して英文を読み進める。	
ドイツ語 I	全体で8課のスケッチから初學者に向けたドイツ語のことばのきまり（文法）を学ぶ。そのつど学習する文法内容に沿いながら、簡単な文章の聴解・読解によって理解力を高め、発音練習・役割練習・作文練習によって能動的な表現力を養っていききたい。また折に触れ、ドイツ語圏（ドイツ・スイス・オーストリア）各地の文化（芸術、食文化等）や日本におけるドイツ文化受容の具体例を紹介する。文法説明にあたっては、基本的に教科書に沿って進めるが、反復・定着練習のためにプリントを併用したり、ドイツ語の特性理解のために兄弟語である英語との対比を行ったりする。文化紹介にあたっては、担当者が持参したプリント、拙著のコピー、映像・音響ソフトを使用する。				
ドイツ語 II	ドイツ語Iの単位取得者を対象に、教科書後半部のスケッチからドイツ語基礎文法を完結する。学習した文法内容に沿いながら、聴解・読解によって理解力を高め、発音・役割・作文練習によって能動的な表現力を養っていく。応用・発展学習として、ドイツ語圏共通の、また地方固有の文化（芸術、クリスマス等）を紹介する。学習内容は基本的に教科書に沿って進めるが、文法の反復・定着のための練習はプリントで補う。文化紹介にあたっては、担当者が持参したプリント、コピー、映像・音響ソフトを使用する。				

基礎 科目 ・ 共 通 科 目 （ 大 学 共 通 ）	語 学 関 係 I	イタリア語 I	簡単な文章の読み書きができるようになること、日常生活における短い会話文を身につけることを目標とします。 文の基礎となる文法を学びながら、読む、書く、覚えるを繰り返し、イタリア語を身近な言葉にしていきます。 教科書はイタリアに語学留学した学生がイタリア語とイタリア文化を学んでいくという設定になっています。イタリア語だけでなく、イタリア文化にも触れていきます。		
		イタリア語 II	動詞の過去時制を中心に学びます。過去形は近過去と半過去と呼ばれるものがあり、それぞれの項目を学んだあと、ふたつの過去形の使い分けについても踏み込みます。ついで目的語の代名詞（直接目的格の代名詞・間接目的格の代名詞）、再帰代名詞へと進みます。基本単語・熟語の習得はもちろん、会話表現も覚えることにします。おりにふれてイタリアの社会や文化を紹介します。		
		フランス語 I	会話文を題材とした教科書を用いて、フランス語のことばのしくみを学びます。発音練習も重視しますので、授業中は積極的に声を出して練習に取り組んでください。また映像資料を使用し、様々なフランス文化にふれることも目的として講義を行います。		
		フランス語 II	フランス語Iの内容を引き継ぎ、会話文を題材とした教科書を用いて、フランス語のことばのしくみを学びます。発音練習も重視しますので、授業中は積極的に声を出して練習に取り組んでください。また映像資料を使用し、様々なフランス文化にふれることも目的として講義を行います。		
		中国語 I	中国語学習における最初の難関ともいえる発音の学習を重視しながら、基本的な文法が身につくように学習を進めていく。また言葉の学習と共に、中国の文化や習慣、中国に関連するニュース等も随時紹介し、中国に対する関心及び理解を深められる授業にしていきたい。		
		中国語 II	前期に引き続き、発音、基礎文法を復習しながら、新たな文法解説を中心に授業を行います。 教科書に従い授業を進めますが、文章の読む力や書く力を高めて定着するため、プリントで補い、簡単な作文の練習も行います。 又、中国の社会事情や今の中国人の暮らしなどもビデオで紹介しながら中国語を学びます。言語の知識と文化の関心を実感できるような授業を目指して行きます。		
		資格英語 I A	基礎的な英語力の涵養に努めます。英検準2級合格を視野に入れて、語彙力・読解力・聴解力を鍛えます。プリントまたはテキストを使用して演習を重ねていきます。		
		資格英語 I B	更に英語の基礎力涵養に努めます。近年就職に役立つTOEIC対策を視野に入れてまず400点が越えられるように毎回プリントまたはテキストを使用して演習を重ねていきます。		
		資格英語 II A	英語の応用力を養います。受講生は英語の語彙や文法、また読む力、聴く力、話す力に関する様々なタイプの問題に取り組み、まずは英検2級が合格できる力を養います。		
		資格英語 II B	英語の応用力を養い、制限時間内に問題を解く、答え合わせ、解説、単語/熟語テストなどにより、語彙力の定着をはかります。留学に必要なとされるTOEFLの得点40点がクリアーできるだけの英語力をつけることを目指します。		
	資格英語 III A	英語の更なる応用力を養うことを目的とし、いろいろな形式の問題演習を行います。問題練習を積み重ね、TOEIC試験で500点以上を取れる力をつけることを視野に入れて英語学習を進めます。			
	資格英語 III B	やや難しい問題に取り組み、さらに英語力を伸ばすことを目指します。リスニングやリーディングの問題を繰り返し、とりわけ留学に必要なTOEFLの得点向上を目指します。			
	専 門 科 目	ゼ ミ ナ ー ル 科 目	基礎演習 A	この授業科目は、大学での学習において必要となる基礎的な技能や能力を身につけるための最初の導入教育である。大学での学び方、学内施設の利用方法、資料の探し方、資料の読み方、話の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など、大学での学習に不可欠な学習技能（スタディ・スキル）の基礎を習得することがこの授業科目の目的である。こうした学習技能（スタディ・スキル）の習得によって、大学での学習や生活に適應すること、さらにその後の大学での学習を發展の基礎を確立することを目指す。	
			基礎演習 B	この授業科目では、基礎演習Aによって習得した大学での学習技能（スタディ・スキル）の基礎をさらに發展させた学習技能の習得を目指す。資料を批判的に読むこと、資料の内容を的確かつ簡潔にまとめること、資料に対するコメントを行うこと、自分の考えを述べるスピーチ、考えの異なる相手とのディスカッション、客観的、論理的な思考などといった学習技能（スタディ・スキル）を習得し、さらに自分自身の興味の方向性を見定め、専門基礎演習へ導入することを目的とする。	



専 門 科 目	ゼミ ナ ー ル 科 目	専門基礎演習A	この授業科目では、基礎演習や入門科目で学び身につけた知識と大学でのスタディ・スキルを生かして、人文学の分野を専門的に学ぶための基礎的なスタディ・スキルを身につけることを目指す。また、専門基礎演習A・Bで見定めた人文学の中での自分自身の興味の方向性に見合った領域の専門的な学びのために、専門的な文献の探し方、読み方、まとめ方、そして、ディスカッションの方法などの専門的な学びのためのスタディ・スキルを演習形式で学んでいく。	
		専門基礎演習B	この授業科目では、専門基礎演習Bで身につけた人文学を専門的に学ぶための基礎的なスタディ・スキルを生かして、人文学の中で自分自身の専攻を絞り込み、専攻における学習の準備を整えることを目指す。そのためにそれぞれの専攻における研究や学習の方法、研究課題などについて学んでいく。この授業科目の中で学んだことを生かして、3年次からの専攻を選択し、人文学科における専門科目の学びを深めていくための専門応用演習へ導入することを目的とする。	
		専門応用演習A	この授業科目では、専門基礎演習で身につけた人文学科の専門に関する基礎知識やスタディ・スキルを生かして、それぞれの専攻における学びを深めていく。それぞれの専攻における専門的な学びのために、学生個人の発表に基づく、教員からのコメントや他の学生たちとの専門的なディスカッションなどから、各専攻における基礎知識やスタディ・スキルをしっかりと身につけ、それぞれの専攻における学びの中に自分自身の興味や関心を位置づけていくことを目指す。	
		専門応用演習B	この授業科目では、専門応用演習Aで身につけたそれぞれの専攻領域における知識やスタディ・スキルを生かして、各専攻における学びをさらに深めていく。これまでのゼミナール科目で身につけたスタディ・スキルを十分に活用して、主体的な事前学習、発表・プレゼンテーション、ディスカッション、ディスカッションのまとめなどを行い、自分自身の関心や興味を客観的な視点からそれぞれの専攻における研究の中に位置づけていくことを目指す。	
		専門研究演習	この授業科目は、卒業研究に向けて自分自身の研究テーマを明確にし、卒業研究の実施のための準備を行う演習である。これまでの基礎演習、専門基礎演習、専門応用演習を通じて養ってきた研究のためのスキルを生かし、まず自分自身の興味や関心に即して選んだテーマについて調査、研究したことをレジュメにまとめ、報告をおこなう。こうした報告に基づいて学生相互の質疑応答や意見交換、指導教員の助言をうけて卒業研究実施のための準備作業をおこなう。	
		卒業研究	この授業科目では、4年間の学習の最終段階である卒業研究を完成させる。学生は、これまでの基礎共通科目、専門科目、ゼミナール科目などで得た知識や技能を十分に利用し、それぞれの問題意識や関心から個別、具体的な研究テーマを設定し、そうした研究テーマに関する解説書、注釈書、研究書、論文等の基本文献を精読し、問題点を整理、把握した上で、自身自身の見解や考察なども添えて文章化し、学術論文としての卒業研究の完成を目指す。	
入 門 科 目	人文学概論	この授業科目では、人文学について幅広い視野から多角的に学び、人文学についての基礎的・基本的な理解を深め、人文学科で学んでいくための基礎知識を身につけていく。また、人文学科で学ぶことが出来る専攻についての基本的な知識を身につけ、これから4年間の学びの基礎づくりを目指す。 (オムニバス方式／全15回) (25中村圭爾／3回) 人文学の歴史と内容を説明し、現在に生きる私たちにとって、人文学を学ぶ意味はどのようなものなのかを考えていく。 (2 山本幸男／3回) 歴史とはなにか、歴史を学ぶ楽しみ、歴史から知られる事柄などを概観し、先人の知恵に触れる方法を考えていく。 (7 積徹宗／3回) 宗教を学ぶことによって、何が見えてくるのか。さらには、仏教文化を通して人間や社会を考えていく。 (15 益田圭／3回) 心理学というものがどのようなスタンスで人間を見つめているのかを学び、人間のあり方について考えていく。 (19 藤谷忠昭／3回) 社会学の観点から、具体的トピックに沿い、私たちと社会とは今後いかなる関係を結んでいくべきかを考える。	オムニバス方式	
	日本文化概論	日本人の伝統的な季節感・自然観・美意識などを、古典的な文学作品を通して探求する。『古今和歌集』から450年ほどにわたって編纂された勅撰和歌集を中心とする和歌を主要な素材とし、俳諧、物語や随筆、近代の作品も必要に応じて参照する。伝統が、固定したものではなく、変容を重ねつつ形成されてきたものであることを明らかにしたい。さらに、受講者自身が利用しやすいデータベースを使って、その変容のさまをみずから解明するような体験も用意する。日本文化について、問題を発見すること・発見した問題に対する実証的なアプローチができるようになること・自分の発見をまとめることなどに特に留意する。		

専 門 科 目	入 門	日本史入門	日本史の基礎について講義を行う。日本の政治・経済・文化の歴史を、多面的・複合的視点から考察する。そうした考察を通じて、日本の文化・歴史・文学を大学で学習するうえで不可欠な日本史の基礎知識の習得を目指す。すなわち、日本史の主要な出来事や人物について学ぶだけでなく、それぞれの時代に固有の文化・慣習・制度などに関する知識を深め、さらに歴史的な出来事や変化を分析し考察するために要求される方法や概念、論理的思考を身につけるのが目的である。	
		人間の心と行動	人間の心や行動の働きの様々な側面に関して理解を深め、さらに、理解のための概念と支援の技法を習得する。実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深める。心理学の位置づけ、生物学的基礎、心理的発達、感覚、知覚、意識、学習、記憶、言語と思考、基本的動機、情動、知能、人格、ストレスと健康、心理的障害、心理治療、社会的影響、社会的認知などについて概説する。	
		宗教学概論A	本講義では、「宗教」とは何かということを考えるために、個別の「宗教」がどのようなものであるかを紹介しつつ、その特徴について考察を加える。この宗教学概論Aでは、ユダヤ教とキリスト教について解説する。キリスト教はユダヤ教に由来するが、両者の違いはどこなのか、また、ユダヤ教とは異なってなぜキリスト教は世界宗教となりえたのか、という点に重点を置く。また、両者の典礼の差異についても解説したい。	
		仏教学概論A	仏教という宗教の輪郭と特性を学ぶ講義である。ブッダの基本的な立脚点と、思想的方向性を知り、その上で広大な裾野をもつ仏教の共通基盤を理解する。 仏教はインド圏文化圏において発生したため、インド圏文化がわからなければ理解し難い部分もある。と同時に、仏教は経験則に基づき、人間の心身のメカニズムを基にして成立している。このあたりの特徴をうまく把握できなければ、「仏教とは何か」という迷路へと入り込んでしまう。 そのような事情を踏まえた上で、しっかりと体系的な講義を行う。	
		哲学概論	「倫理とは何か」ということを問題とする。前半においては、和辻哲郎の『人間の学としての倫理学』を参照しつつ、古代から近代に至るまでの哲学者らを取り上げ、倫理学の対象と方法とを概説する。後半は西田幾多郎をはじめとする日本の哲学者の思想を、特に他者や共同体といったテーマを中心に紹介し、その学説を批判的に検討する。また、現代における倫理的な諸問題についても適宜補説する。	
	現代社会論	現代社会には少子高齢化、環境破壊、社会的格差など多くの社会問題が存在する。この授業では、そうしたさまざまな現象を読み解くために、これまでの社会学の成果を概説する。さらに、現代社会の特徴に基づきつつそれらの諸現象を具体的に明らかにするとともに、それらの問題に対する制度整備、市民活動、社会運動などの社会の対応について講じる。現代社会について深く理解を得ることで、実際の社会生活において積極的なアクターとなりうる能力の涵養を目指す。		
	キ ャ リ ア 支 援 科 目	主体的学習法	この授業科目は、キャリア支援の第一歩として、大学生活において主体的に学習をするというモチベーションを獲得し、主体的に学習することがどういうことであるかを理解し、主体的に学習する経験を身につけることを目標とする。そのために「学ぶということ」「学ぶことの楽しさ」とはどのようなものかについて学生自身が体験的に考えることにより、学習へのモチベーションや主体的な学習経験の獲得を目指す。この授業により社会人基礎力の「前に踏み出す力」の「主体性」や「考え抜く力」の「課題発見力」「創造力」などの基礎的能力の育成を目指す。	
		プレゼンテーション演習	この授業科目では、主体的学習法で身につけた能力や技能をベースに、自分たちから情報を効果的に発信するためのスキルを身につけることを目指す。そのために自分たちが主体的な学びの中で得た知識や情報などを他の人々と共有するためには何が必要なのかを考えていく。この授業により社会人基礎力の「前に踏み出す力」の「働きかけ力」や「考え抜く力」の「計画力」、「チームで働く力」の「発信力」「傾聴力」などの基礎的能力の育成を目指す。	
		グループワーキング演習	この授業科目では、これまでのキャリア支援科目やゼミナール科目で身につけた能力や技能をベースに、グループとしてさまざまな課題に向き合っていくスキルを身につけることを目指す。そのために数名のグループでさまざまな課題に向き合いその解決をチームとして目指していく。この授業により社会人基礎力の「チームで働く力」の全般や、「前に踏み出す力」の「働きかけ力」、「考え抜く力」の「計画力」などの基礎的能力の育成を目指す。	
		社会人基礎力形成演習	この授業科目では、これまでのゼミナール科目やキャリア支援科目で身につけてきた能力や技能をベースに、社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」という3つの力を形成していくことを目指していく。授業では、「社会人基礎力とは何か」というものをしっかりと位置づけ、演習形式で主体的にさまざまな課題に向き合い、その課題の問題点について考え抜き、またチームとしてそうした問題の解決に向かって努力していく体験をおこなうことで、社会人基礎力を形成していくことを目指す。	

専 門 科 目	キャリア支援科目	社会人基礎力実践	この授業科目では、社会人基礎力形成演習で形成をおこない、身につけてきた社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」という3つの力を、実践的な課題解決を通して、さらに高めて社会で活躍する能力を確かなものにしていくことを目標とする。チームとして課題に向き合い、その課題に関する問題解決のために実践的な活動をする中で、社会人基礎力のさらなるスキルアップをおこない、社会で活躍できる能力と技能の獲得を目指す。	
		データ分析	この授業科目では、官庁統計、調査報告書などの統計資料や、社会や人間に関わるさまざまなデータについて理解するために必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。統計技法を用いた記述統計データやグラフの正確な理解と自らさまざまなデータを分析するための基礎的知識と技術を学び、自分、人間、社会を客観的に理解することを学んでいく。この授業により社会人基礎力の「前に踏み出す力」の「主体性」や、「考え抜く力」の「課題発見力」、「チームで働く力」の「発信力」「状況把握力」などにより磨きをかけることを目指す。	
		海外研修	語学力の向上、国際的視野の育成、異文化出身の人々との交流を目的として、アメリカ、イギリス、中国等の提携校でのサマースクールに参加する。世界中の様々な地域出身の学生とともに研修先の言語を学ぶことによって、また課外活動やホームステイあるいは寮生活を通して、生きた言語と異文化に接し視野を広げることを目的とする。また、そこから日本文化を客観的に捉え直し、再認識することも、この科目のもう一つの目的である。	
	専門関連科目	日本文学入門1	古典文学のうち、比較的親しまれている作品、ジャンルを対象にして、高等学校で学習してきた事項を復習しつつ、古典を鑑賞するための基礎的知識や文法、修辞などについて理解を深める。注釈書を活用して、内容を掘りさげて味わい、作者の事蹟や歴史的背景の調べ方や読解の具体的方法を身につける。日本文学を理解する技術的な習得だけではなく、受け継がれる古典の本質を学び、広く伝統文化の醍醐味を知る能力を培う。	
		日本文学入門2	日本近代文学のなかから、数編の「短編小説」を選んで読んでいく。文学入門といっても、いわゆる「文学とは何か」のような概論的なことはしない。文学はあくまで具体である。作家の創作した作品という具体のなかで、いつ、誰（主人公）が、なにを、なぜ、どうしたかを、作品の内的構造に従ってまず追体験する。短編小説は、短編であるゆえに作者の意図した主題が鮮明に浮かび挙がりやすい。作品の構造と主題が明確な数編の短編を読む作業を通して、「文学」とはどのようなものであるかを認識し、日本文学への入門をする。	
		日本古典文学史	「文学史」とは何だろうか？ 個別的な作品を時代の並びに配置することは何を意味しているのだろうか？ そもそも史的観点から眺めることが何の役にたつのだろうか？ このような問題について考える基礎として、まずは古典の世界への招待を行い、主だった散文作品の一部を鑑賞してゆくことにする。作品に関する知識的な側面を補うために、テキストを利用する。その作品がなぜ書かれ、なぜ読み継がれているのかということを念頭に置きながら、古典の世界を探索していきたい。	
		日本近代文学史	日本の近代文学史は、西洋文学の影響を受け「小説」を中心に展開した。明治20年「浮雲」の誕生から、明治23年「舞姫」は浪漫主義文学の誕生を告げる。しかし明治20年代後半、尾崎紅葉・幸田露伴の復古的な文学も同時開花する。この期には夭折の天才作家樋口一葉の文学も開花している。明治40年の「蒲団」は自然主義文学の誕生を告げる。明治40年代、自然主義全盛と同時に白樺派が誕生する。そして日本的な独自の形態である「私小説」「心境小説」へと偏向していく。昭和2年の芥川の死までの、近代文学史の特色を跡づけ解説する。	
		国語学概論	国語学の分野には多くのものがあるが、主要な分野は、音韻、文字・表記、語彙、文法である。しかし、高校まででそれらに触れることは、一部にとどまっている。そのため、それらの基礎的な知識を修得出来るように、全般的に概説する。その際に、日本語が歴史的にどのように変遷し、現在、話し聞き、読み書きされているものに至ったのかということを含めて、述べるようにする。それにより、日本語の様々な問題について、受講生が関心を深められるようになることを目指す。	
		言語学概論	言語学とは、特定の言語での会話や文章理解を目指す語学とは異なり、ある言語の文法の特徴や、言語と言語の関係などを扱っていく。いわば言語の構造、変遷、系統、分布、相互関係などを考えていくものである。講義では、日ごろ何気なく使っている日本語の問題と関連させながら、言語学にはどのようなテーマがあり、またそれぞれのテーマではどのようなことが明らかにされているのかなど、言語学の基本を学ぶ。	
		日本文学概論	1300年以上にわたる日本文学の歴史を鳥瞰し、その展開を把握し全体像を見極めるための諸問題を、いくつかの作家・作品・ジャンルに焦点を絞り考察する。日本文学を推進してきた原動力を確認して、日本文化の中で文学が果たしてきた本質的な役割を理解する。各時代の主要な日本文学作品が、どのように生み出され、伝播して、さらに新たな展開を促してきたか、その文化的真髄を考える。「日本文学とはなにか」という問いを、具体的な観点から提供していく。	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	漢文学講読A	漢文学を学ぶことは、日本文化を理解するためには不可欠であり、日本の長い歴史における中国文化理解の足跡や、現在の日本を知ることにも繋っていく。講義では読解のための基礎学力習得を目指し、よく知られている格言や故事成語などを読んで、読み方の基礎を学びながら、漢文に慣れるようにつとめます。さらには格言・故事成語などの背後にある歴史や思想にも触れ、また古来日本人々が愛好し、多くの人が教養として身に付けていた漢詩についても解説する。	
		漢文学講読B	漢文学を理解し、中国文化の足跡と学ぶと共に、その影響を受けた日本文化の理解も深めていく。本講では漢文訓読の基礎をある程度身に付けたことを前提に、さまざまな漢文を読んで、さらに読解力を向上させることを目標とする。さまざまな題材からいくつかテーマを選び、漢文を適宜選定し講読していく。漢文で、それぞれのテーマをどのようなものと理解して描いているかを考えながら読んでいく。中国の漢文だけではなく、日本の漢詩漢文も取り上げる。	
		日本美術史	美術作品は、実に様々なメッセージを私たちに発している。一見、事実あるいは実際の風景などをありのままに描いたように見える作品であっても、そこには作者や注文主の意図によって、ある種の虚構が作り上げられていることもある。また過去に描かれた作品の図様(イメージ)がその後も繰り返し描かれて、もとの作品が持っていた印象が重ね合わされることもある。本講義では、日本の美術作品を対象に、文化史・対外交通史なども踏まえながら、作品を見る楽しさを知ることが目的とする。	
		国語表現法	この授業では、日本語表現に関する基礎的な事項を復習しながら、自分の意見を論理的にわかりやすく述べる能力を養う。文章を書く時や話す時に重要になってくる論理的構成力は思考・分析の基本となる能力である。その構成力を高めるためのトレーニングを積みながら、わかりやすい文章の書き方や、意見を述べる方法を学んでいく。文章の基礎力をしっかりとつけないと、最終的には、文章を読む相手や、話を聞く相手の理解と共感を得ることのできる表現力をつけることを目指す。	
		漢文学	漢文学は広く日本文化に吸収され、日本文学の源泉になり、さまざまな影響が見られる。漢文は日本の文化人にとって必須の教養であった。漢文訓読の基礎をある程度身に付けたことを前提に、より多くの漢文を読んで、さらに読解力を向上させながら中国文化を学ぶ。あわせて、その影響を受けた日本文化の理解を深めていくことを目標とする。いくつかのテーマを選び、適宜にふさわしい漢文作品を選定し、それぞれのテーマをどのようなものとして理解し表現しているのかを考えながら講読する。中国の漢文だけでなく日本の漢詩漢文も取りあげる。	
		漢文学史A	中国の文学史を学ぶことで、中国の思想の潮流を知り、さらに日本文化の根底にある思想を理解する。中国の小説の歴史を、各時代の代表的な作品を取りあげながら概観する。明代の『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』などをはじめ、日本人にもなじみの題材を取りあげることを通じて、中国文学の読解のために必要な基本的事項を学ぶ。知識を確実にするためにはできるだけ原文を読んでいくことが望ましい、そのために漢文の基礎的学習を並行して行う。	
		漢文学史B	日本文学の主要な作品においても構想や細部の表現などに中国文学の諸作品の影響を顕著にうかがうことができる。中国文学を外国語の文学としてとらえるのではなく、日本を含めた東アジア文化圏の共通した文化として理解し、あわせて日本文化との交流を考える。中国の小説の歴史を、各時代の代表的な作品を取りあげながら概観する。『遊仙窟』をはじめとした伝奇小説など日本文学に大きな影響を与えた題材をとりあげ、日本における漢文も視野に入れて考える。	
		書道A	漢字文化圏における「書」は独自の発達をとげた芸術である。漢字の発生と各書体の変遷を知り、実技を通じて文字の造形、用筆を習得する。さらに日本文化における書道とは何かを名品にふれることで理解する。漢字を中心とした書道の基本的な表現技法を学ぶために、篆書・隸書・楷書・行書・草書などの練習を行う。また基本古筆の臨書を行い書風の違いを知り書法上の特徴を学ぶ。こうした学びの中で造形芸術を理解する力を身につけ、感性を豊かな書の世界を愛好する精神を培う。	
		書道B	日本文化の原点のひとつでもある「かな」文字について、書く技術を生につけながら美しい造形を考える。古今の名筆を鑑賞し、多様な書美にふれて豊かな日本文化を深く理解する。基本的な練習として「いろは」「変体仮名」「連綿法」などをとりあげ、また基本古筆の臨書を行い書風の違いを知り書法上の特徴を学ぶ。こうした書道の表現・鑑賞の作業を通して、基礎的な書写能力を伸ばし書道芸術を理解する力を高め、感性を豊かな精神を養う。	
		国語学演習A	古典の文法について、基礎的な事項を学習する。具体的には、動詞・形容詞・形容動詞・助動詞・助詞・敬語などを順次取り上げて行くことになる。日本語の文法の分野の中の古典に関するそれぞれの問題点について質疑を多く繰り返すことにより、文法学習経験者・未経験者を問わず、すべての受講者が文法に関する基礎的な知識を修得し、文法的な考え方が出来るようになることを目標とする。また、理解の不十分な部分に対しては、教員がより詳しく説明することによって補うように心がける。	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	国語学演習 B	受講生に、特定の語彙、特定の国語学のテーマ、もしくは特定の国語学に関連する文献の一部分を担当範囲として指定するなどの形式により、受講生が、多くの辞書を引くことを第一として調査し、それらの形式に応じた、その他の様々な調査を加えて発表する。そして、他の受講生からの質問を受け、それに答えることを繰り返して、まずは学生間で結論を出す。その後、それに対して、教員が補足することによって、最終的な結論に導く。また、事情によっては、受講生が担当範囲について、後にレポートとしてまとめることもある。
		映像と文学	文学を読む時も、映画を観賞する時も、私たちは〈物語〉を楽しむ。しかし、その〈物語〉も、文学の場合は文字を媒体として読者に伝えられるのに対し、映画の場合は映像と音によって鑑賞者に伝えられる。本授業では、文学作品と映像作品を比較し、言語表現と映像表現それぞれの特色について考える。同時に、映像と文学がジャンルを越えて交流することで、どのような表現が生み出されてきたのかを、両者の歴史を振り返りながら確認していく。
		浪速の文学	浪速(現在の大阪市とその周辺の地)地域には様々な伝承が残されている。地名や歴史上の人物をめぐるそうした伝承は、なぜ語り継がれ残されてきたのか。この講義では、浪速を中心に隣接する諸地域にも目配せしながら伝説・伝承の世界を考察し、地域文化への理解を深める。情報通信分野の急速な発展によって文化の画一化が予想以上の早さで進み、地域を見つめる力が劣化しつつある。しかし、地域文化は日本文化の礎となるものであり、その個性の認識は新たな文化を生み出す動機となる。本講義は、その一翼を担うことをめざしている。
		文化資料論 A (日本文学)	古い時代の書物に触れながら、ながく受け継がれてきた古典の世界を知り、どのように文学作品が生み出され、どのように伝えられてきたか、さらに将来に向けてこれらの文化財をいかに残し伝えていくかを考える。相愛大学の特殊文庫である「春曙文庫」を例にして文献資料の書誌的な考察を試みる。文庫の成立、内容構成、田仲重太郎の枕草子研究、その文献学的研究などを検討して、文庫の全体像、価値について理解を深める。そのうえで日本の文献学の特徴などを学び、書物についての様々な知見を習得するとともに、自らが学んでいる相愛大学の伝統を知ることができる。
		文化資料論 B (日本文学)	近代文学に関する文献資料の書誌的な考察を試みる。作家が書いた原稿は活字化され、雑誌や新聞に掲載されたり、さらに単行本に収められたりして、読者の手に渡る。また、草稿や原稿などの自筆資料から、作家が作品を完成させるまでの試行錯誤の様子がみえてくる。近代における文学作品のあり方・形態やその成立過程を調査することで、作家や作品に対する理解を深める。文学関連の文献資料に慣れ親しみ、近代文学についての幅広い知識をもつことで、その魅力を知り、文献の基礎的なデータ処理と研究の方法を身につける。
		日本文化特殊講義 (日本文学)	日本の一近代作家に焦点を絞って、その作家の作品を何作か読む。一作品だけでは、その作家の全体像は見えてこない。複数の作品を読むことによって、作品が他の作品を相対化し合っただけでなく、芥川文学の全体像は見えない。「羅生門」の後日譚「偷盗」は有名だが、「羅生門」だけでは芥川文学の全体像は見えない。「羅生門」の後日譚「偷盗」、芸術至上主義の「地獄変」、童話の「蜘蛛の糸」などを合わせ読むことによって、始めて芥川文学が見えてくる。この講義は個別の作品の精読だけでなく、あくまでその作家の文学全体像を解明するものである。
		日本文化史 A	文化が人間を人間たらしめる限り、文化の成り立ちを理解することは、人間の質を高める上で大きな意味を持つことであろう。この講義では日本文化の基底を構成する三つの要素、すなわち儒教・仏教・神祇の内実を考察し、これらが有機的に関連しつつ、日本文化の特質を形成していく過程を概観する。特に儒教と仏教は外来文化として日本に伝来したため、その受容と定着の様相は、日本文化のあり方を見る上で重要な素材となる。講義ではこの点にも注目し進めることにする。
		日本文化史 B	日本文化史 A を受けて、外来文化(儒教・仏教)の日本的展開を見通す。固有の文化と認識される神祇には独自の論理や体系性がなく、外来文化をさほど抵抗なく受け入れ同居することになる。そのため、日本の文化には座軸がないと指摘されているが、果たしてそれが負としてのみ作用しているのかどうかを歴史の展開の中で検証する。国際化が進むなかで日本の立ち位置が今後重要になってくる。諸外国の人々との交流を円滑に進めるためにも、日本の個性認識は不可欠である。この講義がその糧となることを期待している。
		日中文化交流史	日本と中国の二千年にわたる文化交流の軌跡を辿り、その意義を考察する。まず、文化交流の時期区分を行い、エポックとしての遣隋使・遣唐使に注目して、この交流に貢献した著名な人々(小野妹子・阿倍仲麻呂・吉備真備・鑑真など)の行動を取り上げ、その後の民間を中心とした交易活動(日宋貿易・日明貿易)にも触れ、日中相互の文化受容とその変容過程を探究する。「温故知新」「史を以て鑑とし、未来を展望する」というのがこの講義のモットーである。
		日中比較文化論	日本と中国の文化の原点及びその基盤を様々な角度から比較分析し、それぞれの文化の特質を究明する。素材とするのは、詩歌、小説、年中行事、冠婚葬祭、風俗習慣など。こうした文化比較は、両国の違いを明確にするとともに、共通する事項の抽出にもつながるであろう。講義では、こうした日中両国の文化のあり方を分析検討し、相互理解のための糧を得ることにする。比較文化は、複雑化する日中を含めた国際関係に対応するための重要な手立てになる。

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	日本の哲学A	江戸時代以前にも日本には伝統的な思想があった。しかし、明治以降に西洋から新しい思想、「哲学」が入ってきた。そこで、日本の伝統的な思想と西洋の「哲学」は衝突しあうことになる。この「西洋、対、日本」という問題は、明治維新から150年経った現在でも、まだ尾を引いている。日本の思想を概観しつつ、西洋の対比との対比を織り交ぜながら、日本の哲学の基本的な枠組みを学ぶ。
		日本の哲学B	西洋哲学が輸入されて以来、近代日本が直面した「西洋、対、日本」という思想的な問題は、日本独自の哲学を生みだしていく。その嚆矢が西田幾多郎である。仏教的世界観が西洋哲学を包み込む独自のスタイルは、田辺元、西谷啓治といった京都学派といわれる潮流を生み出していく。京都学派は過去の遺物ではない。近年行き詰まりを感じている西洋文化圏から、仏教思想を背景としたこの思想的潮流は大きな注目を集めている。このような京都学派の諸思想を、その将来的可能性も含めて学んでみたい。
		日本思想史	日本の社会や文化を形づくってきた思想の歴史に関する講義を行う。それぞれの時代の思想はどのようにして形成されたのか、どのような影響を社会や文化に対して及ぼしたのかなどといった問題を、社会的背景を踏まえて考察するのみならず、他の社会や文化との関係をも視野に入れて日本思想の特徴を明らかにする。そうした考察を通じて、それぞれの時代の思想を深く理解するのみならず、それらの成立事情・条件、さらには日本思想の通時的特質をも把握できる能力を身につけることを目指す。
		文化資料論A（歴史文化）	歴史像を描くのに不可欠な文字資料の語形態を、歴史的な変遷の中に位置づけて整理分類し、そこに含まれる様々な情報を読み取る手法を解説するとともに、主要な資料の読解を試みる。取り上げるのは、金石文、木簡、古文書、編纂物(正史・法令集・詩歌集・辞書・類書など)、日記、記録、紀行文、物語文学など。これらの読解を通して、外来文化としての文字(漢字)の受容過程を考察し、日本文化の特質の一端に触れることにする。
		文化資料論B（歴史文化）	日本の文化に大きな影響を与えた中国の古典、とりわけ各王朝によって編纂された正史を取り上げ、それぞれの解説とともに、ここに記される日本関係記事を抽出し、日中間の文化交流の実態に触れる。対象とするのは漢文であるため、読解には一定の訓練が必要となる。講義では、そのための基礎的なテキストを適宜提供し、音読や書き取り作業を通して漢文の素養が身につくよう配慮する。外国語である漢文をいかに日本人が読解したかを追体験することが、この講義の目的の一つでもある。
		日本文化特殊講義（歴史文化）	この講義では、日本歴史の諸問題、とりわけ日本の社会や文化の変革期の様相を取り上げ、何が原因で変化が起きたのか、それが結果としてどう展開し落ち着くのか、という歴史のダイナミズムを、文獻のみならず遺跡や出土物などの考古学資料、絵巻物などの絵画資料等を用いて総合的に考察する。変革は常に必然によって生み出され、そこには社会を営む人々の叡智が宿されている。歴史を読み解く楽しさを味わい、日本文化への理解を深める。
		大阪文化入門A	大阪府内には、大学が数多く存在するが、中心部の大阪市内に限ればごく少数である。その一つである本学は、それゆえ大阪の歴史や文化に関わる研究、教育に強いこだわりをもつ。その一環として本講義を位置づけ、入門編として2回生から開講する。“大阪は面白い”という評価がなされるが、面白さを解明するには、街の成り立ちや自然、言葉、大阪人の特性、東西文化比較などを幅広く学ぶ必要がある。講義ではそれぞれを掘り下げ、相互の関連を明らかにすることで、大阪への興味関心をいっそう高め、深めることを目的とする。
		大阪文化入門B	ものの売り買いや政治、人々の交流、さらにそのあつまりを通して、都市は独自の文化を創ってきました。しかしながら、この時間軸上の都市にたいして、今日、都市は空間軸上にグローバル化し平板なものになって、均一化し、本来の姿を見失っているように見えます。都市の魅力は何よりも世界に発信する固有の美しさや精神性をもつことにあります。この視点から、本講では大阪文化のなりたちを大阪にみる固有の自然と歴史、そこに生きた人々、その痕跡、ドラマを通して、考えてみます。
		サブカルチャー入門A	本講義では、サブカルチャーと呼ばれる文化の中でも、主に活字媒体によるものを扱う。具体的には、西洋起源であるSF(科学小説)、ファンタジー(空想小説)などの翻訳小説が、いかにして日本文化の中に導入され、文学のサブジャンルとして確立していったのかを、明治以降の日本文化の歴史を踏まえながら概観する。またそれらの小説群を足場に形成されていった日本人作家による作品群についても、明治、大正、昭和の時代背景と関連づけながら、概観する。
		サブカルチャー入門B	アニメ・マンガ・ゲームなど、いわゆるサブカルチャーと呼ばれる分野は、今や日本の誇るべき文化として、国内外に広く浸透している。この新しい文化の諸相を概観していく。特にアニメ・漫画・ゲームを中心にその歴史・作品を取り上げて、日本の新しい形の文化を知る足がかりとしたい。単に作品の紹介ではなく、社会学・文化研究の分野の理論を援用しながら、サブカルチャーを文化として論ずるための基本的な知見を養う。

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	中之島文化論	堂島川と土佐堀川に挟まれる中之島は大阪商人淀屋常安によって開発され、堂島のこの米市場のにぎわいを『撰津名所図会』は今日に伝えている。商都大阪発祥の地といえるこの場所は、江戸期に各藩の蔵屋敷が立ち並び、福沢諭吉が来阪したのは豊前国中津藩のこの堂島蔵屋敷であった。明治政府は日銀大阪支店をこの地に置く。中之島図書館、大阪市中央公会堂が民間の篤志をもって建てられる。大阪の歴史を証言するこの地に焦点を当てて、都市大阪の歴史的なりたちを考える。	
		現代大阪文化論	大阪は、独創的な街である。なにゆえにそうなったのかを解明するには、歴史を知る必要がある。歴史を追えば、独特の文化形成が見えてもくる。これらを正統に評価せず、先入観でもって大阪を一面的に判断しているケースが少なくない。思い込みは視野を狭めるだけに、その私扶も本講義の一つの目的とする。講義では、大阪の独自性、都市の性格、国際的な位置づけなどを探りながら、「いま」という視点からも切り込み、今日の街の変化やさまざまな現象面、大阪人特有の気質、ことばの変化、笑いの本質などの分析をはかっていく。	
		大阪ビジネス論	“経済の太陽は西から昇る”と表現されたように、大阪のビジネスは勢いを有していた。本講義は、大阪のビジネスが果たしてきた役割を明確にし、日本を先導してきた企業、商売、世界的な発明の数々などを具体例で示す。また、単なる事例の説明にとどまることなく、開発にいたる着眼点や着想、可能にした行動スピリッツ等も考察する。大阪には、規模は小さくても「知られざる有名企業」が少なくなく、そうした事例も紹介する。これらを通して、就職という視点で、大阪の地や大阪企業を見つめ直すきっかけになればとも考える。	
		上方落語論	江戸初期の人、安楽庵策伝に始まるといわれる落語は、江戸と上方（京都・大阪を中心とした地域）で盛行し今日に至っているが、この講義では、上方落語の成立と展開を当時の関係資料や著名な落語家の行動分析をもとに実証的に解明し、上方文化に占める落語の位置を確認して、地域文化理解の一助とする。担当するのは現役の落語演者。代表的な噺を講義の中で演じ、落語を聴くという体験を通して寄席芸能の本質に触れる機会とする。	
		文化資料論A（大阪文化）	商都大阪の形成に深い関わりをもつ建物や場所を歴史の資料として取り上げ、それらの建物や場所において果たされた役割を都市大阪のなりたちから検証してみる。取り上げる資料としての建物や場所はつぎのとおりである。上町台地、難波宮、石山本願寺、大阪城、中之島、道頓堀、船場、懐徳堂、木村兼葎堂、適塾、通天閣、旗の酒場、御堂筋、JR大阪駅、阪急梅田など。大阪が今日に伝える遺産をこれらの資料に辿って、都市大阪がもつ真の意義を考える。	
		文化資料論B（大阪文化）	ネットを検索すれば、必要とする情報が即座に入手できる時代である。“便利さ”に慣れることは、“安易さ”を親しむことに通じる。本講義は、活字を柱とする資料の探求、読み解きに重点を据えた授業を展開する。大阪の町、食文化、商いや気質、ランドマーク、大阪弁など、それぞれのテーマごとに仮説を立て、資料を探り、推察し、得た知識をつなげ、組み立てるといったプロセスの重要性と面白みを学ぶ。これらを通して、自分の考えを構築できるようにする。	
		日本文化特殊講義（大阪文化）	いわゆる「天下の台所」は近世大阪の繁栄を語ることばとして今日に伝わる。江戸期の大阪は水運に支えられる物流の拠点を占める。経済、学問、芸能という三つの分野にまたがって都市大阪が形成される。なかでも淀屋の関所（財産没収）、懐徳堂の創設、近松門左衛門の人形浄瑠璃はこれらを主張する事件、遺産として名高い。こうした歴史の意味を踏まえながら、多面的な角度から生活的な視点をも交えて大阪の文化を考察し、その特質を明瞭にしてみる。	
		日本のSFとバーチャル文化	本講義では、本来西欧起源であるSF小説が日本文化の中でどのように読まれ、また日本人作家を育てていったのかを概観し、明治・大正・昭和のそれぞれの時期の日本のSF小説の特徴を明らかにする。また、現在、サブカルチャーとして隆盛しつつあるバーチャル文化を、SF小説の延長線上の文化として捉え、その文学的意味を考察すると共に、情報化社会の到来が、文学および文化にいかなる影響を与えるのかを探る。	
		日本社会とメディア	日本社会は、かつて現在もメディアに大きく左右されてきた。テレビ・ラジオ・新聞をはじめとしたマスメディア、あるいはパソコン・携帯・ゲーム機などの新しいメディアもおおきな影響を与えている。この講義では、日本の社会がメディアとともにどのように発展してきたのか、あるいはメディア自体の発展が日本社会にどのように影響を与えてきたのか、社会とメディアの歴史・概要を資料とともに考察していく。	
		日本のアニメ文化	アニメはもはや子ども向けの娯楽ではなく、日本が世界に誇る文化の1つとして国内外で高く評価されている。またアニメにまつわる社会現象・流行もさまざまな形となって現われている。こうした日本のアニメの現状を多面的に考えていくため、社会的なブームとなった作品の分析、アニメと社会との関連性、熱狂的なファンの生態や活動の様子などをおこなっていく。作品自体と作り手・ファンなどを包括的に捉えて、アニメというものを深く考えていく。	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	日本漫画史	現在、国内外に広く親しまれ大きく発展してきた日本の漫画は、いまでこそ世界に誇る日本文化の1つとして認識されているが、これまで子どもの娯楽として軽んじられてきた。その歴史の中で日本の漫画が、どのように生み出され見いだされていったのか、そして今日のような発展と多様化、社会的な浸透がいかんにして成し遂げられたのか、資料と共に考えていく。漫画独特の表現方法や、雑誌・貸本・単行本・ネットなどの出版形態・流通形態の変化、あるいは内包されるテーマ・メッセージの変遷や多様化などを読み解いていく。	
		文化資料論A (サブカルチャー)	本講義では、明治以降現代に至るSF文学、幻想文学など、現代ではサブカルチャー文化と位置付けられている分野に関する小説、評論、その他の歴史的資料を題材にして、サブカルチャー文学の歴史を概観する。主としてSF小説、幻想小説(ファンタジー)のジャンルの資料を取り上げるが、特定の作家や時代に偏ることなく、出来るだけ客観的な視点でもって資料を選択し、サブカルチャー文化が日本文化の中で持つ意味について考察できるようにする。	
		文化資料論B (サブカルチャー)	アニメや漫画、ゲームなどのサブカルチャー作品は現在非常に数多くの作品が世に出ているが、それらのほとんどは学術的な批評・検討の俎上にあげられることがないままにされている。これまで軽んじられてきたサブカルチャー作品を、表現、メッセージ性、ファンの反響などさまざまな面から問い直すことは、日本の新しい文化を捉え直す契機となるはずである。1つ1つの作品を作品の意味を問いかけ、新しい日本文化をサブカルチャーの面から理解していくことを目指す。	
		日本文化特殊講義 (サブカルチャー)	現代の日本において、アニメ・漫画・ゲーム・SFなどのサブカルチャーは、若者を中心に広く浸透してきている。さらにライトノベル・コスプレ・同人誌なども幅広く多岐にわたって広がりながら親しまれている。この文化を深く学ぶために、アニメ・漫画・小説等の作品の詳細な分析、解説、並びに比較検討などを交えて、総合的にサブカルチャー作品を読み解いていく。世界に誇るサブカルチャーに深くふれることで、日本をより深く知ることを目指す。	
		現代文明論	現代文明の知的基盤は科学であるという仮説のもとに、科学の誕生と変遷をたどり、科学革命によって生じるパラダイム変換などについて学ぶ。また、現代文明の特徴を明らかにし、科学とテクノロジーが現代文明をどのように規定しているかをみる。さらに、本来は西欧起源の科学文明が、明治以降、どのような形で日本に取り入れられ、変貌していったかを概観し、科学文明が日本文化に与えた影響までを考察する。	
		宗教学概論B	本講義では、「宗教」とは何かということを考えるために、実際の個別の「宗教」を紹介しつつ、その特徴について考察を加える。この宗教学概論Bでは、宗教学概論Aにおけるユダヤ教-キリスト教の知識をもとにしてイスラム、アジアの宗教について解説する。特に、ユダヤ教、キリスト教、イスラームのいわゆる一神教の共通する特質について考察を深めたい。また、アニミズムなど未開宗教に関する諸概念についても、説明していく。	
		仏教学概論B	本講義では、仏教学概論Aを受けて、世界に大きく展開した仏教を学ぶ。特に大乘仏教ムーブメントの必然性とその目指した理念を中心に講義を進める。「空」「唯識」「浄土教」「密教」などの各体系を学び、その相互関係性を理解することによって、これまで仏教がどのように「社会性」や「地域性」や「他者性」に取り組んできたかを考察する。そして、大乘仏教のひとつの到達点ともいうべき日本仏教について概説する。日本仏教の特徴である「宗派仏教」の特徴についても理解を深める。	
		仏教と生活	(概要)本講義は、「衣・食・美」をテーマに、仏教の衣文化・食文化・仏教美術を学び、さらには体験もする。 (オムニバス方式/全15回) (46蔵田弥生/全5回)「衣文化」に関しては、法衣や袈裟がもつ思想性や儀礼性や聖性を知り、実際に染織を体験する。 (47山崎恵一郎/全5回)「食文化」では、食の大切さをもう一度見つめ直し、食生活の乱れは身体や心の乱れに直結しているという仏教思想を学ぶ。そして典座料理の体験もする。 (45宇佐美直秀/全5回)「仏教美術」は、その起源から展開を体系的に学び、さらには絵画や造形などと直接向き合う。そして修復技術の基本を体験する。 これらの学びは、やがて自らの進むべき専門分野を選択する手がかりとなる予定である。	オムニバス方式
		パーリ語入門	パーリ語は、古代インドの地方口語に起源をもつ俗語で、現在はスリランカ・ミャンマー・タイ・カンボジア・ラオスなど南アジア・東南アジア諸国の上座仏教徒の共通語として使われている。ブッダは民衆にわかる俗語で話され、弟子がそれを口伝し、後に書写されたので、パーリ聖典にはブッダの教えが古い形で残っている部分もあり、パーリ語を知ると、仏教がより深く理解できる。授業では、まずパーリ語について概説し、実際に短い偈文を唱え、有名な聖典を読みながら、基礎文法を学ぶ。	
サンスクリット語入門	サンスクリット語(梵語)は、完成された語の意味で、印欧語族のインド・イラン語派の言葉である。規範文法が作られ、上層階級の教養語となったので、仏教でも一部の部派は後代にサンスクリット語を取り入れ、大乘経典は俗語の混じった仏教梵語で書かれた。梵語は中国や日本にも早くから伝わり、密教の陀羅尼や真言は梵語に由来する。授業では、サンスクリット語の初歩を学び、インドのデーヴァナーガリー文字(日本で見る梵字と源泉は同じ)を学び、サンスクリット語の短い文章を読む。			



専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	宗教儀礼概論	宗教（教団）において、儀礼は欠くことのできない要素である。確かに、具体的な現場での執行においては、個々の儀礼に関する様々な知識（や経験）が要求されるだろう。しかし、執行者としての真価が問われるのは、新たな儀礼の創出や、既存の儀礼の改変が求められた場合に、儀礼そのものに関する、位置づけ（在り方）や組み立て方、その作用、そして儀礼をめぐる力学など、執行以前の段階ですでに要求される本質的な理論を有するか否かであろう。その様な観点から、本講義は、常に「儀礼とは何か？」を念頭においたプログラムとした。世界のさまざまな宗教の儀礼を俯瞰する予定である。	
		宗教社会学	信仰の有る・無しのようなアンケート項目で測定すると、日本の宗教人口比は30%前後の線に落ち着く。一方、USAの宗教人口比が常に80%を超えている点と比較して、日本人は「無宗教」と言わんばかりの論説が一昔前までは結構あった。だが、毎年、確実に8千万人を超える初詣人口一つをとっても、この「無宗教」呼ばわりには疑問がある。そこで本講義では、キリスト教をモデルにした宗教性（religiosity）ではなく、いわゆるスピリチュアリティと呼ばれる宗教的感性のほうから、ことに「宗教的無党派層」が隠しもっているらしい宗教心の内実を問いかけていくであろう。このことを神道や儒・仏・道教、さらにはキリスト教やイスラムをも含めて概観していく。	
		宗教史	宗教は、人間の生活に深くかかわって機能しつづけてきた。宗教の歴史を学ぶ時、特定の宗教の経緯を学ぶ特殊宗教史と、広く宗教一般の歴史を学ぶ一般宗教史に大別できるが、いずれにせよその起源は、死の自覚や宗教儀礼など、人類がヒトとして進化する過程で成立してきた。このような世界のさまざまな宗教を、アニミズムやシャーマニズムなどに代表される多様な形態の原始宗教、民族の統一や古代国家の形成とかかわりながら成立したゾロアスター・ジャイナ教・儒教・神道・ユダヤ教・ヒンドゥー教などの民族宗教、国家・民族・地域を超えて展開したキリスト教・イスラーム・仏教の世界宗教に分類し、その成立の歴史や特徴を学ぶ。	
		仏教史	仏教は、釈迦が悟りを開いて以来、アジアの諸地域において、それぞれの地域の文化や社会制度の影響を受けて変遷しながら、今日の世界宗教として広く信仰をされるに至った。その歴史的過程を学ぶのが仏教史である。 仏教史は、仏教教学史と仏教教団史に大別できる。教学史では仏教思想が釈迦に創唱されて以来、どのようにその教えに対する理解が深められてきたかを学ぶ。また、教団史では、仏教が伝播した社会と相互に如何に影響し合い、その結果仏教徒やその教団がどのように変化してきたか、すなわち仏教自身の歴史の変遷を学ぶ。	
		真宗史	親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、門弟や子孫に受け継がれ展開していった。なかでも大谷廟堂から発展した本願寺は、覚如上人や蓮如上人によって教線が拡大され、社会的にも大きな勢力となったのである。戦国時代を経て江戸時代に至ると、本願寺教団は封建的な政策に組み込まれその立場を保ち、幕末の動乱と近代化を経験しながら現代へと繋がっている。 この講義では、浄土真宗の歴史と展開を、「親鸞聖人の生涯」「大谷廟堂と本願寺」「蓮如上人と教団の発展」「近世の本願寺教団」「本願寺教団の近代化」等の項目にしたがって概説していく。	
		日本仏教史A	インドで成立した仏教は、中国をはじめとするアジア諸地域を経由して、日本列島にもたらされた。列島に住む人々は仏教とのであいを体験することによって、何を受け入れ、どのように変化したのだろうか。また、アジア諸地域で多彩なひろがり示した仏教は、日本に受容され、いかにその姿を変えていったのか。 こうした仏教の受容と変容は、決して遠い過去の問題にとどまるものではなく、現代の私達の日常とも深くかかわるといえよう。現代の視点より、日本仏教のなりたちの歴史をともに辿っていききたい。	
		日本仏教史B	寺院は、人々が仏教をもとめ、仏教とであう場所である。江戸時代、幕府の政策によって「寺壇制度」という枠組みがはめられ、寺院の活力が弱まったと評されてきた。しかし、この時期の仏教は、日本の津々浦々まで広がり、生活の中に深く根をおろしたともいえよう。そして、この制度は、今もなお大多数の寺院の基盤として機能し続けているが、その一方で「壇家制」の崩壊も急速に進んでいる。 寺院の現状そして将来像を見つめるために、日本仏教の中の寺院の歴史を考えていく。	
		仏教思想論	仏教が人間存在を通じて社会とかかわる接点に位置するのが、戒律の領域である。仏教徒たちは、様々な時代や地域の中で仏教に根ざして生き、そして独自の社会を形成していった。戒律は、その背景を踏まえ、人々の具体的な方向性を指し示してきたのだ。 しかし、今日の日本仏教では、戒律は有名無実化してしまった感さえある。そこで、改めて「仏教徒の生き方」をさぐる意味において、戒律とは何か、戒律の変遷、さらには戒律が私たちの日常とどのように関係するのかなど、幅ひろく考察する講義を行う。	
		宗教哲学	宗教哲学は、いったん自己の信仰をカッコにいれて、宗教の本質の概念把握を目的とする。宗教のグローバル化が強調される現代においては、宗教間対話の基盤を構築する必須の知的営みである。古来から宗教哲学者達が、「宗教」という概念をどのように把握してきたかを辿り、「宗教多元主義」、「宗教」概念の再構築」といった現代的問題について講じる。	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	比較宗教学	本講義では、まず19世紀に始まる比較宗教学がこれまでに提示してきた、宗教を考察する基本的な諸概念を解説する。その際、タイラー、フレーザー、デュルケムら古典的な比較宗教学者の学説も紹介していく。また、授業期間の後半では、M. エリアーデなど20世紀後半に活躍した宗教学者の言説、さらにT. アサドラによる「宗教」概念の問い直しなど、現代の最先端の比較宗教学の議論がどのようにになっているかについて考察してみたい。	
		宗教心理学	「宗教と人間行動、また人間の価値観と宗教意識について理解する。」 現代の人々の意識の中で宗教とはどのような位置を占めているのだろうか。また宗教に関わる意識は時代とともに変化してきたのだろうか。また、科学技術の発展に伴う生命や死のあり方の変化、こうした変化は人々の意識にどのような影響を与えているのだろうか。こうした問題に対して心理学の領域から検討を加えていく。こうした検討から人間と宗教の関わりについての理解を深めていく。また、日本の土俗的宗教のメンタリティにも言及していく予定である。	
		仏教と社会福祉	仏教における社会福祉的な活動と、現代日本における社会福祉政策との原理的および方法上の相違点について考察する。まず、イギリスの救貧法に始まる社会福祉政策が、国民国家の成立とともに整えられていった経緯を見る。つぎに、日本において教団や私度僧を含めた仏教者らが行った社会福祉活動を歴史的に概観するとともに、現代の寺院における様々な取り組みを紹介する。そのうえで、両者の基盤となる思想や教理を把握し、比較する。	
		身体論	身体技法によって精神を調える講義である。古来、人間は「身体をどのように使うか」ということに取り組んできた。それは、近代自我成立以前からの「人類の知恵」である。それは、禪仏教や古典芸能や古武道など、さまざまな領域で発達してきた。本講義では、そのような身体技法の実践と、その技法が脳や神経や心に与える影響を解明していく。医学的エビデンスや生理学に基づいて、行為と心の関係について考察するのである。さらには、臨床心理学や認知行動療法の領域とも関連づけていくユニークな講義となる予定である。	
		真宗学概論	親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えを体系的に学ぶ。悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての釈尊の教え、親鸞聖人が歩んだ念仏の生活といった点を、親鸞聖人の著述を通して概観する。講義では、主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）にもとづいて、浄土三部経の教えと真宗教義の概要を正確に把握、理解できるように学習する。親鸞聖人の求道と、その結果出遇われ明らかにされた真実の教えを学ぶことを通して、仏教の思想を自身の問いとして思索していく姿勢を考えていきたい。	
		真宗聖典学	親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えの構造は、浄土三部経とその解釈書としての七高僧の論釈を根底として成り立っている。そこには真宗教義の肝要が説き示されており、親鸞聖人における救済の根拠を窺うことができる。講義では、聖典・聖教の特徴や親鸞聖人の聖典拝読の姿勢に留意しながら、浄土三部経の成立、大乘仏教の展開をふまえて、三部経と七高僧の論釈について、その概要を学ぶ。聖典・聖教を拝読することを通して、自身の生き方を問うという視点から、真宗教義の内容・特色を考察したい。	
		宗教社会活動論	人間が集まりその生命を営む場から宗教は発生した。宗教は人間が集まる場において、時には支配的に、時には社会の底辺で、様々な働きをしてきたのである。さらに言えば、人間の精神生活に対する働きだけではなく、祭り、政治、福祉など人の社会生活とも密接な関係を持ってきた。 本講義では、宗教が人間の社会生活の中でどのような働きをしてきたか、現在どのような働きをしているのかを具体的な事例から学ぶ。また、これからの社会においてどのような働きが望まれるのかを共に考えていく。そして、単に理論・講義にとどまらず、実際に社会活動の現場を体験してもらう予定である。	
		ビハラー演習	演習では将来ビハラー活動をするを前提に、自己理解を深める演習を行う。MBTIという心理検査を通して、自己のタイプを知り、過去の自分を振り返る作業をする。受講生全員でワークを体験するため、自己理解を深めながら他者理解を深めることもできる。また、本願寺派のビハラー拠点であるあそかビハラークリニック（終末期の癌患者への緩和ケアを提供する有床診療所）やビハラー本願寺（ユニットケア型特別養護老人ホーム）を見学することで、ビハラーの実践を学習する。	
		真宗教学史・教団史	親鸞にはじまる浄土真宗は、その没後、門弟によって各地に門流が形成され、それぞれに独自の展開をなした。覚如は親鸞廟所を本願寺とし、独自の教団教学を確立した。蓮如の時に全国規模の教団組織へと発展し、戦国期における一揆闘争を経て、東西両派に分派し、徳川幕藩体制の下におかれた。幕府の文教政策により宗学研鑽が進み、各派が独自の教学体系を呈することとなり、本願寺派においても学説が緻密化し分派した。これらの経過を通して、時代と教学展開の関係、本願寺教団の特徴について明らかにする。	
		真宗儀礼演習	本演習では、基本的な勤式の知識をもった者が、さらに本願寺派の本格的な声明作法の研究に進む基礎を提供する。その際、一般寺院でよく用いられる主要な勤行作法（正信偈、礼讃、十二礼等）の習得と「無量寿経作法」を執行する技量を身につけることを目標とする。また、それと並行して、善導大師や蓮如上人の御心を通して、声明における心得を講じ、声明の基本的な知識、序破急の概念、律曲、中曲、呂曲の区分、博士の誦譜法を解説する。また、中間テストなど適宜実演の試験を行い、実践力を高める。	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	真宗学特殊講義	浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、広く知られているように、自己の生涯についてはほとんど語っていない。そのため、逆に後世多種多様な「親鸞聖人像」が形成され、流布していったわけである。この講義では、こうして伝えられた「聖人像」と、中世の社会の中で生きてきた歴史的存在としての親鸞の実像との両者を議論していきたい。 最初に、今日までの親鸞伝をめぐる研究史をひもとき、次に親鸞の生涯のいくつかの「できごと」をめぐって、多角的に探ってみることとする。	
		真宗伝道演習	浄土真宗における伝道について、基礎的・体系的に学ぶ。まず、伝道実践の基礎として、仏教における伝道の歴史、親鸞聖人における伝道の姿勢と内容を研究する。また、伝道の根柢となる真宗教義の基本を理解し、具体的な伝道方法の構成や、発声法・修辞法などの会話・対話を含めた実践方法についても考察する。基本的には、親鸞聖人の「自信教人信」「御同朋御同行」の姿勢を通して、生老病死の実際の問題などの自らの課題と他者への関わりを常に念頭におき、現代人の心に届く伝道のあり方を考究したい。	
		寺院運営論	現在、日本では自己と他者との在り方や死生観が大きく変わろうとしている。これまで寺院が基盤としていた檀家制度や、葬儀・法要や、墓などといった形態が崩れていくことは明らかである。まさに日本仏教の変節期に直面しているのである。 そして、その状況に呼応するかのごとく、現在、新しい仏教のムーブメントが起こっている。ユニークな寺院や、ユニークな僧侶や、ユニークな仏教徒が同時多発的に登場し、それぞれが宗派などの枠を超えてつながり始めている。これからの寺院のありようを考察していく講義を目指す。 それはすなわちこれからの寺院運営の指針を学ぶこととなるはずである。 また、本講義では宗教法人への理解や、経理や税務についての実務についても論じていく。	
		仏教文化講読1	平安末期から鎌倉後期にかけ輩出した新仏教は、今日に至るまで日本人の魂の救済を図って来たといえる。そのなか、法然の行実を詞と絵で表した『法然上人絵伝』を取り上げ、その念仏思想の特色を押しさえ、法然の念仏が当時の人々にどのように受容されていったのかを確かめたい。さらに、法然の法脈に連なる一遍について、その行実を詞と絵で表した『一遍聖絵』を取り上げ、その念仏思想、また民衆教化の有り様について学ぶ。『聖絵』は鎌倉時代の人と社会を活写したものであるとして資料的価値は高く、この点についても留意しながら解説する。	
		仏教文化講読2	「こころをかたちにあらわす」、これが仏教文化の本質である。つまり、伝統とされてきた仏教の精神を、その本質が存在しうるように形を変えて現代に表現すること。その営みは脈々と続いている。その中から日本の伝統芸能―能や狂言、歌舞伎や落語などが誕生した。その源をたずねると、絵巻物になった親鸞の伝記の「絵解き」や、節談説教という語りものがある。さらにその裾野には仏教ファンタジーとしての經典の世界が広がる。そのような仏教文化を現代に発信する雑誌やミニコミの編集作法なども学べる講義を目指す。また実際に「寺報」や「ミニコミ誌」の作成を行う。	
		仏教文化演習	仏教の衣文化・食文化・仏教美術について、掘り下げて分析し体験を深める。 衣文化では、聖職者が着る衣装や儀礼用の衣装、同じ信仰をもつ人々が共有する衣装など、さまざまな衣文化と宗教のかかわりを学ぶ。とくに法衣や袈裟の創作体験を通して、その宗教性に触れる。 食文化では、本来の意味が忘れられがちな「食事作法」や「調理法」の中から仏教文化を取り上げ、典座料理の調理や作法を実際に体験することを通じて、「仏教における食育」を学ぶ。 仏教美術では、仏像・仏画や仏具の系譜から作風までを知り、対峙の手順・修復・保存について実習的な講義を行う。宗教性が投影されたものであり、単なる美術品と同じ位相で語るわけにはいかない点に留意しながら学ぶ。	
		アジアの仏教と社会	仏教はインドで生まれたが、紀元前三世紀のアショーカ王の伝道師の派遣以後、アジア各地に伝播していった。現在スリランカ、ミャンマー、タイなどで信奉されている仏教は、上座仏教（俗に小乗仏教）で、解脱を目指す出家仏教と考えられているが、実は土着の伝統文化と融合し、外来宗教の影響を受けて、出家者が政治や社会と深く関わっている。この講義では、東南アジアを中心に、仏教の歴史の展開と社会との関わりを説明し、それと対比する形で、大乘仏教諸国の仏教の現状に触れる。 また、実際にアジアの僧侶たちと意見交換の場をもちたいと考えている。	
		知覚心理学	人間は外界適合的な行動を選択することによって生命を維持しているが、そのためには感覚器官を通じて外界の様子を知らねばならない。この心の働きは知覚と呼ばれるが、外界を機械的に再現するものではなく、独特の仕方外界の再構成を行う働きである。本科目では、そのような知覚のあり方やしくみを、主として視知覚（眼で見たときの色、かたち、運動、立体性などの知覚）を例にとって講義する。これにより、日常生活における人間行動の限界を理解したり、人間に負荷をかけるような環境の改善を図ることができるようになることが期待される。	
		学習心理学	人間の心の働きや行動様式には生得的な側面もあるが、ほとんどは生後に形成される。何らかの経験の結果、行動の仕方や心の働き方にその経験に応じた持続的な変化が生じることを学習と呼ぶ。本科目では、様々な学習の様式（条件づけ、観察学習、技能学習など）、学習の効率を規定する諸条件（強化スケジュール、休憩、結果のフィードバックなど）、学習間の相互作用などについて講義する。これにより、自分や他者の心の働きや行動様式の由来を理解するとともに、自ら適切な学習を行い、また他者にも指導できるようになることが期待される。	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	カウンセリング演習Ⅰ	本演習では、事例検討の方法により、カウンセリングの各プロセスにおける課題、問題への対処法、アセスメントの手法について、実践的に学習する。カウンセリング論Ⅰで学んだ内容を実際の面接場面の文脈に位置づけることによって、カウンセリングの実践的な技能を習得し、心の問題の援助者としてのスキルを高めることが目標である。また、演習を通して、受講生1人1人が、人と人とのコミュニケーションのあり方について洞察を深めることも、本科目の重要な目的である。	
		カウンセリング演習Ⅱ	カウンセリング演習Ⅰの継続として、ロジャースの傾聴面接技法、精神分析療法、箱庭療法、認知行動療法などの各心理療法をとりあげて学習する。また、臨床心理査定に基づく臨床心理的支援であることを大切にしながら自分自身への理解を深め、他者理解や臨床心理的支援による地域援助活動へとつなげていき、社会現場で役立つコミュニケーション技法を身につける。対象者本人を理解するとともに背景にある家族や学校などの環境の問題にも目を向けていく。授業の方法としてロールプレイやグループワークを多く用いる。	
		心理学実験演習	実験は、現象の原因を探り、原因と結果の法則的關係を明らかにするための、経験科学における重要な研究手法であり、心理学においても様々な分野で盛んに用いられている。本科目では、学生が、自ら実験者および参加者となって、知覚、学習、記憶、感情など様々な心理的機能に関する基礎的な実験を実施し、得られた結果をレポートにまとめる。それによって、将来、自ら選んだ研究テーマに適した実験や測定の方法を選択・実施できるようになり、加えて、研究成果をレポートや論文として公表する技能を身につけることを目指す。	
		心理学実習	心理学実習では、臨床心理学実習と社会心理学実験・調査法この2つの領域を軸として、人間を心理学的な立場から理解するための方法や考え方を体験的に学ぶことを目的とする。臨床心理学の方法で心のしくみを理解し援助してゆく臨床活動の習熟を目指すことに加えて、現代社会における人間の行動を研究するための方法をテーマの設定、データの収集、統計的な分析、解釈の仕方を通して体験的に学ぶ。これらを通して、自己理解を深め、他者を受容して行く力を培うことも目指している。みんなで学び合う楽しさも体験してほしい。	
		カウンセリング実習	カウンセリング実習では、カウンセリングマインド並びにカウンセリング技能の向上を目指し実践的な学習活動能力を養うことを目指している。授業では不登校・いじめ・非行などの学校等での問題行動、DVや離婚などの家族内で生じる問題、職場での人間関係から生じる問題などの多くの事例を取り上げてロールプレイなどのカウンセリングの体験学習や訓練を行う。学生相談室や施設などの臨床現場から話を聞く機会も取り入れ、対人援助職としての人格ならびに職能を学びとり、対人援助職としての自覚を高めていきたい。	
		生涯発達の臨床心理学 (乳幼児期)	人は、人生の節目節目で直面する心の問題を1つ1つ乗り越えながら、乳児期から老年期まで、生涯にわたって発達していく。本講義では、人間の生涯発達のはじまりの時期にあたる乳幼児期に焦点を当て、その時期に特有の発達課題と発達危機、発達のみずきと心の問題について学ぶ。また、子ども虐待や育児放棄など、乳幼児の発達をめぐる現代的諸問題についても理解を深める。なお、近年、脳科学領域で「赤ちゃん研究」が大きく進展していることに鑑み、その分野の最新の研究知見を、講義の中で随時紹介していく予定である。	
		生涯発達の臨床心理学 (児童期)	人は、人生の節目節目で直面する心の問題を1つ1つ乗り越えながら、乳児期から老年期まで、生涯にわたって発達していく。本講義では、児童期および思春期に焦点を当て、その時期に特有の発達課題と発達危機、発達のみずきと心の問題について学ぶ。また、インターネットや携帯電話の普及が児童期の子どもの発達に与える影響、いじめや不登校といった学校生活上の心の問題など、児童期の発達をめぐる現代的諸問題についても理解を深めることを目指す。	
		生涯発達の臨床心理学 (青年期)	人は、人生の節目節目で直面する心の問題を1つ1つ乗り越えながら、乳児期から老年期まで、生涯にわたって発達していく。本講義では、青年期に焦点を当て、その時期に特有の発達課題と発達危機、発達のみずきと心の問題について学ぶ。また、就職難やニート問題に見られる社会参加の遅延など、青年期の発達をめぐる現代的諸問題についても理解を深める。授業を通して、青年期を生きる受講生に、自分自身の「いま」を見つめ直す機会を提供することも、本講義の重要な目的である。	
		生涯発達の臨床心理学 (成人・高齢期)	人は、人生の節目節目で直面する心の問題を1つ1つ乗り越えながら、乳児期から老年期まで、生涯にわたって発達していく。本講義では、成人・高齢期に焦点を当て、その時期に特有の発達課題と発達危機、発達のみずきと心の問題について学ぶ。また、「終わらない青年期」、熟年の離婚と自殺、高齢者の孤独化・貧困化など、成人・高齢期の発達をめぐる現代的諸問題についても理解を深める。こうした学びを通して、受講生自身が、自分自身の「これから」の発達の方向性を展望できるようになることが、本講義の目標である。	
異常心理学	心理学の領域では「正常」・「異常」という用語がどのような意味で用いられているのか。心理学では「正常」と「異常」をどのような基準によって分類しているのか。心理的障害や発達障害など、心理的な「異常」をどのように理解し、支援していくべきか。こうした問題について考えることが、異常心理学の課題である。本講義では、上記のような問題について、臨床心理学、精神医学、脳科学等の領域における最新の研究知見を参照しながら検討していく。グループワークによる実践的・主体的な学習も積極的に取り入れていく予定である。			

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	社会心理学	社会の中で暮らす人間の心と行動は、他者の影響を受けたものとなる。社会心理学の特徴は、他者の存在を前提とし、他者から影響を受けた人間の心と行動の性質や仕組みを明らかにするところにある。「社会心理学」の授業では、社会の中で向き合った他者の性格や感情などをどのように認知するのか、自己が持つ態度や考えは他者からいかに影響を受けるのか、他者との親密な関係はどのように形成されるのか、さらに社会の中での自己意識のあり方などについて学ぶ。これらを通して、社会的人間としての人間存在のあり方を社会心理学的な視点から学修する。	
		人間関係論	人間関係とは我々にとってどのような意味を持つのであろうか。人間、そして社会を理解していく上で人間関係とは非常に重要なものである。この授業科目では、人間や社会に非常に重要な意味を持つ、人と人との関わり、すなわち人間関係について検討を加えていく。社会心理学や社会学といった人間関係や人間の社会行動を研究する分野の知見を学び、身につけた新しい視点から社会と人間を見つめ直し、社会や人間にとっての人と人との関わり的重要性についての理解を深めることを目的とする。	
		心理学研究法	心理学領域における研究を行う上でのさまざまな方法論について解説する。具体的な研究法として、調査法、面接法、観察法、投映法、実験法、事例研究法、効果研究について説明し、さらに心理的方法として、心理療法、各種心理検査や面接調査によるアセスメント、家族研究、心理的地域援助について解説する。心理学研究の特徴として、研究対象者の利益を優先すること、プライバシーを含む倫理的な問題を常に念頭において研究して行くことが重要である。	
		健康心理学	現代社会において健康の問題を考えたとき、ストレスなどの心理的要因を抜きにして考えることはできない。「健康心理学」の授業では、心の健康のみならず身体的健康、社会的健康までを考え、ストレスの発生過程、ストレスに対するコーピング、パーソナリティと健康の問題などを取り上げて講義する。この授業によって、ストレス社会に生きるわれわれが、ストレスや困難に打ち克って健康的な生活を送り、生きがいや幸福感をもって生きる方策を科学的に探求する。	
		心理統計学	心理学では、人間やその行動を理解するための手法として、観察・実験・調査が取り入れられている。こうした観察・実験・調査などを正しく理解し、また実施するためには、統計法の基礎的理解の確立が不可欠である。したがって、この授業科目では、代表値、散布度、相関関係、標本抽出法、統計的仮説の検定など、人間の心理や行動を科学的に把握し理解するための統計的基礎知識を身につけ、統計データの理解と利用の能力獲得をめざす。	
		パーソナリティの心理学	人間の心と行動には、個性や個人差がある。その個性や個人差が何によって生じ、どのように発達していくのか。その個性や個人差をどのように測定し、分析・解釈するか。心や行動についての個性・個人差のタイプはどのように分類・整理できるだろうか。こうした問題について考えることが、パーソナリティ心理学の課題である。本講義では、上記のような問題について、理論と実践の両面から学ぶ。授業の中で実施する性格検査の実習等を通して、受講生1人1人が自己理解・他者理解を深める機会を提供することも、本科目の重要な目的である。	
		発達心理学概説	人が発達するとはどういうことか。生まれてから死ぬまでに人の心と行動がどのように発達していくのか。人が健やかに発達するためにはどんな条件が必要か。発達のみならず障害をどう理解し、支援していくべきか。こうした問題について考えることが発達心理学の課題である。本講義では、上記のような問題について基礎知識を習得することを目的とする。中心となるテーマは、①人間の発達を規定し方向づける要因、②他の生物種と比較した場合の人間の発達の特徴、③人間の発達コースの定型性と多様性、④発達障害の理解と支援である。	
		カウンセリング論 I	近年、心の問題に寄り添い、それを援助する活動の重要性が高まっている。カウンセリングは、そうした活動の1つであり、今日、その活用領域は、心理臨床のほか、保育・教育、医療・看護、介護、法律実務、一般の職場、友人関係、家族関係にまで広がりをみせている。本講義では、カウンセリングの基本的な理論と技法を習得することを目的とする。中心となる学習テーマは、①カウンセリングの種類・方法、②カウンセリングのプロセス、③カウンセラーの倫理と基本的態度、④カウンセラーとクライアントのコミュニケーションなどである。	
		カウンセリング論 II	本講義では、カウンセリング論 I で学んだ内容をさらに深めるべく、カウンセリングの理論と技法について、現場での実践を視野に入れた応用的・発展的な学習を展開する。特に、カウンセリングの各プロセスにおける課題と問題への対処法について、具体的かつ詳細な検討を行うことに重点を置く。また、保育カウンセリング、学校カウンセリング、遊戯療法、グループ・カウンセリング、コミュニティー・アプローチ、電話やインターネットを用いた相談活動など、近年注目されている応用的・先端的な手法・活用領域についても理解を深める。	
精神分析学	精神分析はフロイトが心理療法を進める中で見出した人間理解のための技法である。フロイトを中心とした精神分析学派の考え方を学ぶことにより、無意識の構造と心の働きを理解する。そのことにより心の問題に接近する知識や技術を学ぶことができる。また、乳幼児期からのライフサイクルにおける心の発達についても精神分析の立場からの検証を行う。受講生自身が日常生活の中で知らず知らずに行動している背景にある行動機制や無意識について考えることにより、自分自身を理解し人を理解する力を学んでもらう。			

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	精神医学	脳の働きの異常としての精神疾患について学ぶ学問である。授業では主な精神疾患の特徴、診察や診断の方法、経過、治療などについて解説する。また精神障害者の社会復帰や家族による援助のあり方、精神保健福祉についても正しい知識を持つことを目指す。精神医学で学ぶことは自分と関係のない誰かの話ではないことを知り、自分自身や家族、友人をより深く理解する糧とすることを目標とする。この目的のため今日の社会におけるトピックを切り口として具体的な症例をあげながら解説を行う。	
		神経心理学	神経心理学は脳のどの領域がどのような心の働きに関係しているかを調べる学問である。脳血管障害や外傷などによって脳の様々な部位に損傷が生じる。その損傷によってどのような症状が引き起こされているかを調べることで「損傷の生じた部位」と「失われた脳の働き」の対応が明らかになる。脳損傷症例の症状を紹介して、認知、行動、感情などの働きとその障害について解説する。脳損傷症例のリハビリテーションについても、その方法や目的、代表的な経過などについて説明する。	
		家族心理学	少子高齢化社会の中、さらに核家族化が進み家族関係における心理的現象も変化してきている。そんな中にあっても、家族やその成員は、自己を取り巻くもっとも身近な他者や集団であり、その個人の心や行動に大きな影響を与える。「家族心理学」の授業では、家族をシステムととらえ、夫婦関係、親子関係、兄弟関係などに焦点を当てるとともに、家族が抱える心理学的な課題についても学ぶ。この授業によって、健全な家族のあり方を理解し、家族間の相互理解を促進する。	
		グループダイナミクス	人々が集まったところでは、人間の心や行動は一人でいるときとは異なる様相をあらわす。他者がいる状況では、相互的に個人の心や行動に影響を与える結果、何らかの課題に対しても一人のときは異なった結果を生み出すのである。「グループダイナミクス」の授業では、集団における意思決定やパフォーマンス、すぐれたリーダーシップなどといった問題に加え、さまざまな集合行動についても講義する。この授業によって、人々の中でより良く生きる方策を獲得する。	
		産業・組織心理学	社会で生きている人間は、何らかの組織に所属している。こうした組織とはいったいどのようなもので、どのように人々は組織と関わり、また組織の中で人々はどのように行動するのか。そして組織であるがゆえの問題とはどのようなものであろうか。多くの人が産業界で働くことによって生活の糧を得ているが、「働く」ことはどのような意味を持ち、また「働く」ことでどのような心理的問題が生じているのか。この授業科目では、組織や産業、そしてそれに関わる人間の心理や行動についての基礎知識の獲得と、自分や社会への理解を深めることを目指す。	
		消費者行動論	われわれは、日々の生活の中でさまざまな消費行動を行っている。食料品や衣料品を買うだけでなく、学校で学んだり旅行をしたりすることも消費行動のひとつである。このような日々行われる消費行動には、心理的要素が多分に影響する。「消費者行動論」の授業では、消費者の情報探索、購買意思決定、消費への動機づけ、そして広告の効果などに影響する心理的諸要因について学ぶこととなる。この授業によって、より良い消費者としての態度を獲得するとともに、消費者の満足とは何かを理解することをめざす。	
		多文化社会論入門	世界にはさまざまな文化が存在し、多様な価値観やものの捉え方、思考方法、行動の仕方が見出される。そして、これらの異なる文化が接触することにより、文化の変容や異文化への抵抗なども見られる。しかし、さまざまな面で境界線が崩れ共生が求められる現代社会においては、異文化理解また受容なくしては、人類の継続的繁栄は考えられない。このコースでは多様な価値観や考え、行動の仕方への理解と受容に基づく多文化共生社会の意義を考え、また、その実現の難しさもあわせて考察する。そして、多文化共生社会実現のための条件と課題について考える。	
		ことばと文化	ことばは文化の中心的要素であり、ことばを観察することでその言語話者の考え方や行動の仕方といった文化の深い部分を読み取ることもできる。このコースでは、比較文化の視点から、ことばの観察を通して文化とことばの関わりを考える。それと同時に、この地球上にさまざまな文化また言語が存在することを見る。そして、生物的多様性と同様、言語・文化の多様性が重要であることを確認し、それぞれの文化また言語がその独自性を保ったまま対等に存在する世界の実現にはどのような条件と課題があるのかを考える。	
		文化交流論	国際化やグローバル化によって現代では経済・情報の領域における世界の一体化が進んでいるが、他方で、諸文化間の摩擦や衝突が生じている。こうした現代世界の文化をめぐる諸問題や、異文化間の交流の方法・作法について、理論・実践・歴史など様々な観点から考察する。	
		英米文化入門	英米文化のいくつかの側面を理解することで、両国の文化に関心を持ち、より深く学ぶための素地を作る。、そのために、英米の文化を平易な英語で紹介したテキストや、両国の映画を教材として用い、文化の一側面としての英語に対する感覚を磨きつつ、両国の文化の様々な面を学ぶ。特に、映画を取り上げる際には、テーマとなっている社会問題や歴史的な出来事、文学作品について学ぶだけでなく、画面に現れる社会や生活の細部に見られる文化的特徴にも注目する。	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	文化人類学入門	<p>(概要) 私たちは自分たちのやり方が唯一の、あるいは正しいやり方だと思込む傾向がある。しかし、世界には実にさまざまな文化が存在する。このコースでは、世界のいろいろな社会に見られる多種多様な文化的事象を具体的な事例を見ながら考える。文化の多様性の事実と重要性とを認識し、文化を相対的に見ることの大切さを知ってほしい。多様な文化を知り、自文化を客観的に捉える力と異文化を理解しようとする態度を育てることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10木下(森光) 有子／8回) まず、文化人類学の主要な流れをつかむことによって、文化人類学とはどのような学問であるのか、文化人類学を学ぶことによって私たちには何ができ何をすべきなのか等を考える。社会構造、親族体系、価値観やことばに埋め込まれた固有文化等を観察し、自文化のやり方が当たり前ではないこと、世界にはさまざまな考え方や行動の仕方があり、異なる文化のやり方が自分たちが抱える諸問題の解決の糸口を提供してくれるかもしれないことに気づきたい。相対主義的態度で文化を見ることの大切さを学ぶ。</p> <p>(9Cox, Teresa Bruner／7回) (英文) This introduction to basic concepts of cultural and social anthropology will provide a framework for further (more advanced) study of specific cultures and of comparative culture. Information/ideas will be presented through readings, film and video, lectures, interactive tasks and a simulated fieldwork experience. Examples from specific cultures will be used to illustrate the points presented, including: defining culture; generalization vs. stereotyping; human social organization; family structure, kinship systems, marriage customs, and child rearing; economic activities; values and belief systems, rituals and taboos; and the concept of objectivity.</p> <p>(和訳) このコースは、特定の個別文化の研究や比較文化研究を進めていくための枠組みを提供する。テキストや映画、講義、フィールドワークの疑似体験等を通して必要な情報や知識を得る。そして、個別文化の例を用いて、次の事柄を扱い、説明する。文化の定義、一般化対固定観念化、人間の社会組織、家族構成、親族体系、婚姻の慣習、子育て、経済活動、価値観、信条体系、儀礼、タブー、客観性の概念。</p>	オムニバス方式
		国際関係入門	<p>国際関係論の入門。国際政治経済社会を分析する基礎的概念や代表的な理論・アプローチを学びながら、21世紀の国際社会の成り立ちと基本的特徴・構造を分析する。また変動する国際関係における現実の諸問題ー戦争と平和、国際協力、南北格差、環境問題、開発、難民、人権、軍備管理、安全保障などに、国際連合を初めとする国際組織や多様性を増しつつある国際関係の新たな行為主体 (NGOなど) がどのように取り組んでいるのかについても分析と考察を及ぼす。</p>	
		異文化間コミュニケーション	<p>(英文) Basic concepts of Intercultural Communication will be introduced through readings, case studies, discussion, questionnaires, lectures, videos, and other class and group activities. After exploring definitions of culture, we will study models of the process of communication and how communication style is affected by and expressed through culture. Topics will include defining "culture;" subcultures; high context and low context cultures; principles of Intercultural Communication; communication styles; non-verbal communication; and cultural values.</p> <p>(和訳) 異文化間コミュニケーションの基本的な概念を、リーディングやケース・スタディ、ディスカッション、アンケート、講義、ビデオ、その他の授業内の個人およびグループごとの活動を通して紹介する。文化の定義について考察した後、コミュニケーションのプロセスの具体例を取り上げ、コミュニケーションのスタイルが文化によってどのような影響を受け、どのように異なるかを学ぶ。トピックとして、「文化」の定義、サブカルチャー、高文脈および低文脈文化、異文化間コミュニケーションの原則、コミュニケーションスタイル、非言語コミュニケーション、文化価値等を取り上げる。</p>	
		英米文学概論	<p>英米の文学史を、それぞれの歴史や社会・文化史との関わりの中でたどり、文学作品が時代思潮や社会、文化と深くかかわり合って産出されたことを知る。それにより、現代に至るまでの代表的な英米の詩人や作家、文学作品についての知識を身につけると共に、英米の歴史や社会・文化史についても大まかな知識を得る。その際、詩人や作家の人生をいくつか具体的に学ぶことで、それぞれの時代に様々な悩みや問題を抱えて生きた生身の人間が文学史をつくってきたことを認識する。さらには、実際にいくつかの文学作品に触れることで、文学の持つ面白さ、意義を知る。</p>	
		イギリスの社会と文化	<p>イギリス文化の背景として国の成り立ちと歴史の流れを概観し、その上で教育や政治、文学や絵画などの芸術、人々の生活や価値観、階級制度など、イギリスの文化と社会を特徴づける様々な側面について学ぶ。それによって、最終的にはイギリス文化の多面性、およびイギリス社会の現状を理解することを目指す。</p>	

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	フィールドワーク論	フィールドワークは、社会調査において欠くことのできない大変重要な調査の手法の一つであるが、それは他の調査法とは異なる様相を持つ独特な方法でもある。この授業では、フィールドワークの様々な調査法および分析手法について実習を交えながら学習することによって、フィールドワークの特性や多様性を学ぶとともに、現実の人間から教わることの難しさと楽しさにふれることを目的とする。受講後、それぞれが自らフィールドワークを行える能力を身につけてもらう。	
		スピーチとプレゼンテーション	(英文) This course will introduce the principles of effective speech and presentation making and provide opportunities for practical application of the skills taught, so that students will become more fluent and more confident speakers in English. Students will learn how to prepare and present speeches and Power Point style presentations and will learn presentation skills for business. Speakers will receive feedback from class members as well as evaluation from the instructor. (和訳) この科目では、効果的なスピーチとプレゼンテーションのための原則を紹介し、学んだ技術を実践するための機会を与える。それによって、受講者がより流暢に自信を持って英語で話すことが出来るようになることを目指す。受講者はスピーチやパワーポイントを使ったプレゼンテーションの準備の仕方、発表の仕方を学ぶとともに、ビジネスのためのプレゼンテーションの技術も学ぶ。発表者は、教師からの評価だけではなく、他の受講生からの意見や評価も受ける。	
		ビジネス英語	(英文) This course will be especially useful for students planning a career in business and/or those planning to attend graduate school in a business related field. The course will focus on developing English language skills, including reading, writing, speaking and listening comprehension, in the specific context of international business situations. The course will make use of media such as video and television news and newspaper and magazine reports. Practical activities will include role playing, simulation and group and individual presentations. (和訳) この科目は、ビジネスの分野で仕事をしたいと考えている学生やビジネス関連分野の大学院に進むことを考えている学生に、特に役立つものである。授業では、国際的なビジネスの場という特別な状況における、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングを含めた英語力の養成を目指す。授業では、ビデオやテレビのニュース、新聞、雑誌の記事などのメディアを利用する。授業での実践的な活動としては、ロールプレイ、シミュレーション、グループまたは個人の発表などを行う。	
		コミュニケーション実践	(英文) When speaking a foreign language, it may not always be possible just to translate an expression from one's native language. In fact, it may be necessary to say something quite different in the second language. This course will look at how to use various functional expressions in English in the appropriate situations, such as starting a conversation, disagreeing politely, replying to compliments, etc. Students who complete this class should acquire a number of practical expressions in English and knowledge of how to use them. (和訳) 国語を話すとき、ある表現を単に自国語からその言語に翻訳するだけでよいとは限らない。実際、外国語では全く違ったことを言う必要があることもある。この授業では、たとえば会話を始めるとき、賛同できないことを丁寧に伝えるとき、褒め言葉に返答するときなど、様々な場面における英語表現の適切な使い方を見る。この授業を通して、多数の実用的な英語表現とそれらの使い方の知識を習得する。	
		翻訳入門	翻訳することは、言葉を字義通りに訳すこととは違う。原文の目的、書き手についての知識、歴史的・文化的な背景など、考慮しなければならぬことがたくさんある。授業では、このような翻訳のために考慮すべきことなどについて、まず考察する。そして、実際に原文と翻訳を比較しながら、翻訳者がどのような配慮を持って翻訳に取り組んでいるかを具体的に学ぶ。またその中で、翻訳の基礎となる文法事項を確認し、日本語と英語の違い、日本人と英米人の思考方法の違いにも目を向ける。さらに簡単な翻訳実践も行う。	
		翻訳演習	この科目は「翻訳入門」の上級科目である。「翻訳入門」で学んだことを踏まえて翻訳演習を行い、翻訳の技術を身につけることを目指す。日本語、あるいは英語のニュアンスを的確に翻訳するための言葉の選択や構文の変換の仕方を実践の中で学ぶ。	
		通訳入門	ことばの壁を越えてコミュニケーションを図る一つの方法として通訳がある。通訳というのは、起点言語を目標言語に字義どおりに訳せばよいというものではない。両言語についての知識、それぞれの言語や国の文化的背景などを理解していないと、通訳は不可能である。このコースでは、通訳者に求められる条件と課題などを整理しながら、シャドウイングやスラッシュリーディング、ノートテイキングなどの練習をし、日英通訳の基礎的技術を身に付ける。	



専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	通訳演習	「通訳入門」で学んだことを踏まえて、さらに高度な通訳技術の習得を目指す。通訳にとって基礎的な技能であるスラッシュリーディングやノートテイキングの練習を「通訳入門」に引き続いて行い、簡単な内容のものからある程度まとまった長さのスピーチまた対談まで、その概略が通訳できるようになることを目指す。また日英両言語についての知識を深め、通訳者が直面する諸課題の解決方法も考える。
		比較文化論	文化間の交流は、他文化の一時的な受容や相互的な受容など文化の変成を促す一方、それぞれの文化の差異を浮き彫りにする。文化交流を通じて露わになる文化の特質を、とりわけ日本を中心として他文化との比較という手法を用いて、歴史的に考察する。
		情報社会論	情報化の進展は、個人、家族、集団、組織、社会などさまざまなレベルにおける変化をもたらしている。とりわけインターネットなど電子メディアの発展は、人々のコミュニケーションの在り方に大きな影響を与えている。この授業では、高度に情報化した社会の意味を検討しながら、行為、相互行為、組織などいくつかの相における情報と社会との関連を講じる。その上で、そこに潜むさまざまな可能性や問題を明らかにし、情報社会に生きるわれわれに与えられた課題について考えてもらう。
		英米文学講読	英米文学史に名を残した詩人や作家の作品をいくつか取り上げ、作品の一部（短い詩や短編小説などについては全文）を原文で読む。さらに作品の解説書や批評文の抜粋などを読むことで、より深く作品を味わう。有名な作品の一節を音読する、あるいは暗誦するなどの作業を通して、含蓄に富んだ文学的な表現を味わうと共に、慣用的な言い回しなど日常的な場面で役立つ表現を自分のものにしていく。これにより、優れた文学作品を鑑賞する素養を身につけると同時に、英語力を鍛えることをも目指す。
		文化交流実践	社会は様々な文化背景を持つ人々で構成されている。文化は国、民族、性別、年齢など多様な要因によって、また個人々によって異なるものであるが、私たちはこの社会で自文化を維持すると同時に異文化に敬意を払いながら、互いにコミュニケーションを図って生きていかなければならない。このコースでは、多岐にわたるテーマで様々なアクティビティを通して、各人がそれぞれ異なる文化一考え方、ものの見方、行動の仕方等一を持っていることをまず認識し、その上で、互いに異文化に属する人々がコミュニケーションを図り交流していくために必要な基本的態度を身に付けることを目指す。
		アメリカの社会と文化	(英文)The United States is a country that was first populated by Native Americans and then settled gradually by European immigrants, who brought their own customs and ways of thinking. Each region of the country varies somewhat due to its history, geography, economy, and the character of the people who settled it. Despite regional diversity, America has a distinctive culture, character and set of values. This course will explore the different regions of the USA and consider "What makes an American?". (和訳)アメリカ合衆国には、最初ネイティブ・アメリカンが住んでいたが、後にヨーロッパからの移民が徐々に住みつき、自分達の文化や考え方をもちこんだ。国内の各地域は、歴史や地理、経済、そこに住む人々の性質によって、それぞれ異なる点を持つ。そのような地域の多様性にも関わらず、アメリカには特有の文化や性質、一連の価値観が存在する。この授業では、アメリカの様々な地域について学び、「アメリカ人とは？」という問いについて考える。
		社会調査入門	社会調査とは、さまざまな社会現象の実像を切り取ることであり、社会的リアリティに近づくための1つの方法である。本授業では、社会調査の歴史と主な社会調査の事例を学びながら、基本的なスタンスと方法論を習得すること、および既存の調査結果を正しく有効に活用できることを目指す。そのことでマスコミなどで語られる「社会」に様々なずれ・偏り・誤差があることを知り、情報を正しく評価し、利用するためのリテラシーを養ってもらう。
		現代社会論演習	現代社会における情報化の進展は、個人、家族、集団、組織、社会などさまざまなレベルにおける変化をもたらしている。この演習では、現代社会における情報化などの諸問題を中心とするテキストを受講者各自の興味関心にしたがい選択してもらい、理解し、考え、意見を述べ、まとめる力を身につけてもらう。その作業を通じて、それぞれのテーマについての知識を深めるとともに、文献の購読能力、資料収集能力、発表能力などを獲得することを目的とする。
		マス・メディア論	現代社会において、マスメディアを抜きにして世界の理解を語ることはできない。この授業では、ラジオ、テレビ、新聞、雑誌などマスメディアの特徴を明らかにし、社会の移り変わりによってそれらがどのように変化してきているのかを十分に理解してもらう。また、それらマスメディアの問題点や課題について具体的に講じることによって、それらメディアからの情報を批判的に受け取り、かつ使いこなせる能力を身につけてもらうことを目指す。

専 門 科 目	専 門 関 連 科 目	国際金融論	国際金融論は国際的な資金循環を分析することが課題である。どの国・地域が資金を供給し、どの国・地域が借りているかを考察する。国際金融の中心国であり、資金供給国から需要国へ金融仲介をおこなう米国(金融機関、金融市場)の活動をまず検討する。ついで、資金の受け入れ国である開発途上国の資金需要や資金使途を考察する。これらふたつを合わせると、実態に迫ることができる。国際機関から報告されている統計データを利用し、具体的に考察する。どのような国際金融の問題が生じ、解決が図られてきたかも検討する。	
		国際政治論	世界には多くの国があり、その関係が平和に進行しているだけではなく、むしろ紛争や、テロ、経済的摩擦など多くの障害が存在している。その解決のためには、どのような課題があり、各国のどのような協力、協調、妥協が必要であるのか。蓄積された政治学の知見から具体的な国際問題にアプローチを試み、その解説を通し国際社会において必要とされる基本的知識を習得してもらう。	
		社会統計学	現代においては、社会のあり方がさまざまな統計データによって表現され公開されている。社会のあり方について検討するためには、こうした統計データを利用・検討することが不可欠である。したがって、この授業では統計的データを理解し、利用するために必要な基礎的能力の習得を目的とする。代表値、散布度、相関関係、標本抽出法、統計的仮説の検定などの社会調査データを理解し、分析するための基本的知識を身につけ、統計データを利用するための能力の修得をめざす。	
		地球環境論	いまや人類にとって、環境問題を抜きに社会を語ることはできない。これまで争点となった環境問題は、産業公害、高速交通公害、生活公害、地球環境問題などに分類される。この授業では、この区分にしたがって、それぞれに特徴的な環境問題について概説するとともに、それらの環境問題に対する、住民、市民、行政、NPOなどの社会的対応を検討していく。そのことで、環境に関する思考を念頭に積極的に行動できる人間の育成に努める。	
		社会調査方法論	社会調査には、質問票調査やフィールドワークなどさまざまな方法がある。この授業では、これらの調査方法のそれぞれの特徴やメリット・デメリットを整理しながら、とりわけ質問票調査においてデータを収集し、整理する方法を習得してもらう。講義を中心にしながらも、できるだけ受講生に実際に作業を行ってもらうことで、質問票作成、サンプリング、質問票配布などを実践できるための技法身につけてもらうとともに、社会調査の倫理について十分な理解を得ることを目指す。	
		企業管理	ここでは企業統治(コーポレート・ガバナンス)を考察する。企業は営利団体であり、第1義として利益を追求するが、市民社会の一構成員でもある。企業の生産活動無しには社会はありえないが、企業の営利活動は市民社会の維持としばしば対立し、ここに困難な問題が生じる。そのような問題としてCO2の削減や最低賃金の引き上げなどが挙げられる。そのとき企業がどのように市民社会と調和をとるか、とらせるかが企業統治である。そのため、社外重役や諸委員会が設置されるが、これらの組織を検討する。	
		国際経済・貿易論	国際経済は外国貿易と、国際資本移動とによって結ばれた国々の関係である。外国貿易は比較優位の法則が働くとともに有無相通ずる関係から生ずるが、最近では外国貿易の多くが多国籍企業によって担われている。いわゆる企業内取引、企業内の生産工程の国際編成に基礎付けられた取引、が国際貿易となっている。証券投資や銀行貸出しなどの国際貸借も国際経済を形成する有力な要因であるので、国際金融もあわせ考察しなければならないが、これは国際金融論に譲る。	
		企業経営論	企業の経営は、企業内組織、人的管理、財務管理の3分野から考察できる。そのうち人的管理においてはどのように従業員(労働者)に働くインセンティブを与え、喚起するかを考察し、昇進制度や給料制度の検討と関連する。勤務形態・身分は最近の大きな懸案である。財務管理は、以下に日々の運転のための短期資金や投資のための長期資金を調達し、あるいは遊資を運用するかを考察する。近年注目される起業の視点からは、どのように資金源を求めると、金融機関からか市場からかということが問題となる。	
		社会調査演習	この演習は受講者に、企画、準備、調査、報告などの質的調査をひと通り経験してもらい、各段階における技術を身につけることを目的とする。グループに分かれ、自らの関心に基づいてフィールドワークを行ってもらう。調査対象も各グループで検討し、自らインタビュー等の交渉を行う。また、調査の成果を報告書にまとめる。こうした作業を通じて、フィールドワーク調査の楽しさ、困難さを味わってもらいながら、自ら調査を実践できる能力を高めてもらう。	
		比較企業文化論	それが立地する地域の伝統や慣行、習俗などによって、企業をとりまく制度や組織は様々ではない。企業活動もこれらの影響を受け、企業文化といってよい行動パターンや慣行が生まれる。中国の法治国家ならぬ人治主義というのも、企業文化の基礎となる。さらに個々の企業についてもその創業者の信念や行動特性によって、ことに創業者が大株主である場合は、特有の企業文化を持つことがある。これらの企業文化を、それぞれ1社をその地域・産業の代表として選び、国際的に比較する。	

専門科目	専門関連科目	比較文化論演習	文化にはそれぞれの特徴があり、その比較はそれぞれの文化の特徴を明らかにするのにもっとも有効な方法のひとつと言える。しかし、この方法の歴史的由来について言えば、文化間の接触・対立など複雑な契機がはらまれており、文化的な他者を理解することの困難さがそこにはある。そこで、本演習では、より望ましい文化間の関係のあり方を模索することを視野に入れつつ、比較文化論のテキストを受講者の関心に沿って考察する。受講者には、テキストの要点をまとめ、問題点を呈示し、報告することが求められる。
------	--------	---------	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

# 相愛大学 人文学部 人文学科 設置の趣旨等を記載した書類

相愛大学の建学の精神は、学則第1条に定めるとおり、大乘仏教、特に浄土真宗の開祖である親鸞聖人の教えにある。明治21年（1888年）相愛女学校として設立認可された当時の設置緒言に「苟も教育をして婦女に遍からしめは、天下の美風良俗を養成するの母たること疑ふべからず。文学技芸を授け併て安心立命の真理を教へ（略）茲に當相敬愛の金言に取り、名て相愛女学校と云ふ」と述べるように、大学名のもととなった、『佛説無量寿経』の「當相敬愛（互いに敬い慈しみあう）」という文言に象徴される。すなわち、大乘仏教の普遍的精神を人間教育の根本理念として、宗教的情操を涵養し、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的、および、その応用能力を展開させることを目指している。

相愛大学の設置者である学校法人相愛学園の起源は、明治21年（1888年）に浄土真宗本願寺派21代門主の明如上人（大谷光尊）を設立者として本願寺津村別院内に設置された相愛女学校である。女子に対する学芸の教授と宗教的情操の涵養が目的とされていた。以後、明治39年（1906年）には、相愛女学校を相愛高等女学校に改めるとともに、相愛女子音楽学校を増設した。昭和3年（1928年）には国文科・家政科・社会事業科からなる相愛女子専門学校が設置され、昭和12年（1937年）には女子専門学校に音楽科が加えられた。戦後、学制改革に伴い昭和25年（1950年）に相愛女子短期大学が設置され、昭和33年（1958年）には音楽学部のみ相愛女子大学の設置に至る。オーケストラやオペラ公演などにおける男女共学の必要性から、昭和57年（1982年）には校名を相愛大学と改め、音楽学部男女共学に踏み切った。その後、大学・短期大学の発展を図るべく大阪南港に新たな校地を取得し、大学・短期大学を移転した。以後、昭和59年（1984年）大学に人文学部を設置し、平成12年（2000年）には同学部に人間心理学科と現代社会学科の2学科を増設するとともに、男女共学化を実施した。平成18年（2006年）には短期大学の発展的改組を行い学生募集を停止し、同時に発達支援の分野における教育・研究を主眼とする人間発達学部を開設し、大学3学部体制となり、現在に至っている。

## ア 設置の趣旨及び必要性

### （1）設置にいたる経過

本学の設置目的が「浄土真宗の精神に基づく教育を行う」ことであることは寄付行為および学則に明記されている。本学の建学の理念は明治期において女子中等教育を行った前身の相愛女学校以来、一貫して「當相敬愛」で表現されてきた。

建学の精神に基づく教育研究の展開はすべての私立大学に求められているが、とりわけ現在の相愛大学において求められていることは、建学の精神に基づく個性化である。すなわち、浄土真宗の精神に基づく教育を行い、情操豊かな人材を育成することを謳い、実践していくことが求められている。

人文学部は、昭和59年（1984年）に女子のみを対象とし、「社会体制の異なる諸国家間の国際交流の必要性が、グローバルな広がりをもって要求されている」という時代認識に立脚し、建学の精神に基づく人間形成を核としつつ、日本の文化に精通し、かつ国際社会に発信できる人材の養成を目標として、日本文化学科と英米文化学科の2学科をもって新設された。平成12年（2000年）には社会の要請と学生の志向に応えるべく、人間心理学科・現代社会学科を開設し、入学の門戸を男子学生にも開放して、男女共学となった。現代社会学科は、平成20年（2008年）度より社会デザイン学科と名称変更した。

その後、少子化や人文系学部への関心低下などの影響で、年々学生確保が難しい状況になり、その結果、平成21年（2009年）度英米文化学科を募集停止としたが、社会デザイン学科も収容定員を下回り、日本文化・人間心理両学科も入学定員通りの学生確保が難しくなった。このような状況のなか、人文学部は、音楽・人間発達両学部をあわせた大学全体にわたる将来構想を見据え、既存の学科で積み上げ培ってきた人的資源を基礎として活用しつつ、日本内外の「文化」を基軸とした学部にも再編することで、本学の個性化・特色化を一層推進するため、平成23年（2011年）、人間心理学科と社会デザイン学科の募集を停止し、仏教文化学科および文化交流学科を設置し、日本文化学科とあわせて、3学科体制となった。

しかしながら、この届出後に、3学科体制における若干の問題点が顕在化した。その一つは、現在の大学と大学教育の動向の本質に関わる問題であり、「文化」を基軸とした学部学科編成における、教育に関する「文化」の専門性と抽象性である。設置当初より三十数年を経過してなお、人文学部は学科を基礎とした専門教育が基本であり、かつてはその専門教育による専門性を備えた人材を輩出していたが、ユニバーサル化と称される時代の本学部入学生にとって、学士課程教育における「文化」に関わる専門性の獲得や「文化」の抽象性の理解は相当に困難であり、それらを卒業後の進路に直結させることも容易ではなかった。したがって、この学科に基づく専門性・抽象性をやや後退させ、「学士力」の習得、ないしは将来の社会人としての生活を持続させるような能力の習得によって学士課程の質を保証する教育体制を構築することを計画することとした。

その具体的な方策は、1学部1学科とし、大学志願時における入学志願者の専門分野選択を幅広くし、専門教育開始を2年次以降とするとともに、その専門教育も専門性を指標とした教育カリキュラムを設定しつつ、他コース科目の履修をより柔軟にして、総合的で広範な教育成果の獲得を目指すものとする。また、学科専門科目に、主体的学習能力、集団協働能力、総合的人格力、社会人としての基礎的能力等を習得する科目群を設置し、学科教育のコンセプトの特色とする。

これとは別の問題として、より具体的な学生確保に関する状況が生じた。それは人間心理学科の募集停止に伴う、受験関係者、とくに高等学校の進路指導側からの疑問であった。後述するような現今の社会における人間性と人間の内面に関わるさまざまな状況は、この心理学分野への志向を一層増大させている。それゆえ一定の志願者が存在するにもかかわらず、心理学希望者に人文学部入学の道を閉ざしたことは、社会の要望とはそぐわないものである。したがって、この分野を新学科の教育カリキュラムの一つとして復活させ、上記新学科の教育方針と有機的に連動させれば、新学科の特色をより鮮明にすることができるという判断のもとに、今回の措置をとるものである。

## (2) 学科設置の趣旨

### a) 人文学科が養成する人材の社会的必要性

今、大学卒業生に期待されている能力は、例えば「学士力」あるいは「社会人基礎力」と表現されるものであるが、それらは大学の個別の専門的学部における専門的知識の教授のみでは獲得が困難で、大学生各自、または協同のさまざまな学びの過程でこそ、習得できる。このことに鑑みれば、人間の本質を追究するところに専門性の主眼をおき、かつ幅広く、学際的な分野をもっとも含有する人文学部や人文学科においてこそ、かかる人材の養成はその可能性を強く有すると判断しうる。本学科が養成をめざす人材像は、かかるニーズに対応するものである。

ただし、学士課程修了者としての人材は、社会においてその責任を正当に果たすためには、狹隘な専門性に閉じこもるのではなく、柔軟性を帯びた一定の専門的知識が必須である。浄土真宗に建学の精神をもとめ、国際都市大阪という地域に根ざした本学の人文学科が、学科内に設定する一定の専門性に基づく教育カリキュラムによって養成する人材は、現在の経済社会における企業活動や社会活動での、例えば以下のような局面において具体的に重要な役割をになうことが期待され、社会的に必要不可欠であると判断される。

#### ①日本文学・歴史文化

日本文化の特性や感性を学び理解する力は、対人関係が重視される流通・販売や金融関係、様々なサービス業の分野で必要となる。

#### ②大阪・サブカルチャー

地元大阪の地域社会の歴史・風土に関する知識、地域住民の嗜好・特殊性についての理解は、地域社会の文化や生活の向上発展に貢献しうる。サブカルチャーとしてのアニメ・マンガ・ゲームについての多くの知識取得は、若者層を中心とする文化理解の基本となる。

#### ③仏教文化

生命倫理や環境問題に加え、世界観・価値観の相違による紛争や対立が拡大する現代社会の状況、心の歪みに起因する問題が特に顕著な社会現象等に思いを致すとき、仏教を基軸として幅広い領域にわたり、衣食住から心身の問題や社会問題に至るまで実践的な「仏教文化の力」を学び、生きる力と知情意のバランスがとれた人格は、さまざまな局面で必要となる。

#### ④心理

心の時代が強調される現代社会においては、他者を心理的にサポートすることができる能力を必要とする心理援助職に就ける人材や、企業組織において心理学的に従業員や消費者への対応ができる人材は、各方面において需要が少なくない。なお、心理学分野の学生に志望者が少なくない心理援助専門職は、例えば学校で生じる諸問題に対するスクールカウンセラーや阪神淡路大震災や昨年の東日本大震災などの大災害時において人々の心に生じる問題に対する専門職として、さらにその必要性が見込まれる。

#### ⑤国際コミュニケーション

今のグローバル化社会は、国や文化の枠を越えて取り組むべき数多くの課題を抱える。この時において、発信すべき幅広い国際的知識と意見を持ち、地域や国を越えて様々な人々とコミュニケーションを図ることのできる人材が求められている。

#### ⑥ビジネス・社会

グローバル化時代の国際関係を正しく理解するために、経済的諸問題に関する知識は必須である。ただし、それを単なる経済面ではなく、異文化社会の理解も含め、総合的な視点でとらえる人材こそがいま必要不可欠である。

現在社会が要請する必要不可欠な人材について、とりわけ人文学関係の分野で養成する人材に関しては、以上のような状況があると判断する。

#### b) 教育上の目的と養成する人材像

前項の判断を踏まえ、学生にどのような能力を習得させ、どのような人材を養成するのかについては、建学の精神を体現する教育の実現のため、具体的な人材養成の目標を、「共生」と「利他」の思想のもと、生命の尊さを学び、人生の目的を追求するとともに、市民的公共性と総合的な判断力を養い、ボランティア精神を涵養することを基本とする。これをもとに、現在の大学教育における人材養成に係る社会的要請に対応するため、現代社会の一員としての責任を果たすべく、企画する力、実行する力、協働する力、持続する力を身につけさせる。その結果として、全人格的教養と社会的自立性を身につけ、人間文化に対する深い洞察力を備えて、地域社会の発展に貢献しうる、柔軟かつ汎用性を有する人材を養成することが最終的目標である。

この目標を達成するための具体的な教育方針は、学科内に複数の特色ある「養成する人材像」を設定し、その人材像に対応させた専門性を担保する複数の教育カリキュラム（コースと称する）を設定し、それぞれの教育カリキュラムを基本としつつ、コースを越えた履修を奨励することで、特定の専門性に特化せず、現在の社会の要請に緊密に対応した、汎用性と柔軟性に富む人材を養成することである。

その複数の教育目標と養成を目指す人材像は、以下のとおりである。

##### ①日本文学・歴史文化コース

- ・重層する日本の文化を歴史的かつ体系的に理解し、日本の特性を生かした対人関係を築いて、幅広く社会に貢献できる人材。
- ・日本の文学が生み出した豊かな感性を身につけ、複雑化する社会の中で、他者を思いやりつつ自らの目標を達成できる人材。

##### ②大阪・サブカルチャーコース

- ・大阪文化を中心に学びながら、日本の文化の知識を幅広く吸収して、大阪文化を通時的俯瞰的に考察する力を得た人材。
- ・アニメ・マンガ・SF等のサブカルチャーについて体系的な理解を深め、日本文化としての可能性や現代社会における意味を多面的・俯瞰的に分析できる人材。

##### ③仏教文化コース

- ・仏教学・真宗学について深く学び、現代社会と向き合い、広い視点と他領域との対話可能な能力を持った、実践的な本願寺派僧侶・教団宗務員・仏教研究者。

- ・仏教思想・仏教文化を学び、成熟した感性と豊かな知性を身につけ、バランスのとれたものの見方・考え方ができる、一般企業や仏壇・仏具・法衣会社などの仏教関係企業等へ就職する社会人。

#### ④心理コース

- ・臨床心理学、発達臨床心理学などを学んで、自己理解、他者理解を深めるとともに対人関係スキルを向上させ、心理援助職など他者をサポートする仕事につく人材。
- ・社会心理学、人間関係論、産業・組織心理学、消費者行動論などを学んで、対人関係能力を身につけるとともに、企業組織においてワーク・モチベーションを培うといった従業員への対応および購買者の満足を高めるといった消費者への対応ができる人材。

#### ⑤国際コミュニケーションコース

- ・異文化理解に基づく柔軟な思考と優れた英語運用能力を身につけ、地域や国を越えて様々な人々とコミュニケーションを図り、あらゆる分野で活躍することのできる国際人。

#### ⑥ビジネス・社会コース

- ・国際的な貿易、金融及び企業管理等経営の知識を習得するとともに、現在の社会問題とその課題を分析するとともに、社会調査の技術を身につけ、客観的に社会を把握する能力を備えた、グローバル化する様々な現場で活躍できる国際感覚豊かなビジネスパーソン。

#### c) 設定した収容定員との関連性

以上の人材養成を、本学科が教育の質を確保しつつ実現するためには、徹底した少人数教育が必要である。また、旧仏教文化・文化交流両学科の学生確保状況と、これに関する履行状況調査における留意事項を真摯に受け止め、学科の収容定員は、各学年90名の計360名とする。

#### (3) 学生確保の見通し

近年の大学進学者における、いわゆる実学志向と、その反面である人文科学系学部に対する関心の低下ないし忌避は、大学教育の根幹に関わる深刻な問題である。しかしながら、ベネッセ入試結果(2009年度)によると(集計志願者総数:2,011,184名)、人文科学系統の志願者数は全体の12.8%(257,788名)に及び、広範な人文学系分野全体が学生確保の困難な状況に陥ってしまっているわけではないことを示している。

人文学科全体としての入学定員は90名であるが、入試戦略は人文学科としての広報ではなく、学科の教育カリキュラム(コース)で表現される専門性を考慮に入れた入学者募集を行うこととしたい。

この場合、現日本文化学科の入学者は漸減傾向にあるが、文学を中心に長年の伝統があり、また旧人間心理学科は募集停止時においても、人文学部全入学者の半数を占めていた実績と高校訪問時に聴取した進路指導担当者の要望によれば、相当程度の入学者を確保しうる見通しがあり、この2学科を継承する日本文学・歴史文化コースと



心理コースで入学定員のほぼ三分の二を占めるように割り当てを考えている。

現日本文化学科には大阪・サブカルチャー分野を希望する学生が若干在籍し、現文化交流学科には英語・海外文化志向の学生が在籍しており、また本年度入学者に国際経済専攻希望の外国人留学生が10人近く含まれていることから見て、大阪・サブカルチャー、国際コミュニケーション、ビジネス・社会の3コースと仏教文化コースで、入学定員のほぼ三分の一を占めるような割り当てを考えたい。

なお、参考のため、現仏教文化学科開設時のニーズ調査結果を示せば、人文科学系統への進学を希望している高校生の約20%が本学「仏教文化学科」への受験意向を示し、大阪、奈良、和歌山地区の浄土真宗本願寺派の寺院に行った仏教文化学科受容度の調査結果でも、185寺院中約80%が仏教文化学科に興味を示していた。

以上のことから判断して、本学科の入学定員確保の見通しは、一定の根拠があると判断する。

#### (4) 卒業後の進路

##### ①日本文学・歴史文化コース

- ・教育、出版、マスコミなどの分野、大学院進学、流通・販売・金融関係、サービス業の分野

##### ②大阪・サブカルチャーコース

- ・大阪文化およびサブカルチャーを活用した活動を行う企業・団体等、一般企業の企画・広報・営業等の職種、大阪および周辺の企業・各自治体、大阪のNPO・NGO組織、アニメ制作会社、マンガ雑誌編集、ゲーム制作会社

##### ③仏教文化コース

- ・浄土真宗本願寺派僧侶、教団宗務員、福祉施設職員、公務員、NGOやNPOなど各種団体職員、文化財修復・保護などの技術職員、仏壇・仏具・法衣など仏教関係の会社、出版社などマスコミ関係、矯正保護関係の仕事、大学院進学

##### ④心理コース

- ・社会福祉関連の公務員、児童福祉関連施設、保健関連施設、一般民間企業の人事・労務管理部門、マーケティング部門、および営業部門、大学院進学（臨床心理士資格取得）

##### ⑤国際コミュニケーションコース

- ・海外進出企業、外資系企業、貿易会社、通訳・翻訳業、航空会社、旅行会社、空港、税関、ホテル、金融機関、国際交流機関、外国駐在機関

##### ⑥ビジネス・社会コース

- ・海外進出企業、外資系企業、貿易会社、金融機関、企業経営

#### (5) 研究対象とする中心的な学問分野

組織として研究対象とする学問分野は、主に文学、歴史学、仏教学（真宗学、宗教学を含む）、国際関係（国際文化、国際経済を含む）、心理学、社会学である。

## イ 学科の特色

人文学科は、人文学を教授する学科である。その人文学は、広範な諸分野を含む学問領域である。そのなかで、本学科を構成する教員が教育・研究対象とする中心的な学問分野は、日本文学、日本歴史、比較文化、仏教学、国際文化、外国語、国際関係（国際経済を含む）、心理学、社会学であり、教授する専門領域は、これら諸分野を中心とする。

人文学科の学科教育においては、これらの専門性を担保するために、具体的に6つの教育カリキュラム（コース）を設定し、各教育カリキュラムの専門性を体現するコース専門科目を提供する。6つのコースは、「日本文学・歴史文化」、「大阪・サブカルチャー」、「仏教文化」、「心理」、「国際コミュニケーション」、「ビジネス・社会」である。

しかしながら、学科全体の教育方針は、今日の大学教育に対する人材養成に係る社会的要請を真摯にうけとめて、これら6コースの専門教育の質保証に留意し、一定程度の専門性を担保しつつ、その専門性に特化せず、それらを融合させた幅広く、汎用性と持続可能性のある人材養成を目指す教育体制をとるところにある。そのために、とくに学科全体の必修科目として、「ゼミナール科目」、「入門科目」、「キャリア支援科目」を設定し、それぞれ独自の授業方法を工夫して、学士課程修了者にふさわしい能力を備え、また社会人生活の持続可能な人材を養成することとしている。

かかる学科内容と、目指す人材像を養成するために提供する教育内容に鑑み、人文学部人文学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」における大学の各種諸機能のうち、「総合的教養教育」に重点を置くとともに、地域への生涯学習機会の提供による地域貢献を推進することを個性・特色としていく計画である。

## ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

### (1) 学部、学科の名称の理由

本学科は、現在の日本文化、仏教文化、文化交流の3学科を総合的な教育体系として再編したものである。この教育体系の根幹となる専門性及び研究分野は、前項に述べた通り、日本文学、日本文化、日本歴史、比較文化、仏教学、国際文化、外国語、国際関係（国際経済を含む）、心理学、社会学などであり、これらを総括する語としては、人文学がもっともふさわしい。しかも、教育においては、これら個々の専門性に特化せず、総合的に組織する教育体制において、建学の精神に則った人格形成、社会人として持続可能で、汎用性のある人材の養成を目指すものであり、社会通念としての個別具体的職業分野への適用的人材の養成を主眼とするものではない。その意味において、広範な専門領域を含有し、総合的性格を有する人文学を、積極的に学科名として選択したものである。

(2) 学位に付記する専攻分野

学位の名称は「学士（人文学）」とした。

(3) 学部、学科等及び学位の英語名称

人文学部：Faculty of Humanities

人文学科：Department of Humanities

学 位：Bachelor of Arts (Humanities)

## エ 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 科目区分の設定の原則

本学の学士課程教育は、全学部共通の「基礎科目・共通科目」と各学部「専門科目」によって構成され、両科目の科目内容と両者の有機的な履修に、本学の教育の特色がある。

前者は、建学の精神と学則第1条に定める本学の目的実現のため、すべての学生に、在学期間を通じて履修を義務付ける科目である。これに対して、各学部「専門科目」は、学則第2条に定める各学部の教育研究上の目的の実現を図るためのものである。

人文学部人文学科の教育課程編成の基本的考え方も、これに準拠しつつ、学部「専門科目」の科目構成と履修方法・履修順序に特色をもたせ、学科設置の趣旨を実現することを目指すものである。

(2) 各科目区分の科目構成とその理由

(a) 基礎科目と共通科目

本学においては、教養教育の重視という観点から、その組織的中核となる「共通教育センター」を設置し、以下の6点を主眼とする科目を提供している。

①建学の精神の一層の具現化

『建学の精神』、『仏教思想と現代』を必修とし、本学が仏教精神を建学の精神としていることを明示・強調する。

②時代に対応した科目の設置

『科学と人間』、『環境と人間』、『生命と人間』により、現代的課題に取り組む姿勢を明確にする。

③日本語基礎力の涵養

本学学生の基礎学力の現状を勘案し、コミュニケーション能力向上のため、『大学生のための日本語入門』または『日本語表現法』を選択必修とする。

④バランスのとれたコンパクトな科目配置

人文・社会・自然の分野に入門科目を配置し、未修科目のリメディアルと新分野へ

の導入の役割を果たすこととする。また、スポーツ、情報、ボランティア、キャリア関連などの科目も複数配置する。

⑤多様な外国語科目

ドイツ語、イタリア語、フランス語、中国語の外国語に加え、英会話、英語、資格英語などを提供し、到達度別の少人数クラスを編制して、外国語運用能力を向上させる。

(b) 学部専門科目

学部専門科目は、学科共通科目と各コース専門関連科目に大別する。

学科共通科目は、学科の学生全員に、本学の人文学士として身につけるべき多様な素養・能力を習得することを目的とする科目であり、人文学という領域において必要となるスタディ・スキルを習得する「ゼミナール科目」、人文学の幅広い教養を身につける「入門科目」、社会で活躍するための社会人基礎力を身につける「キャリア支援科目」の3科目群を設定する。

①ゼミナール科目

『基礎演習A』『基礎演習B』『専門基礎演習A』『専門基礎演習B』『専門応用演習A』『専門応用演習B』『専門研究演習』『卒業研究』

②入門科目

『人文学概論』『日本文化概論』『日本史入門』『人間の心と行動』『宗教学概論A』『仏教学概論A』『哲学概論』『現代社会論』

③キャリア支援科目

『主体的学習法』『プレゼンテーション演習』『グループワーキング演習』『社会人基礎力形成演習』『社会人基礎力実践』『データ分析』『海外研修』

各コース専門関連科目は、各コースにおいて、それぞれのコース名称に集約される専門分野の学びを深める科目である。

(3) 学科設置の趣旨を実現するための対応措置

今回の人文学科設置の趣旨の主眼は、既述のように学士課程教育の質保証に留意し、一定程度の専門性を担保しつつ、その専門性に特化せず、それらを融合させた幅広く、汎用性と持続可能性のある人材養成を目指す教育を実現するところにある。

そのために、学科を特定の専門分野に細分した教育カリキュラム（コース）を設定することによって各分野の専門性を担保しつつ、コース関連専門科目の選択的履修によってその専門性をやや後退させる。その一方で、全学科の学生に、人文学の総合性・学際性・柔軟性を理解させるとともに、主体的な学びの技法、コミュニケーション能力、協働的態度、あるべき社会観・職業観などを、共通の必修課目によって養成・習得させる体制としている。

(4) 必修・選択等の科目設定の理由

基礎科目・共通科目については、とくに建学の精神の体得に資するべき科目を必修とし、より広範な人格形成、時代・社会の要請に対応し、また個々人の能力の育成に関わる科目を選択科目とする。

専門科目のうち、学科共通科目は、学科の学生を本学の人文学士として社会の要請にこたえうるさまざまな人格・能力を有する人材へと養成すべく、主要科目を必修または選択必修科目とする。

専門関連科目は、細分化された特定の専門性のみでの習得をある程度制限し、総合的・学際的で柔軟性のある学科全体の教育の実現のため、選択科目とする。各コースの専門性に応じた関連科目の履修を履修指導においてきめ細かく実施するとともに、他コースに属する科目の履修を奨励し、専門性・系統性と幅広い教養を担保していく。

#### (5) 履修順序の考え方

履修年次の基本的考え方は、入門的または基本的、概括的な科目をより低学年に配し、発展的、応用的科目をより高学年に配当して、初年次において、大学教育の原則・手法・技能等を理解させ、その後、学年進行により段階的に人格形成上はより広範で、専門性上はより高度な教育成果を順次獲得する方式としているが、科目群の性格により、若干の工夫を行っている。

必修科目で構成されるゼミナール科目は、1年次生前期から4年次後期まですべての学期において配置し、1年次の『基礎演習A』『基礎演習B』は学科で共通、2年次では大まかに関心領域で別れ、3年次・4年次ではコースごとに分かれて受講し、人文学領域での幅広い教養からそれぞれの関心に応じた専門的な学びへと進み、4年間の学びの総決算として『卒業研究』を履修する。なお、この科目は、同時に教員・学生の密接な連絡を維持することで、各学生の大学生活の様子や現状を把握することに資する。

キャリア支援科目は、1年次から3年次まで3年間継続的に科目を配置することで、社会で持続的に活躍するためのいわゆる社会人基礎力の育成に勤め、就職・進学などそれぞれのキャリア形成のために必要な能力の獲得を目指す。具体的には、1年次前期で、大学での4年間の学びを主体的に進めていくための技法とモチベーションの獲得、1年次後期で、主体的な学びの中で得た知識や情報などを他の人々と共有するためのコミュニケーションの会得、2年次前期で、主にチームで働く力を身につけ、2年次後期では、社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの力の育成に努め、3年前期では、その力を実践的にスキルアップする訓練、3年次後期では、自己・他者・人間・社会を客観的に理解する能力を習得する。

各コースの専門教育へは、専門分野選択とゼミナール担当教員の専門性を関連させ、2年次から順次専門関連科目を受講することにし、各コース関連科目の履修順序は、原則的には履修モデルを基礎に、丁寧な履修指導によって設定することとしている。

#### (6) 教育課程による学修を支援する課外措置

以上の教育課程における学修をより実質的かつ有効なものとし、学修成果を高めるため

の工夫として、図書館の一室に学修支援室を設置している。

ここには、教員が常時待機し、学生の勉学上の相談に応じるのみならず、高校教育における英数国等各科目の補習学習、一般的教養知識の向上、資格試験の受験準備等の課外による教育支援を実施している。

## オ 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教育課程と教員配置

組織として研究対象とする学問分野は、文学、歴史学、仏教学(真宗学、宗教学を含む)、国際関係(国際文化、国際経済を含む)、心理学、社会学である。この学問分野を基幹として、学科のコンセプトを総説する学科必修の理論科目である人文学概論をはじめ、典型的には6つの人材養成に係る教育課程である各コースに、学問分野を概説する科目を開設している。

その担当者には、文学、社会学、経済学、宗教学、学術等の博士号学位保持者、及び専門分野において、国内・国外の学会において注目される研究業績を有する教員を配置している。

このほか、各コースカリキュラム担当専任教員の個別的な専門分野は以下の通りである。

#### ①日本文学・歴史文化コース

日本中世文学、日本近代文学、日本古代史、日中比較文化

#### ②大阪・サブカルチャーコース

大阪の都市化近代化、サブカルチャーの社会学研究

#### ③仏教文化コース

真宗学聖典編纂専門家、真宗学と他領域との学際研究、宗教哲学

#### ④心理コース

臨床心理学、社会心理学分野

#### ⑤国際コミュニケーションコース

言語学・異文化間コミュニケーション・言語教育、文化人類学・異文化間コミュニケーション・EFL(英語教育)、英米文学・英米文化

#### ⑥ビジネス・社会コース

国際金融・貿易論、社会学・地域社会論・情報社会論・社会調査、法制史・比較思想史・近代化論

### (2) 教員の研究体制について

人文学科の教員組織における中心的な学問分野は、人文系諸学を総合した人文学であり、個別的には、前項に述べたように、文学、歴史学、仏教学、英米語学・文学・文化に、現今行動科学に分類されることもある社会学、心理学分野を加えたものである。

人文学部教員は、従来すべて相愛大学人文科学研究所に属し、学科を越えた研究体制を組織してきた。例えば特定の主題に係る研究会の開催や、その学的営為の成果としての研

究書の公刊等である。

この研究所は、2012年4月から、「音楽、人文科学、人間発達及びその関連領域に関する学術的研究や研究的実践活動等を部局横断的に推進し、学際的学術文化の発展に寄与することを目的」（相愛大学総合研究センター規程第2条）として、他の2学部がもつ音楽研究所・人間発達研究所と合併し、相愛大学総合研究センターを構成することとなり、人文学部教員はかかる研究体制の下、個別的専門領域の研究のみならず、実践的活動や、学際的研究のさらなる充実強化が可能となった。

### （3）教員の年齢構成について

本学科の専任教員の年齢構成は、開設時に40歳代7名、50歳代5名、60歳代6名である。教員としての経験や熟練度、研究者としての研究業績蓄積度、教育研究活動上の日常的活動度、学生指導における学生との親近性など、多様な視点から見て、比較的バランスのとれた年齢構成であり、教育・研究水準の維持向上、および教育・研究の活性化につながるものである。

## カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### （1）授業内容に応じた授業方法の設定の仕方

専門科目は、各コースに共通した履修を行う必修科目群「ゼミナール科目」「入門科目」「キャリア支援科目」と、各コースの専門性に基づく「専門関連科目」からなる。

ゼミナール科目は、すべて必修科目であり、1年次の『基礎演習 A』『基礎演習 B』、2年次の『専門基礎演習 A』『専門基礎演習 B』、3年次の『専門応用演習 A』『専門応用演習 B』、4年次の『専門応用演習』『卒業研究』とすべて双方向的な演習形式で行われる。これは、学士課程修了者にふさわしい能力を養成するために、個々の学生に応じたきめ細かい指導を行うためであり、また1年次から4年次まですべての学期において、学生と教員、また学生間でのコミュニケーションを促進する効果も期待できる。

入門科目は、1年次の前期と後期に配当される人文学に関する基礎的な知識を学ぶ授業科目である。そのため、授業方法はすべての科目で講義形式を採用している。1年生前期の必修科目『人文学概論』は広範な諸領域を含む人文学の全体像を学ぶために5名の教員のオムニバス形式で行われる。

キャリア支援科目は、社会人生活の持続可能な人材を養成するために、社会人基礎力の育成を目的とする科目群である。1年次前期の必修科目『主体的学習法』は、キャリア支援科目の概要を学ぶ入門的な授業科目であるため講義形式で行われるが、単なる一方通行の講義ではなく学習へのモチベーションや主体的に学ぶ経験を獲得するために体験的な要素を多く含む授業方法を計画している。また1年次後期の『プレゼンテーション演習』、2年次前期の必修科目『グループワーキング演習』、2年次後期の必修科目『社会人基礎力形成演習』、3年次前期の『社会人基礎力実践』、3年次後期の『データ分析』は、いずれも学生の主体的な学びと学生同士のコミュニケーションを重視するため、双方向的な演習形

式で授業が行われる。そして1年次の『海外研修』は海外での主体的で実践的な学びを促進するため実習形式で授業が行われる。

専門関連科目では、専門的な学びを促進するため、それぞれの授業内容に応じて講義形式、演習形式、実習形式の形態が選択されている。いずれの形態においても、現代社会の一員としての責任を果たすべく、企画する力、実行する力、協働する力、持続する力を身につけるために、できる限りアクティブラーニングの手法を導入していくことを目指す。

## (2) 学生数の設定の仕方

本学科は1学年の定員を90名としている。

ゼミナール科目においては、1年次配当の『基礎演習 A』『基礎演習 B』、2年次の『専門基礎演習 A』『専門基礎演習 B』では、受講者は1クラス30名で設定されている。基礎演習と専門基礎演習では主に基本的なスタディ・スキルの獲得がその目標となるため、こうした少人数でのクラス設定がなされている。また各コースの専門性が高まる3年次の『専門応用演習 A』『専門応用演習 B』では、専門的できめ細やかな指導のため1クラス15名までの少人数が想定されている。卒業研究の完成へと進んでいく4年次の『専門研究演習』『卒業研究』ではさらに少人数の7名前後で設定がされている。

入門科目においては、1年次前期の必修科目『人文学概論』は受講者が90名で設定されている。これは人文学全般の基礎的な入門科目で講義形式の授業であるためであり、人文学科の1年生が一堂に会して学ぶことが重要だと考えるための設定である。その他の入門科目は、講義科目であるため1クラス50名前後の受講者が想定されている。

キャリア支援科目は、1年次前期の必修科目『主体的学習法』では受講者が1クラス90名で設定されている。この授業科目はキャリア支援科目の入門的な講義形式の授業であり、またグループでの体験活動なども想定されているために適切な人数だと考えられる。2年生前期の必修科目『グループワーキング演習』、2年次後期の必修科目『社会人基礎力形成演習』でも受講者が1クラス90名で設定されている。これもいずれの科目も学生たちの主体的な学びを促進するためにグループでの活動なども想定されているために、適切な人数だと考えられる。選択科目の『プレゼンテーション演習』『社会人基礎力実践』『データ分析』は20名から50名程度の受講者が想定されている。

専門関連科目においては、講義科目は人文学の領域の広範さから考えて多くとも50名程度の受講生を想定している。少人数が望ましい授業科目については、30名程度に受講生数の上限を設定することも考えられる。また演習科目は、原則30名以下でのクラス編成を想定するが、とくに必要な場合には科目に応じて20名程度を定員とする場合もある。

いずれの科目においても受講希望者が想定以上に多い場合には、授業や指導の効果等を考慮して開講クラス数の増加を検討していく。

## (3) 配当年次の設定

配当年次の基本的考え方は、基本的な科目や概論科目をより下の学年に配し、発展的内容の科目や応用科目をより上の学年に配当することである。



「基礎科目・共通科目」については、原則的に1年次、2年次に設定する。

学科共通の専門科目「ゼミナール科目」は1年次に大学での学びの基本的なスタディ・スキルの獲得を目指す『基礎演習 A』『基礎演習 B』を配当、2年次には、大まかな方向性をもった専門領域での基本的なスタディ・スキルを身につける『専門基礎演習 A』『専門基礎演習 B』を配当、各コースでの専門的な学びのための『専門応用演習 A』『専門応用演習 B』を3年次に配当、それぞれの学生が各コースにおいて自分の興味や問題意識に応じた卒業研究の完成を目指す『専門研究演習』『卒業研究』を4年次に配当している。

また、学科共通の専門科目「入門科目」は、まず人文学全般の基礎的な入門科目である『人文学概論』を1年次前期に配当して人文学全体について理解を深める。そしてその他の入門科目についても、1年次前期に4科目、1年次後期に3科目を配当し、広範な領域をもつ人文学についての基本的な知識を1年次の間に身につけるよう配当されている。

学科共通の専門科目「キャリア支援科目」は、段階的にスムーズに社会人基礎力を身につけ、社会人生活の持続可能な人材を養成できるよう1年次から3年次まで継続的に配置されている。1年次前期の『主体的学習法』では、社会人基礎力の養成のための基礎となる学びに対する主体的な態度とモチベーションを育成する。1年次後期の『プレゼンテーション演習』で主体的な学びで得た情報を効果的に発信していくスキルを身につける。2年次前期の『グループワーキング演習』では、グループとしてさまざまな課題に向き合っていくためのスキルを育成する。2年次後期の『社会人基礎力育成演習』では、これまでのキャリア支援科目で得た知識やスキルを統合的な社会人基礎力として確立することを目指す。3年次前期の『社会人基礎力実践』では、社会人基礎力をより実践的なものとしてスキルアップすることを目指す。3年次後期の『データ分析』ではさらに社会や人間についてのデータを理解・活用するためのスキルを磨く。

「専門関連科目」でも最初に述べた基本的な科目や概論科目をより下の学年に配し、発展的内容の科目や応用科目をより上の学年に配当する基本的考え方が用いられ、入学者が4年間で無理なく効果的に学ぶことができる配当年次がなされている。

#### (4) 卒業要件

卒業するためには、4年以上在学し、つぎの条件を含めて124単位以上を修得しなければならない。内訳は、次の通りである。

基礎科目・共通科目から22単位以上

基礎科目から8単位以上

共通科目①から8単位以上

共通科目②から4単位以上

専門科目 80単位以上

ゼミナール科目必修16単位

入門科目から必修2単位を含み6単位以上

キャリア支援科目から必修6単位を含み8単位以上

専門関連科目から30単位以上

自由選択科目

他学部提供科目も含めて 22 単位以上

## (5) 履修モデル

### a) 履修モデルと履修指導

本学科の特色である 6 コースよりなる専門教育カリキュラムは、それぞれ独自の養成する人材像に対応する科目編成を伴っている。そのうち各コースの専門性を代表するコース科目は 20 科目 40 単位以上提供され、卒業要件は 30 単位以上履修である。

ただし、特定のコース提供科目は学科必修科目ではなく選択科目の扱いであるが、コース教育による一定の専門性を担保するために、30 単位以上修得することを卒業要件とし、丁寧な履修指導を行い、学科教育とコース教育を融合させた履修を実施することにする。

履修指導が準拠する履修モデルは、基本的には各コース二類型を想定している。

各コースの養成する人材とそれを実現するための履修モデルは、別添資料（資料 1）を参照されたい。

### b) 履修指導の方法

履修指導に関しては、学生の充実した学びを支援するため「アカデミック・アドバイザー制度」「ゼミナール授業」「オフィスアワー制度」の並列的運用により、学生と教員との十分な対話を保証し、学生のニーズに応じた履修指導が行える体制を取る。

#### ①アカデミック・アドバイザー制度

人文学部では、学生一人ひとりに対して担当の専任教員が決まるアカデミック・アドバイザー制が採用されている。アカデミック・アドバイザーは、学生が入学した 1 年次より学生の所属学科の専任教員が担当し、また 3、4 年次になると学生が選択したゼミの教員がアカデミック・アドバイザーとなる。こうして入学から卒業まで学生一人ひとりを担当するアカデミック・アドバイザーが存在して、学生の履修指導、学生生活の相談など幅広く学生との対話を行っている。

学生は、履修登録時にアカデミック・アドバイザーに履修科目の相談を行い、アカデミック・アドバイザーの確認を受けてから履修登録を行う。また休学、復学、退学などについてもアカデミック・アドバイザーと相談するシステムである。

#### ②ゼミナール授業

すべてのコースに、『基礎演習』『専門基礎演習』『専門応用演習』『専門研究演習』『卒業研究』を配置し、段階的に授業内容を高度化するとともに、双方向的方法により、学生の主体的な学びを強化する仕組みをとっている。

#### ③オフィスアワー制度

人文学部では、すべての専任教員が週に 1 回、学生との対話のための時間として、オフィスアワーを設定している。このオフィスアワー制度により、学生が履修、授業、資格、進路、学生生活に関して、教員と気軽に、また十分な対話の機会をもてるようにしている。

## (6) 履修科目の年間登録上限及び他大学における授業科目の履修等

### a) 履修科目の年間登録上限 (CAP 制)

単位の実質化と主体的な学びを奨励するために、履修科目の年間登録に上限を設け、予習・復習及び授業時間内に課せられた課題に取り組むことを可能とする時間的余裕をもたせる。そのために、年間の履修登録単位数の上限を 44 単位とする。これにより、1 単位取得につき必要時間 45 時間を保証するとともに、授業時における予習・復習推奨の指導及び授業時間外の課題作成義務等、授業時間以外の予習・復習を主体的に行わせる仕組みを工夫する。

### b) 他大学における授業科目の履修等

学則第 11 条の 2 に、「他の大学、短期大学において修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。」と規定している。

#### ①入学前に単位を修得済みの場合

本学入学前に他大学等に在籍し、あるいは科目等履修生として修得した単位は、合わせて 60 単位を上限として認定する。この場合、履修科目について個別に判断し、本学で開講している科目の中で相当する科目として読み替えを行う。

#### ②在学中に他大学で単位を修得した場合

学生が本学在学中に他大学、提携大学等（日本国内）で単位を修得した場合、原則として、本学で開講している科目の中で相当する科目として読み替えを行う。海外の提携大学等に留学し単位を修得した場合は、「相愛大学派遣留学規程」に基づく海外留学による単位認定（内規）により単位認定を行う。

## キ 施設、設備等の整備計画

大学における施設、設備等の環境については、学生が安全でかつ快適に過ごすことができるよう心がけている。

### (1) 校地、運動場の整備計画

本学の人文学部がある南港学舎は、大阪市住之江区の南港地区にあり周辺は大阪市が計画的に造成した住宅地と工業団地がある一方、大阪府庁咲洲庁舎も位置しており、自然と文化・暮らしと経済の調和をめざした新しい港湾都市としての整備が進められている。最寄りの大阪市営交通「ポートタウン東」駅からは徒歩 3 分、大阪の中心である梅田・難波からは約 40 分でアクセス可能である。本学は発足以来、ビジネス街である船場の中心の本町に高等学校、中学校、短期大学と併設してあったが、当時狭隘な校地を拡張することは至難であり 1983 年に短期大学と大学は現在地に移転したが、2011 年 4 月開設の音楽学部音楽マネジメント学科では、立地における利便性から、2 年生からの教育をこの本町学舎でも行っている。

人文学部が利用する南港学舎は、音楽学部、人間発達学部と共用するが、その面積内訳

は、校舎敷地面積 12,144 m<sup>2</sup>、運動場用地 13,028 m<sup>2</sup>、その他 41,491 m<sup>2</sup>となり、3 学部の総収容定員 1,840 名に対しては十分な面積を確保している。敷地内には、教室棟、図書館、学生厚生館、講堂棟、体育館、運動場等を備えている。「その他」の大部分は芝生や植栽で覆われた空地であり、学生の休息その他の利用のために確保されている。

## (2) 校舎等の施設の整備計画

南港学舎には、現在 12 棟ある。1 号館から 7 号館に、講義室、実験・実習室、事務室、研究室等を配備している。1 号館・2 号館の教室は、防音設備を整え、各部屋にピアノを配している。また個人レッスン室も備えており、音楽学部音楽学科が主に利用している。3 号館、6 号館、7 号館の講義室は、人文学部、人間発達学部が主として利用し、また大学全体の基礎科目・共通科目もこれらの教室で開設されている。7 号館に、PC 教室を 5 室、マルチメディア教室を 1 室備えるほか、3 号館には学生が自由に使用できる PC 教室を 1 室備え、学生は自由に学内 LAN およびインターネットを使用することができる。

人文学部の授業は、基本的には、この 3 号館・6 号館・7 号館の 3 つの棟で行われることになる。通常の授業は、講義室、演習室、実験・実習室で行われるが、これらの教室でも有線 LAN への接続が可能であり、ノート PC 等を持ち込んで授業をすることができる。4 号館は、教育研究棟とも呼ばれ、個人研究室、人文学部の合同研究室等が配され、5 号館は、人間発達学部の実験・実習室、研究室等が配されている。なお、人文学部の個人研究室は、合同研究室のある 4 号館を主として配されている。図書館棟には、学生自習室が備えられている。学生の憩いの場としては、学生厚生館 1 階に売店、学生ラウンジ、2 階に学生ラウンジがあり、両階の学生ラウンジでは、無線を介して個人のノート PC やモバイル等を利用して、学内 LAN およびインターネットを利用することができる。また、体育館 1 階には学生食堂がある。

課外活動の場として、学生厚生館 3 階に学生会室、体育館に各クラブ室、トレーニング室が備えられている。また、音楽学部音楽学科を有していることもあり、600 名の収容人員をもつパイプオルガンを備えたコンサート用ホール（講堂）があり、音楽の専攻知識の習得ならびに芸術への造詣を深める環境にある。

人文学部の収容定員が減ると同時に、大学全体の収容定員も 2,220 名から 1,840 名に減ることから、既設の校舎等施設での収容が十分可能である。教員研究室、合同研究室についても、既設の空き研究室を利用するため特に問題はない。

## (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

### a) 図書等の資料の整備計画

人文学科の開設にあたり、人文学科に配置されているカリキュラムに照応した図書等の資料を整備する。本学科は、従来の人文学部の教育目的を基本的に踏襲するものであるから、人文学部関連の経常的整備に準ずる計画である。但し、全人格的教養を備え、汎用性を有する人材を養成するという新学科独自の目的を実現するため、6 コースの専門教育科目に関連する資料については、専門分野の充実を図ると共に、学際領域の資料の整備にも

努める。

図書館の蔵書数約 220,000 冊のうち、人文学関連の図書は、内国書 98,665 冊、外国書 13,814 冊、学術雑誌は、『比較文学研究』、『社会心理学研究』など、内国誌 94 種、"The journal of Japanese studies","International Journal of Intercultural Relations"など、外国誌 57 種を所蔵している。図書については、開設前年度より段階的に整備を行い、学科完成年度には内国書 99,465 冊、外国書 13,894 冊を配備する。なお、学術雑誌及び視聴覚資料は、昭和 59 年の人文学部設置以来の蓄積もあり、質・量ともに教育研究上支障がない。

デジタルデータベースについては、国立情報学研究所の総合検索システム GeNii をはじめ、MagazinePlus、聞蔵Ⅱビジュアル、JapanKnowledge、NAXSOS Music library、Medical online などが利用できる。電子ジャーナルについても、JSTOR の Arts & Sciences III Collection を契約しており、フルテキストで 200 タイトル以上の学術雑誌を検索・閲覧することが可能である。

#### b) 図書館の整備計画

人文学科の開設にあたり、学生が主に使用する南港学舎の図書館は 3 階構造で、1 階が開架書庫、2・3 階は閲覧室となっている。閲覧座席数は 268 席で、完成年度の収容定員（学部 1,840 人）に対する割合は 14.6%である。その他、自学自習ができる学習室（47 席）があり、座席総数は、学生の学習に十分な 315 席が確保されている。レファレンスサービスは、カウンターに併設しているレファレンスデスクで行っており、2010 年度は、約 2,400 件のレファレンス相談があり、利用者の課題解決を積極的に支援している。所蔵資料は、目録情報のデータベース化により、貴重図書など一部の資料を除いた大部分が OPAC を通じて、インターネット上で検索可能であり、携帯電話からも利用できる。貴重図書資料「春曙文庫」（枕草子及び平安文学関係資料）については、国文学研究資料館と連携してデジタル化し、公開することを計画している。他機関との連携としては、現在、私立大学図書館協会に加盟しており、私立大学間での連携を行っている他、国立情報学研究所の NACSIS-ILL 等を通して他大学との協力体制を構築している。また、国立情報学研究所が提供する共用リポジトリに参加して、紀要論文など、学内で生産された学術研究成果を公開する。

## ク 入学者選抜の概要

### (1) アドミッションポリシー（入学者受け入れ／選抜の基本方針）

学則に定めた教育研究上の目的「人文学部では、人文科学の分野において、総合的・学際的な教育研究を行い、現代社会に生じる諸問題を多角的に捉え、思想・宗教的な素養をも生かして、自ら問題に立ち向かう主体性を持った人材を育成することを教育目標とする」（学則第 2 条の 2）に基づき、求める人材像を、各教育カリキュラムの内容に沿うように、具体的に定めている。

#### ① 日本文学・歴史文化コース

- ・ 日本文化に対する見識を深め、世界の中の日本文化という自覚をもって社会に貢献したい者
  - ・ 情緒あふれる日本文学を学び、豊かな感性を生かした自分らしい仕事に就きたい者
- ②大阪・サブカルチャーコース
- ・ 大阪の歴史・文化と都市大阪の発展について、強い興味、関心のある者
  - ・ 新しい日本の文化であるサブカルチャー（アニメ・マンガ・ゲーム・SFなど）について興味、関心をもち、深く探求していこうとする者
- ③仏教文化コース
- ・ 浄土真宗の教えや仏教に関心がある者、寺院を運営するための実務を学びながら新しい仏教の可能性を展開する企画力などを身に付けたい者
  - ・ 仏教を指針に現代社会を生きることを考える者、仏教文化（仏像・仏具・法衣・仏教書や古典芸能など）に興味がある者
- ④心理コース
- ・ “人間とは何か”、“自分とは何か”というテーマに関心のある者
  - ・ 人との関わりに興味があり、社会での活動に関心のある者
- ⑤国際コミュニケーションコース
- ・ 英語が好きな者、英検などの検定試験を頑張り、将来の仕事に生かしたい者
  - ・ 外国の文化や生活に対して興味があり、さらに知識を深めたり学んだりしたい者
- ⑥ビジネス・社会コース
- ・ 時事問題や国際的なニュース、国際的な経済の動きなどに関心のある者
  - ・ 今の社会の仕組みや動きに興味があり、実際に自分自身で考えたり調べたり仕事に生かしたい者

## （2）選抜方法（入学試験制度）

### ①推薦入学試験

推薦入学試験は、基礎学力調査、調査書の評定平均値、学業外（クラブ／ボランティア活動、各種検定試験など）評価表の得点を総合的に加味して判定する。

### ②指定校特別推薦入学試験

本学の教育目標について深い理解があり、緊密な信頼関係を維持することのできる高等学校に対して特別に推薦を依頼するもので、本学の教育方針を理解し、志望学科に対する明確な志向とそれに相応しい能力・適性を備えた者を対象に、面接、志望理由書、調査書等をもとに判定する。

### ③併設校推薦入学試験

併設の相愛高等学校の生徒を、学内推薦として、面接等をもとに判定する。

### ④本願寺派関係学校特別推薦入学試験

本学と建学の精神を同じくする浄土真宗本願寺派の高等学校からの生徒を、面接等をもとに判定する。

### ⑤寺院特別推薦入学試験

本学の建学の精神に深く理解がある浄土真宗本願寺派寺院住職の推薦を受けた者で、その建学の精神に賛同し、本学の教育方針を理解する者を対象に、面接、調査書等をもとに判定する。

⑥一般入学試験

一般入学試験は、国語・英語・小論文等から受験科目の選択ができる方式を取り、それらの科目の合計点により合否を判定する。

⑦大学入試センター試験利用入学試験

大学入試センター試験の成績により合否を判定する。受験した全教科から、高得点上位2科目を合否判定に使用する。

⑧AO 入学試験

エントリーシートや課題レポート、学科の教員との面談をもとに、受験生の学びたいことが本学の教育方針や教育内容と一致するかどうかを確認しあいながら、学ぶ意欲や熱意を評価する。高校における学習進捗度と基礎学力の有無を確認するために、調査書の評定平均値も合否判定に使用する。

⑨留学生入学試験

既に日本に来日しており、日本語学校等へ在学中の留学生を対象に、日本留学試験や日本語能力試験の結果と面接をもとに判定する。

⑩その他の特別入学試験

- ・ 社会人特別入学試験
- ・ 帰国生特別入学試験
- ・ 本学の特性を生かした特別の入学試験

(3) 選抜体制

上記①～⑩の入試すべてを、入試課を中心に全学体制で実施する。具体的には入試結果を受けて、主任会（学部長、入試／教務／学生主任、各学科主任から構成される）の議を経て、最終的に人文学部の教授会において合否判定を行う。

## ケ 資格

本学科で、取得可能な資格は、次の通りである。

- ・ 中学・高校教員1種（国語）
- ・ 図書館司書
- ・ 学校図書館司書教諭
- ・ 認定心理士
- ・ 浄土真宗本願寺派教師
- ・ 宗教文化士
- ・ 社会調査士

## サ 企業実習や海外語学研修など学外実習の具体的計画

基礎科目・共通科目においては、1年次に『キャリアデザイン論』、2年次に『キャリアデザイン演習』を通して自分のキャリアについて考え、具体的な進路の絞り込みを行い、必要な技能の習得と就職活動準備に取り組む。それを踏まえ3年次に、就労実習・職場体験として『インターンシップ』を実施する。

これらの科目は全学学生に向けてであるが、それぞれの学部・学科でも独自の实習やキャリア関連の科目、インターンシップ等が用意されているので、基礎科目・共通科目におけるインターンシップは、専門性を生かしたものではなく、一般的な就職の支援科目として実施する予定である。本学独自に開拓する企業や大学コンソーシアム大阪の紹介によるインターンシップ先等で、夏休みを中心として1~2週間の就労実習を行い、報告書および修了証明を基に単位認定を行う。またインターンシップ前後に事前・事後指導を行う。

人文学科では、専門科目として『海外研修』の学外実習を開設する。『海外研修』には英語圏への研修と中国への研修が含まれる。

#### (1) 海外研修（英語圏）

英語力の向上、英語圏の文化の理解、国際的視野の育成、異文化の人々との交流等を目的として、英語圏の提携校での夏または春のプログラムに参加する。具体的な実施計画は以下のとおりである。

##### ①対象学生

英語を履修している（または、した）全学年の学生。ハワイ大学の場合は、全学年の学生のうち、適切な英語力（TOEFL (iBT)32点以上）を有していると認められた者。人数の制限は特にない。

##### ②研修先

ハワイ大学マノア校（米国）

北コロラド大学（米国）

アングリア・ラスキン大学（英国）

##### ③研修内容

ハワイ大学での研修の場合は、H.E.L.P（ハワイ・イングリッシュ・ランゲージ・プログラム）に参加する。このプログラムは、将来大学で専門科目を受講する人のための準備コースへの参加である。本学科の学生がこのプログラムに参加する場合、将来、米国の大学で正規の授業を受講する必要はないが、単に語学学校で英語を学ぶのではなく、英語で学ぶことに焦点が定められたプログラムであることを認識して参加する。また、実際に異文化体験や交流を行い、文化交流の意義と目的を考える機会にする。

北コロラド大学及びアングリア・ラスキン大学での研修は、英語力の向上を主な目的とし、英語のレベル別にクラス編成がなされる。また、諸国から英語を学びにきている人々と異文化交流を経験し視野を広める。プログラムの趣旨を理解している参加希望者は基本的に誰でも参加できる。



#### ④研修期間

夏期または春期に実施する。いずれも3週間程度の予定である。

#### ⑤研修先との連携

本学の海外研修担当教員と研修先の関係者とが密に連絡を取り合い、プログラムの調整を図り、学生に説明する。研修期間中、担当教員は場合によっては研修先を訪問し学生の状況を把握する。研修先とはすぐに連絡が取れる状態を確立しておき、何か問題が発生した場合には、学部長等を中心に直ちに問題に対処する。

#### ⑥成績評価及び単位認定方法

本学の研修担当教員が、研修先の指導教員による評価及び学生が研修後に本学に提出するレポート等に基づき、総合的に評価し単位を認定する。教育課程外のプログラムとして、研修参加学生による報告会を開き、一人ひとり経験や成果を発表する。

### (2) 海外研修（中国）

中国語の能力向上、中国文化の理解、国際的視野の育成、異文化出身の人々との交流等を目的として、中国の提携校での夏期プログラムに参加する。具体的な実施計画は以下のとおりである。

#### ①対象学生

中国語を履修している（または、した）全学年の学生

#### ②研修先

北京外国語大学

#### ③研修内容

研修先大学で中国語と中国文化を学ぶ。また、実際に異文化体験や交流を行い、文化交流の意義と目的を考える機会にする。

#### ④研修期間

夏期の2週間程度を実施に当てる。

#### ⑤研修先との連携

本学の海外研修担当教員と研修先の関係者とが密に連絡を取り合い、プログラムの調整を図り、学生に説明する。研修には学部の教員2名（うち1名は中国人専任教員）が同行し、研修中の学生の状況を把握する。現地で判断また解決できない問題が生じた場合には、学部長等を中心に直ちに問題に対処する。

#### ⑥成績評価及び単位認定方法

本学の研修担当教員が、研修先からの報告及び学生の研修後の体験報告等に基づき、総合的に評価し単位を認定する。教育課程外のプログラムとして、研修参加学生による報告会を開き、一人ひとり経験や成果を発表する。

## ツ 管理運営

大学における教学面の管理運営体制は、学則において「学長は校務を統理し、教職員を統督する」（第 31 条の 2）と定めるように、学長を最高責任者とする。

全学の教学面での最高の意思決定機関として大学評議会を設けている（学則第 35 条）。大学評議会の審議事項は、学則第 36 条に以下のように規定し、月例開催である。

1. 学則および大学全般にわたる諸規程の制定改廃に関する事項
2. 授業および研究に関する基本事項
3. 学生の課外教育、補導に関する事項
4. 学生の賞罰に関する事項
5. 教員の人事に関する基本事項
6. 大学の施設、研究所の新設変更に関する事項
7. その他の大学に関する重要な事項

学長のもとに、副学長、各学部長等、大学事務局長、学長室長、教学事務部長、学生事務部長を構成員とする執行部会議があり、大学運営に関する重要事項や各部局間の連絡調整、法人常任理事会への付議事項の協議等を行う。本会議は通例月 2 回の開催である（相愛大学執行部会議規程）。

本学の主要任務である教育・研究・社会貢献各事業の全学的な推進のため、実施組織として「教育推進本部」「研究推進本部」「地域連携推進本部」の 3 本部を置く。各本部は、担当副学長を本部長とし、執行部会議構成員の一部や各学部選出委員によって構成され、随時本部会議を開催し、担当事業の企画立案、実施、取りまとめを行う（各本部会議規程）。

各学部および共通教育センターには、教授、准教授、講師、助教を構成員とする教授会をおく（学則第 32 条）。学部等教授会の審議決定事項は以下のとおり（学則第 33 条）であり、開催頻度は各学部等により差があるが、月 1 回以上開催しており、特に学年後半は入試判定等により、開催頻度は高い。

1. 学部に関する諸規程の制定改廃に関する事項
2. 授業および研究に関する事項
3. 学生の試験、入退学、卒業に関する事項
4. 教員の人事に関する事項
5. その他の学部に関する重要な事項

全学的な教学面に関する管理運営機構には、教学、入試、学生、就職、国際交流、宗教各部と図書館、保健管理センターを置き、各部長・館長・センター長を教員が務めるほか、教学と学生をそれぞれ主担とする事務部長を置いている。この機構に属する委員会として、各学部より選出する委員による全学教務委員会、全学入試委員会、全学学生委員会、全学就職委員会、図書館運営委員会、国際交流部運営委員会、宗教委員会、保健管理センター運営委員会を置き、所管事項について全学的な調整、審議を行っている。その他、全学的な委員会として、人権委員会、教職課程委員会、ホームページ委員会、情報システム運用委員会があり、所管事項の調整、審議に当たっている。

以上の委員会の調整・審議に当たっては、随時、学部選出委員から学部等教授会に報告、または意見聴取がなされ、委員会の審議結果は最終的に評議会に報告、または審議決定される。

各学部は、部内に各学科の責任者である学科長または学科主任を置くほか、教学面の責任者として、教務主任、学生主任、入試主任を置き、学部長の指揮のもとで主任会を開催し、学科間の調整、教授会審議事項の原案作成等、学部運営の円滑な進行に当たっている。学科は主任を中心に学科構成教員全員の出席のもとで学科会議を開催し、主として学科に関する教学関係の事項を協議する。

なお、今回の学科設置により、人文学部は1学科体制をとることになり、学科を基幹とした学部運営を見直す必要があるため、現在運営体制を検討中である。

## テ 自己点検・評価

本学学則第1条の2は、「本学は教育水準の向上を図り、目的及び使命を達成するため教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う」と規定し、これに基づき「相愛大学自己点検・評価の実施に関する規程」を定めて、学長を委員長として自己点検・評価委員会を設置して、教育研究上の組織、学生の受け入れ、教育課程、研究活動、学生生活への援助、図書館を含む施設設備、管理運営などについて自己点検・評価を行い、相愛大学自己点検・評価報告書『響流（こうる）』3号（2008年度）・4号（2009年度）を発行して、その内容を公表してきた。

この自己点検・評価活動を受け、これをより一層機動的なものとし、また結果の活用をPDCAサイクルとして具体化するため、同規程を「相愛大学自己点検・評価に関する規程」に改正し、自己点検・評価委員会のもとに、自己点検・評価実施委員会を設置した（2012年4月1日施行）。

自己点検・評価実施委員会の自己点検・評価は、既述の「相愛大学将来構想」の各項目の進捗状況、事業計画の実施状況を対象とし、毎年度末に点検・評価を実施する。その結果は自己点検・評価委員会に報告し、同委員会で評価結果の審議と承認を行う。この評価結果に基づいて、執行部会議による改善方策の立案、実施を推進する計画である。

## ト 情報の提供

「学校教育法第113条」、「学校教育法施行規則第117条の2」に従い、本学でも、文部科学省より「教育情報の公表の促進について」に示された3つの指針を念頭に積極的に情報の公表を行うこととする。

1. 大学は、学生や保護者が、適切に情報を得られるようにするとともに、学校教育法に定める公的な教育機関として社会への説明責任を果たすこと
2. 基本的な組織等に関する情報のほか、教育情報の積極的な公表を通じて、教育力の向上を図ること
3. 積極的な教育研究への取組を国際的に示すことを通じて、大学教育の国際競争力の向上を図ること

なお、これらの情報は相愛大学ホームページの、「情報公表」のページ、(<http://www.soai.ac.jp/univ/information.html>、相愛大学>大学紹介>情報公表)に集約することで、既に広く公表を行っている。

- ①大学の教育研究上の目的に関すること  
「教育方針」・「建学の精神」
- ②教育研究上の基本組織に関すること  
「学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的」（相愛大学学則）
- ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること  
「専任教員数」・「教員組織、各教員が有する学位及び業績」
- ④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること  
入学者に関する受入方針「人文学部」、「入学者数・在学者数」、「収容定員」、「卒業  
者数」・「進学者数」、「就職者数」
- ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること  
「講義要項」
- ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること  
「成績評価及び試験に関する規程」、「成績要件・教育課程表・取得可能学位」
- ⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること  
「キャンパス概要」（キャンパスマップ）、「キャンパス概要」
- ⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること  
「授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用」
- ⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること  
「学生の修学」、「進路選択」、「心身健康等に係る支援」
- ⑩その他  
教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報  
「履修モデルの設定」、「主要科目の特徴」、「相愛大学将来構想」、「設置関係」、  
「自己点検・評価」、「大学基準協会（大学評価）」、「財務情報」  
なお、上記以外にも各メディア等が実施する情報の公表に係わる調査等に、積極的  
に対応することで広く情報を提供することとする。

## ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究等の実施に関しては、全学的実施体制と具体的な実施状況について述べる。

### （１）実施体制

全学的組織として、FD 委員会を設置している。その概要は以下のとおりである（相愛大学 FD 委員会規程）。

構成員は、副学長、自己点検・評価委員会副委員長、教学部長、各学部等選出委員、教学事務部長、学生事務部長、その他学長が必要と認めた者若干名（第 4 条）であり、所管

事項は、FD の企画・立案、FD の実施計画と運営、FD 活動に関わる情報の収集と提供、FD に関する広報活動等（第 3 条）である。

FD 委員会は、設置当初、数回委員会を開催した他、委員が入手した他大学の授業評価アンケートなどの資料を、メールで随時閲覧して情報の共有化に努めていたが、その後は、前期に 2 回、後期に 3 回の開催を通例としている。

委員会の具体的審議事項は、当面は FD の内容を授業改善に絞り、「学生による授業評価アンケート」の内容及び実施方法、結果の公表の方法などを検討していたが、その後、現在の大学教育の動向への理解の深化、教育改善に関わる教員研修にも力点を置くこととなり、外部講師による研修、教員相互の授業公開、学内者による授業改善取組の紹介などを企画し、行っている。

## （2）実施状況

現在恒常的に実施しているのは、「学生による授業評価アンケート」である。これは講義担当者全員に前期もしくは後期にアンケートを依頼し、その結果を集計して分析するとともに、教員にはアンケート結果についての意見と評価結果の活用方策（リフレクションペーパー）の提出を課し、それらを教員全員および学生に、印刷物と学内ポータルサイトで公表している。

授業改善方策については、授業評価アンケート以外に、教員相互の授業公開、学内者による授業改善取組の紹介のための研修会を年 1 回開催するとともに、授業改善はもとより、現在の大学教育の在り方やそれに関連する最新の知見獲得のために、外部講師による研修会を開催している。

なお、音楽・人文・人間発達 3 学部では、授業の在り方等にそれぞれ特色があり、それぞれにおける改善活動を独自に展開している。

例えば、音楽学部においては、兼任教員をも含めた「教員による相愛コンサート」の年間 5 回開催による教員相互の技量の研鑽、複数の学部共通科目（『音素材情報処理』、『キーボード・ハーモニー』、『コード進行法・即興演奏法』など）に関する教材の共同研究や授業進行に関する討論、人文学部における新入生を対象とする『基礎演習』の運営、効果的なプレゼンテーション、視聴覚障害をもつ学生への具体的な対策などの自主的な研修会、人間発達学部における外部講師による FD 研究会の開催などである。

## ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学は、歴史も人材養成の目的もかなり異なる 3 つの学部よりなっている。音楽学部においては演奏家の育成を主たる目標とし、学生の多くは卒業後も演奏家の道を目指す、教職あるいは一般企業への就職を希望する学生も存在し、その要望と学部の社会的貢献の可能性を拡大するために、音楽産業界への進出を目指した音楽マネジメント学科を平成 23 年度に設置したところである。人文学部の学生の多くは企業就職を目指しているものの、人文学に対する関心から学部を選んでいるために、就職意識が希薄な学生も見受けられ、学生のキャリア意識の向上が喫緊の課題となっている。平成 21 年度に完成年度を迎えた

人間発達学部は、管理栄養士と保育士の育成を主目的とする学部であるために、入学生の90パーセント以上がキャリアについての意識が明確である。

以上のような全学における一般的状況により、本学における社会的・職業的自立に関する指導は、学部学科の特性を踏まえた個別対応を必要とする部分がある。しかし、社会的要請に基づく有為な人材を育成するのは大学の責務であり、将来に社会的・職業的自立を果たし、かつその自律的生活を持続しうるべく、教育課程内外において取り組みを強めている。具体的には、全学的措置として、全学共通科目『キャリアデザイン論』、『キャリアデザイン演習』、『インターンシップ』を設置し、本学のキャリア形成教育に資するとともに、各学部では、それぞれの人材養成の目標に応じた指導と体制を構築している。

以下に、人文学科の社会的・職業的自立に関する指導等及び体制を具体的に述べる。

#### (1) 教育課程内の取組について

人文諸学の専門性は、その内の行動学的分野を例外として、通念的には現実社会や職業生活と直接的に関係する部分がやや希薄であると理解される傾向がある。しかし、既述のように人文学が人間そのものに最終的な学的関心を置くことからして、人文学科の教育は専門的知識の教授の過程で、人間性の涵養に資することが期待され、その専門教育と有機的に関連させることで、他の専門学部とは異なった社会的職業的自立性を習得させる可能性がある。それゆえ、人文学科では、専門教育と有機的関連を保ちつつ社会的職業的自立性を習得することを目して、人文学科専門科目の中に、新たな科目群として、キャリア支援科目を設定した。この科目群は学科必修科目であり、7科目14単位を提供し、その中から4科目8単位以上修得を卒業要件とする。

この科目群は『主体的学習法』『プレゼンテーション演習』『グループワーキング演習』『社会人基礎力形成演習』『社会人基礎力実践』『データ分析』『海外研修』から構成され、1年次より2科目(1年次は『海外研修』を加えた3科目)ずつ提供し、アクティブラーニングを中心的な手法として、社会的職業的自立に必須とされる主体性、コミュニケーション能力、チームワーキング、いわゆる社会人基礎能力、思考・分析能力等を習得する仕組みとする。

#### (2) 教育課程外の取組について

教育課程外においては、学生支援センター事務室(以下「センター事務室」と記載)内にキャリアサポート部門を設置し、各学部教員から選出された就職委員と一体となり、学生支援を行っている。主な活動内容は以下の通り。

- a) センター事務室では年度当初にキャリア・就職ガイダンスを実施し、1年間のキャリア・就職支援行事をまとめたリーフレット「NEW LIFE」(資料2)を全学生へ配布。また就職委員からも各学部学科ガイダンス等にて行事に関する説明がなされている。講義設定のないキャンパスタイム(毎週木曜日3限目)、さらには夏期・冬期など、教学部門に支障を来さない時期を利用し、就職関連講座、資格講座を実施している(NEW LIFEを資料として添付)。学生支援センター事務員による指導とともに、

外部講師を招聘しての専門的な講座を設置するなどし、学生のニーズに即応した対応をしている。行事の様子は、可能なかぎり撮影し、後に DVD などの媒体に落とし込み、当日参加できなかった学生へのフォローに活用している。

- b) センター事務室において、就職に必要な業界情報や職務内容に関する情報提供を行うとともに、学生への情報周知をはかるために、各学部共同研究室前などに掲示場所を設置。学生の目に触れやすいような形で掲示を行い、各種講座の案内を行っている。それとともに、ポータルサイトを活用し、一人ひとりにメール配信の形で就職関連行事の情報を提供している。と同時に、大学全教職員へもメール配信し、講義や窓口業務等で案内いただけるよう配慮するとともに、現在どのような行事が行われているかの情報の共有化をはかり、協力体制を整えている。
- c) センター事務室では、求人票などの閲覧ができるだけでなく、ポータルサイト上で、学生が求人票を閲覧し、所定書類のダウンロードができるように環境を整備している。情報更新はセンター事務室内で行っており、迅速な情報公開を心がけている。
- d) 個別相談は随時行っており、担当職員による履歴書作成指導・面接指導、就職情報提供を実施し、学修面に関する相談を受けた場合には学修支援室との連携により、支援室へと誘導している（資料 3：学修支援室開室時間表）。
- e) 就職部長（教員）を委員長とする「就職委員会」を通じて、常時、就職情報を把握し、有益な就職支援および指導を実施できるよう情報交換、方針決定を行っている。

キャリア教育のための支援体制として、「キャンパスタイム」時に、諸行事を催し、その一環にキャリア・就職ガイダンス、キャリア・就職支援講座、資格講座等を実施している。各学部合同研究室、専任教員とも緊密に連絡を取りながら、就職に関する情報を共有している。その一方で、フェースツーフェースの指導も重視し個別相談を随時行えるよう、支援センター事務室内に指導室も設置している。教職関係は、中学・高校の教員を目指す学生のために教職課程合同研究室を、小学校教員を目指す学生のために、小学校実習指導室を設置しており、きめの細かい指導体制を整えている。教職課程合同研究室では教員採用試験対策講座を設け、試験対策を行っている。幼稚園教諭・保育士は、資格取得できる子ども発達学科が担い、管理栄養士と栄養教諭は発達栄養学科が担当している。特に発達栄養学科では講義のほかに国家試験対策講座を各教員がサポートする形で実施している。全学部で資格取得可能な図書館司書資格は共通教育センターに担当教官が配属され、指導にあたっている。センター事務室では、冬期に「公務員試験対策講座」などを実施し、就職支援に努めている。

多様化する産業社会の要請に応えるとともに、学生の職業意識の涵養と知識の習得を促す「就業体験」として、大学コンソーシアム大阪で実施されるインターンシップ・プログラムを学生へ周知し、参加を促すとともに、また、マイナビ・リクナビ等での参加方法についても説明会を行っている。インターンシップへの参加を促すために、センターのプログラムとして「就活ウォーミングアップセミナー」を 8 回に渉って実施するほか、社会人となるマナー・トレーニングなども実施している。インターンシップに参加する者だけではなく、その講座のみの受講も可能で、スキルアップのための支援ともなっている。

前述の通り、現在までも学生支援センターの就職担当部門が中心となって通年体制で就

職セミナー（キャリア支援講座）や基礎学力養成講座、マナー・トレーニング、キャリア・カウンセリング、秘書検定などの各種検定試験などを実施しているが、今後、これらを一定の要件のもとに単位化することによって、一層の効果をあげることを目指す。インターンシップに関しては大学コンソーシアム大阪と連携して実施しているが、これと併せて本学独自の取り組みを拡大する。

### （3）適切な体制の整備について

本学においては学生の就職指導ということで学生支援センターの就職担当部門と教員で構成する就職委員会が中心となって学生の就職支援活動を行ってきた。大学設置基準の改正を受けて、共通教育センター開講科目にキャリア部門の科目を設け、センター事務室でキャリアガイダンス・キャリア支援講座を開催のほか、学修支援室の設置など体制整備に努めている。体制整備にあたって教職員の意識改革、就業支援に対する理解と協力が不可欠であるため、外部講師を招聘して教職員研修会を行うなどし、低学年段階からのキャリア支援を推進する基盤づくりを整えているところである。

平成 24 年度よりポータルサイト内にスチューデントプロフィール（学生カルテ）が設置され、そのなかの「プロフィール」には教職員が自由に個々の学生に関する情報を書き込み、閲覧できる機能が整備された。その機能を活用し、就職関連行事への参加等や面談記録なども支援センターでは積極的に利用している。リアルタイムで、教職員の間で情報の共有化ができるため、支援センターとしても学生の出席状況や、教員によって書き込まれた情報をもとにきめ細かい指導が可能となされている。



## 学校法人相愛学園職員定年規程

昭和46年3月31日制定

### (目的)

第1条 この規程は、学校法人相愛学園（以下「学園」という。）に勤務する専任教職員（以下「職員」という。）の定年に関する事項を定めるものである。

### (定義)

第2条 定年とは定められた年齢に達することにより、職員としての身分を失う年齢をいう。

### (定年)

第3条 職員の定年はつぎのとおりとする。

- |                |      |
|----------------|------|
| (1) 大学教員       | 満68才 |
| (2) 高等学校・中学校教員 | 満65才 |
| (3) 事務局職員      | 満65才 |

2 職員は、定年に達した日の属する学年度末に退職するものとする。

### (定年延長)

第4条 前条の規定にかかわらず、理事長が学園の運営上又は教育上必要であると認めた者については、理事会の議を経てその年齢を延長することができる。

2 延長できる期間は、満68歳に達した日の属する学年度末を限度とする。

### (適用除外)

第5条 学長、校長及び副校長の職にある職員には本規程を適用しない。

### (改廃)

第6条 この規程の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。

### 附 則

1. この規程は平成2年2月1日より施行する。

### 附 則

1. この規程は平成24年3月31日より施行する。

## 相愛大学特別契約教員規程

平成22年3月23日制定

### (目的)

第1条 相愛大学（以下「本学」という。）の専任教員に、定年年齢（68才）を超えて採用する場合は、この規程の定めるところによる。

### (資格・義務)

第2条 特別契約教員とは、本学の教育方針に賛同し、大学評議会及び常任理事会が新学部又は新学科の設置にあたって特に必要と認める者で、教授たる資格を有する者とする。

2 特別契約教員は、本学以外の学校の専任教員となることはできない。

3 特別契約教員は、教授会に対する権利と義務を有する。

### (採用)

第3条 特別契約教員としての任用は、大学教員採用規程を適用する。

### (任用期間)

第4条 特別契約教員の任用期間は1年とする。ただし、それぞれ所属する教授会が更新を必要と認めた場合は、学長の進達に基づき常任理事会が決定する。ただし、任用期間は、通算して4年を超えないものとする。

### (職務)

第5条 特別契約教員は、授業・研究・学生指導に従事することをその職務とする。

### (給与)

第6条 特別契約教員の給与は、俸給、通勤手当、職務手当、超過授業手当とする。

2 俸給については、常任理事会の議を経て理事長が決定する。

### (退職手当)

第7条 退職手当は支給しない。

### (研究費)

第8条 特別契約教員の研究費は、専任教員に準ずる。

### (社会保険)

第9条 特別契約教員については、日本私立学校振興・共済事業団の加入者となる。

### (就業規則の準用)

第10条 前条までに定めるもののほか、特別契約教員の服務規律、待遇に関する基準その

他就業に関する事項については、就業規則のうち次の各条を準用する

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| (1) 第13条 (公民権の行使)         | (2) 第14条 (休日)          |
| (3) 第15条 (休日の振替)          | (4) 第16条 (時間外勤務及び休日勤務) |
| (5) 第20条 (特別休暇)           | (6) 第22条 (介護休業)        |
| (7) 第23条 (出張)             | (8) 第25条 (遵守事項)        |
| (9) 第26条 (職務に専念する義務)      | (10) 第27条 (兼職兼務の承認)    |
| (11) 第28条 (災害に際しての学園の防護)  |                        |
| (12) 第29条 (欠勤、遅刻、早退、私用外出) |                        |
| (13) 第37条 (解雇)            | (14) 第45条 (危険防止)       |
| (15) 第46条 (災害時の処置)        | (16) 第47条 (防火管理)       |
| (17) 第48条 (保健衛生)          | (18) 第49条 (健康診断)       |
| (19) 第50条 (就業禁止)          | (20) 第51条 (防疫措置)       |
| (21) 第52条 (災害補償)          |                        |

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、大学評議会の意見を聴取して常任理事会の議を経て理事長が行う。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

人文学科 履修モデル（日本文学・歴史文化コース（日本文学系））

日本の文学を中心に、基礎から応用、古典から近代までを幅広く学んでいく。同時に漢文学・日本文化史・サブカルチャーなどの周辺領域の知見を増し、日本人の心や人間関係を深く読み解く見識を身につけていく。これによって日本文化の特徴や構造を多面的に理解し、その良さを海外に発信できる人材となることを目指す。

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件								
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位										
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2	生命と人間	2									10単位	26単位	22単位以上						
		II群			大学生のための日本語入門	2			日本語表現法	2																	
	共通①	人文系	文学と人生	2															12単位			26単位	22単位以上				
		社会科学系	日本歴史入門	2					社会と芸術	2																	
		自然科学系	科学史入門	2																							
		その他	情報処理演習	2	健康とスポーツ実習	1			生涯健康とスポーツ実習	1																	
	共通②	語学関係I	英語 I	2	英語 II	2													4単位					26単位	22単位以上		
		語学関係II																									
	専門科目	ゼミナール科目	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門基礎演習A	2	専門基礎演習B	2	専門応用演習A	2	専門応用演習B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2	16単位							98単位	80単位以上
		入門科目	人文学概論	2	哲学概論	2																					
日本文化概論			2	現代社会論	2																						
キャリア支援科目		主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2							10単位									
専門関連科目		日本文学入門1	2	日本文学入門2	2	日本古典文学史	2	日本近代文学史	2	国語学演習A	2	国語学演習B	2						64単位								
				国語学概論	2	国語表現法	2	大阪文化入門B	2	映像と文学	2	演進の文学	2														
				日本文学概論	2	漢文学講読A	2	漢文学講読B	2	文化資料論A（日本文学）	2	文化資料論B（日本文学）	2														
				漢文学	2	漢文学史A	2	漢文学史B	2	現代文明論	2	日本文化特殊講義（日本文学）	2														
						日本文化史A	2	日本文化史B	2	書道A	1	書道B	1														
						サブカルチャー入門A	2	言語学概論	2	日本の哲学A	2	日本の哲学B	2														
					日本のアニメ文化	2			中之島文化論	2	日本美術史	2															
											日本漫画史	2															
他学部	他学部開放科目																	0単位	0単位								
合計単位数			22		21		20		23		17		17		2		2	124単位	124単位以上								

人文学科 履修モデル（日本文学・歴史文化コース（歴史文化系））

日本の歴史を文化史を中心に幅広く学んでいく。同時に日本文学・大阪文化・文化社会論などの周辺分野の知見を養うことで、歴史文化と現代社会との関わりを多面的・俯瞰的に理解できる人材となることを目指す。

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件									
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位											
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2	生命と人間	2								10単位	26単位	22単位以上								
		II群			大学生のための日本語入門	2			日本語表現法	2																		
	共通①	人文系	日本歴史入門	2														12単位			26単位	22単位以上						
			西洋文化史	2																								
		社会科学系			社会と芸術	2																						
		自然科学系	科学史入門	2																								
	共通②	語学関係I	英語I	2	英語II	2												4単位					26単位	22単位以上				
			語学関係II																									
	専門科目	ゼミナール科目	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門基礎演習A	2	専門基礎演習B	2	専門応用演習A	2	専門応用演習B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2							16単位	98単位	80単位以上	
		入門科目	人文学概論	2	日本史入門	2																			8単位			98単位
日本文化概論			2	哲学概論	2																							
キャリア支援科目		主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2							10単位	98単位	80単位以上								
専門関連科目		日本文学入門1	2	日本文学入門2	2	日本文化史A	2	日本文化史B	2	文化資料論A（歴史文化）	2	文化資料論B（歴史文化）	2					64単位			98単位	80単位以上						
		日本の哲学A	2	日本の哲学B	2	日中文化交流史	2	日中比較文化論	2	映像と文学	2	日本思想史	2															
				日本文学概論	2	日本古典文学史	2	日本近代文学史	2	中之島文化論	2	浪速の文学	2															
						大阪文化入門A	2	大阪文化入門B	2	現代大阪文化論	2	日本文化特殊講義（歴史文学）	2															
						サブカルチャー入門A	2	サブカルチャー入門B	2	日本社会とメディア	2	日本美術史	2															
						多文化社会論入門	2	日本漫画史	2	日本のアニメ文化	2	上方落語論	2															
							文化人類学入門	2	比較文化論	2	比較宗教学	2																
他学部	他学部開放科目																0単位	0単位										
合計単位数			22		21		20		23		18		16		2		2	124単位	124単位以上									

人文学科 履修モデル（大阪・サブカルチャーコース（サブカルチャー系））

アニメ・マンガ・SF等のサブカルチャーを中心に学びつつ、日本文化・大阪文化などの周辺領域の知見を増していく。さらに心理学・社会学などを学ぶことで若者の心や人間関係を読み解く見識を身につける。これによってオタク・マニア・萌えなどの現代文化の構造を多面的に分析できる人材となることを目指す。

科目区分			1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位		卒業要件		
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位					
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2											10単位	26単位	22単位以上		
		II群			大学生のための日本語入門	2			日本語表現法	2													
	共通①	人文系			心理学入門	2													12単位				
		社会科学系			社会と芸術	2																	
		自然科学系	科学史入門	2																			
		その他	情報と社会	2	健康とスポーツ実習	1			情報処理演習	2													
	共通②	語学関係I	英語I	2	英語II	2													4単位				
		語学関係II																					
	専門科目	ゼミナール科目	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門基礎演習A	2	専門基礎演習B	2	専門応用演習A	2	専門応用演習B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2	16単位			98単位	80単位以上
		入門科目	人文学概論	2	日本史入門	2																	
日本文化概論			2	現代社会論	2																		
人間の心と行動			2																				
キャリア支援科目		主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2							10単位					
専門関連科目		サブカルチャー入門A	2	サブカルチャー入門B	2	日本のアニメ文化	2	日本漫画史	2	日本社会とメディア	2	文化資料論B (サブカルチャー)	2						62単位				
		日本文学入門1	2	日本文学入門2	2	映像と文学	2	大阪文化入門B	2	日本のSFとバーチャル文化	2	日本文化特殊講義 (サブカルチャー)	2										
						大阪文化入門A	2	日本文化史B	2	文化資料論A (サブカルチャー)	2	上方落語論	2										
						現代大阪文化論	2	日本近代文学史	2	現代文明論	2	大阪ビジネス論	2										
						日本文化史A	2	異文化間コミュニケーション	2	家族心理学	2	日本思想史	2										
					社会心理学	2	身体論	2	消費者行動論	2	精神分析学	2											
					マス・メディア論	2			情報社会論	2													
									人間関係論	2													
他学部	他学部開放科目																	0単位	0単位				
合計単位数				22		21		22		21		20		14		2		2	124単位	124単位以上			

人文学科 履修モデル（大阪・サブカルチャーコース（大阪文化系））

大阪文化を中心に学びながら、日本の文化史や文学の知識を幅広く吸収して、大阪文化を通時的俯瞰的に考察する力の養成を目指す。同時に経済・経営に関する授業を積極的に学び、大阪に精通した企業人として活躍できる人材となることも目指す。

科目区分			1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件									
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位											
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2	生命と人間	2									8単位	32単位	22単位以上								
		II群			大学生のための日本語入門	2																							
	共通①	人文系			地理学入門（地誌を含む）	2													20単位			32単位	22単位以上						
		社会科学系	経済学入門	2			経営学入門	2	マーケティング入門	2																			
		自然科学系																											
		その他	健康とスポーツ実習	1	情報処理演習	2	生涯健康とスポーツ実習	1	キャリアデザイン演習	2	インターンシップ	1																	
	共通②	語学関係I	英会話 I	2			中国語 I	2											4単位					32単位	22単位以上				
		語学関係II																											
	専門科目	ゼミナール科目	基礎演習 A	2	基礎演習 B	2	専門基礎演習 A	2	専門基礎演習 B	2	専門応用演習 A	2	専門応用演習 B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2	16単位							92単位	80単位以上		
		入門科目	人文学概論	2	日本史入門	2																						12単位	92単位
日本文化概論			2	哲学概論	2																								
仏教学概論 A			2	現代社会論	2																								
キャリア支援科目		主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2								10単位	92単位	80単位以上								
専門関連科目		日本文学入門 1	2	言語学概論	2	大阪文化入門 A	2	大阪文化入門 B	2	中之島文化論	2	上方落語論	2						54単位			92単位	80単位以上						
		サブカルチャー入門 A	2	サブカルチャー入門 B	2	現代大阪文化論	2	大阪ビジネス論	2	文化資料論 A（大阪文化）	2	文化資料論 B（大阪文化）	2																
						日本のアニメ文化	2	日本漫画史	2	日本文化特殊講義（大阪文化）	2	浪速の文学	2																
						日本文化史 A	2	日本文化史 B	2	日本社会とメディア	2	日本美術史	2																
								身体論	2	国際経済・貿易論	2	日本思想史	2																
									日本仏教史 A	2	産業・組織心理学	2																	
											比較企業文化論	2																	
											企業経営論	2																	
他学部	他学部開放科目																	0単位	0単位										
合計単位数				21		22		21		21		17		18		2		2	124単位	124単位以上									

人文学科 履修モデル (仏教文化コース①)

仏教学・真宗学について深く学び、現代社会と向き合い、広い視点と他領域との対話可能な能力を持った、実践的な本願寺派僧侶・教団宗務員・仏教研究者等を育成する。「本願寺派教師基礎資格」を取得。

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件										
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位												
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2	生命と人間	2								8単位	28単位	22単位以上									
		II群			大学生のための日本語入門	2																							
	共通①	人文系	倫理学入門	2	心理学入門	2												16単位			28単位	22単位以上							
		社会科学系			日本国憲法	2																							
		自然科学系	科学史入門	2																									
		その他	健康とスポーツ実習	1			宗門法規	2	布教法	2																			
	共通②	語学関係I	中国語 I	2	中国語 II	2												4単位					28単位	22単位以上					
		語学関係II																											
	専門科目	ゼミナール科目	基礎演習 A	2	基礎演習 B	2	専門基礎演習 A	2	専門基礎演習 B	2	専門応用演習 A	2	専門応用演習 B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2							16単位	96単位	80単位以上		
		入門科目	人文学概論	2	哲学概論	2																						8単位	96単位
宗教学概論 A			2																										
仏教学概論 A			2																										
キャリア支援科目		主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2	データ分析	2					12単位	96単位	80単位以上									
専門関連科目		仏教史	2	宗教学概論 B	2	仏教と生活	2	サンスクリット語入門	2	仏教思想論	2	ビハハラ演習	2								60単位	96単位			80単位以上				
				仏教学概論 B	2	パーリ語入門	2	真宗史	2	宗教哲学	2	真宗伝道演習	2																
				宗教儀礼概論	2	宗教社会学	2	日本仏教史 B	2	仏教と社会福祉	2	仏教文化講読 2	2																
				真宗学概論	2	宗教史	2	仏教文化講読 1	2	宗教社会活動論	2	仏教文化演習	2																
						日本仏教史 A	2	身体論	2	真宗教学史・教団史	2	アジアの仏教と社会	2																
					真宗聖典学	2	比較宗教学	2		2																			
									真宗学特殊講義	2																			
									寺院運営論	2																			
他学部	他学部開放科目																0単位	0単位											
合計単位数			21		22		21		22		20		14		2		2	124単位	124単位以上										



人文学科 履修モデル (仏教文化コース②)

仏教思想・仏教文化を学び、成熟した感性と豊かな知性を身につけ、バランスのとれたものの見方・考え方ができる、一般企業や仏壇・仏具・法衣会社などの仏教関係企業等へ就職する社会人を育成する。

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件										
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位												
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2										8単位	36単位	22単位以上									
		II群			大学生のための日本語入門	2		環境と人間	2																				
	共通①	人文系			心理学入門	2												24単位			36単位	22単位以上							
		社会科学系	経済学入門	2	政治学入門	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2																			
		自然科学系							現代と医学	2																			
		その他	健康とスポーツ実習	1	キャリアデザイン論	2	ボランティア論	2	キャリアデザイン演習	2		インターンシップ	1																
	共通②	語学関係I	英会話I	2	英会話II	2												4単位					36単位	22単位以上					
		語学関係II																											
	専門科目	ゼミナール科目	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門基礎演習A	2	専門基礎演習B	2	専門応用演習A	2	専門応用演習B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2							16単位	88単位	80単位以上		
		入門科目	人文学概論	2	哲学概論	2																						10単位	88単位
宗教学概論A			2	現代社会論	2																								
仏教学概論A			2																										
キャリア支援科目		主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2	データ分析	2					12単位	88単位	80単位以上									
専門関連科目		仏教史	2	宗教学概論B	2	仏教と生活	2	サンスクリット語入門	2	仏教思想論	2	ビハハラ演習	2								50単位	88単位			80単位以上				
				宗教心理学	2	パーリ語入門	2	真宗史	2	宗教哲学	2	真宗伝道演習	2																
						宗教社会学	2	日本仏教史B	2	仏教と社会福祉	2	仏教文化講読2	2																
						宗教史	2	比較宗教学	2	宗教社会活動論	2	仏教文化演習	2																
						日本仏教史A	2	身体論	2	真宗儀礼演習	2	アジアの仏教と社会	2																
									真宗学特殊講義	2																			
									寺院運営論	2																			
他学部	他学部開放科目																0単位	0単位											
合計単位数			21		22		22		22		18		15		2		2	124単位			124単位以上								

人文学科 履修モデル（心理コース①）

心理学、発達臨床心理学などを学んで、自己理解、他者理解を深めるとともに対人関係スキルを向上させ、心理援助職など他者をサポートする仕事につく人材を育成する。

科目区分			1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位		卒業要件			
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位						
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2	生命と人間	2									8単位	28単位	22単位以上			
		II群			大学生のための日本語入門	2																		
	共通①	人文系			心理学入門	2					音楽の楽しみ	2							16単位					
		社会科学系					教育原論	2																
		自然科学系							現代と医学	2				科学史入門	2									
		その他			情報処理演習	2			人権教育	2	ボランティア論	2												
	共通②	語学関係I	英語 I	2	英語 II	2													4単位					
		語学関係II																						
	専門科目	ゼミナール科目		基礎演習 A	2	基礎演習 B	2	専門基礎演習 A	2	専門基礎演習 B	2	専門応用演習 A	2	専門応用演習 B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2			16単位	96単位	80単位以上
		入門科目		人文学概論	2	日本史入門	2																	
			日本文化概論	2	哲学概論	2																		
			人間の心と行動	2	現代社会論	2																		
			宗教学概論 A	2																				
キャリア支援科目			主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2	データ分析	2					12単位					
専門関連科目			社会心理学	2	パーソナリティの心理学	2	心理学実験演習	2	カウンセリング演習 I	2	カウンセリング実習	2	カウンセリング演習 II	2						54単位				
					発達心理学概説	2	知覚心理学	2	学習心理学	2	生涯発達の臨床心理学 (青年期)	2	心理学実習	2										
							生涯発達の臨床心理学 (乳幼児期)	2	生涯発達の臨床心理学 (児童期)	2	異常心理学	2	生涯発達の臨床心理学 (成人・高齢期)	2										
							人間関係論	2	心理学研究法	2	カウンセリング論 II	2	精神分析学	2										
						心理統計学	2	健康心理学	2	精神医学	2	神経心理学	2											
						カウンセリング論 I	2	身体論	2	仏教と社会福祉	2													
						仏教と生活	2																	
他学部	他学部開放科目																	0単位	0単位					
合計単位数				20		20		22		22		20		14		4		2	124単位	124単位以上				

人文学科 履修モデル (心理コース②)

社会心理学、人間関係論、産業・組織心理学、消費者行動論などを学んで、対人関係能力を身につけるとともに、企業組織においてワーク・モチベーションを培うといった従業員への対応および購買者の満足度を高めるといった消費者への対応ができる人材を育成する。

科目区分		1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件						
		前期	後期	単位	前期	後期	単位	前期	後期	単位	前期	後期	単位								
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2		仏教思想と現代	2	生命と人間	2					8単位	28単位 22単位以上						
		II群			大学生のための日本語入門	2															
	共通①	人文系			心理学入門	2								16単位							
		社会科学系					経営学入門	2	マーケティング入門	2	社会学概説	2	経済学入門			2					
		自然科学系							物理学入門	2											
		その他			情報処理演習	2					学校と教師	2									
	共通②	語学関係I	英語 I	2	英語 II	2								4単位							
		語学関係II																			
	専門科目	ゼミナール科目		基礎演習 A	2	基礎演習 B	2	専門基礎演習 A	2	専門基礎演習 B	2	専門応用演習 A	2	専門応用演習 B		2	専門研究演習	2	卒業研究	2	16単位
		入門科目		人文学概論	2	日本史入門	2														
			日本文化概論	2	哲学概論	2															
			人間の心と行動	2	現代社会論	2															
			宗教学概論 A	2																	
			仏教学概論 A	2																	
キャリア支援科目			主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2	データ分析	2					12単位		
専門関連科目			社会心理学	2	パーソナリティの心理学	2	心理学実験演習	2	学習心理学	2	生涯発達の臨床心理学 (青年期)	2	心理学実習	2					96単位 52単位		
					発達心理学概説	2	知覚心理学	2	生涯発達の臨床心理学 (児童期)	2	異常心理学	2	生涯発達の臨床心理学 (成人・高齢期)	2							
							生涯発達の臨床心理学 (乳幼児期)	2	心理学研究法	2	精神医学	2	精神分析学	2							
						人間関係論	2	健康心理学	2	家族心理学	2	神経心理学	2								
						心理統計学	2	産業・組織心理学	2	消費者行動論	2										
						グループダイナミクス	2	フィールドワーク論	2	仏教と社会福祉	2										
						社会調査方法論	2														
他学部	他学部開放科目													0単位	0単位						
合計単位数			22		20		22		22		18		14		4		2	124単位	124単位以上		

人文学科 履修モデル(国際コミュニケーションコース)

異文化理解に基づく柔軟な思考と優れた英語運用能力を身につけ、地域や国を越えて様々な人々とコミュニケーションを図り、あらゆる分野で活躍することのできる国際人を育成する。

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件				
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位						
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2										8単位	38単位	22単位以上			
		II群			大学生のための日本語入門	2		環境と人間	2														
	共通①	人文系	西洋文化史	2				世界歴史入門	2									14単位					
		社会科学系					経営学入門	2															
		自然科学系						現代と医学	2														
		その他			情報処理演習	2	ボランティア論	2	ボランティア体験	1	インターンシップ	1											
	共通②	語学関係I	英会話I	2	英会話II	2	英会話III	2	英会話IV	2								16単位					
		語学関係II	資格英語II A	2	資格英語II B	2	資格英語III A	2	資格英語III B	2													
	専門科目	ゼミナール科目	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門基礎演習A	2	専門基礎演習B	2	専門応用演習A	2	専門応用演習B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2			16単位	86単位	80単位以上
		入門科目	人文学概論	2	日本史入門	2															8単位		
日本文化概論			2	現代社会論	2																		
キャリア支援科目		主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2	データ分析	2					14単位					
		海外研修	2																				
専門関連科目		多文化社会論入門	2	文化人類学入門	2	イギリスの社会と文化	2	異文化間コミュニケーション	2	ビジネス英語	2	文化交流実践	2	アメリカの社会と文化	2	日本文化特殊講義(サブカルチャー)	2	48単位					
		文化交流論	2	国際関係入門	2	英米文学概論	2	スピーチとプレゼンテーション	2	コミュニケーション実践	2	英米文学講読	2	人間関係論	2								
				英米文化入門	2			翻訳入門	2	翻訳演習	2	企業管理	2										
								通訳入門	2	通訳演習	2												
										比較文化論	2												
									情報社会論	2													
									日本のSFとバーチャル文化	2													
他学部	他学部開放科目																0単位	0単位					
合計単位数			22		22		20		21		19		10		6		4	124単位	124単位以上				

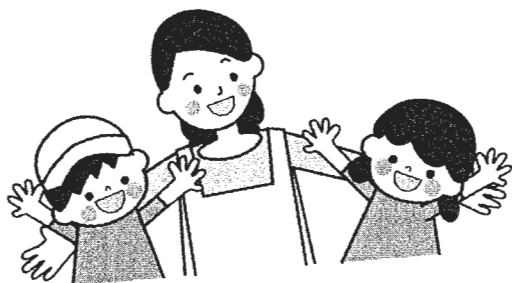
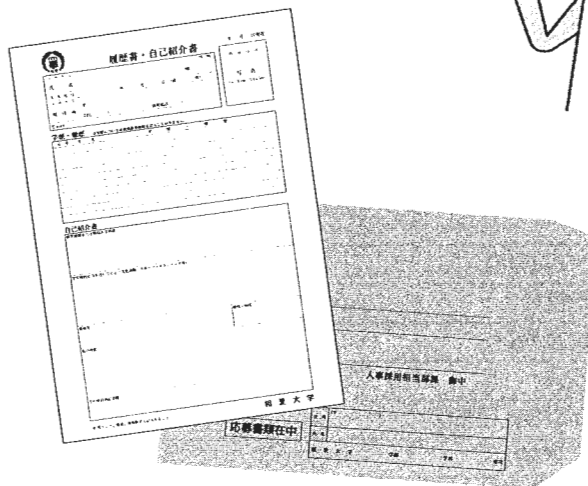
人文学科（ビジネス・社会コース）履修モデル

現代の社会を主に経済学、社会学の観点から考察し、グローバル化する様々な現場で活躍できる国際感覚豊かなビジネスパーソンをめざします。まず経済学の観点から国際的な貿易、金融の知識を習得するとともに、企業管理など経営について学びます。また社会学の観点から現代の社会問題とその課題を分析するとともに、社会調査の技術を身につけ客観的に社会を把握する能力を養います。国際コミュニケーション専修との共通の専門科目を多く配置し、希望に応じ英語力のパワーアップも可能です。

科目区分			1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件	
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎・共通科目	基礎	I群	建学の精神	2			仏教思想と現代	2											8単位	44単位	22単位以上
		II群			大学生のための日本語入門	2	科学と人間	2													
	共通①	人文系							世界歴史入門	2									28単位		
		社会科学系	経済学入門	2	社会学概論	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2											
			法学入門	2	政治学入門	2	観光学入門	2													
		自然科学系			地球と宇宙	2															
	共通②	その他	情報と社会	2	キャリアデザイン論	2	ボランティア論	2	キャリアデザイン演習	2	インターンシップ	1							8単位		
		語学関係I	英会話 I	2	英会話 II	2															
		語学関係II	資格英語 I A	2	資格英語 I B	2															
	専門科目	ゼミナール科目		基礎演習 A	2	基礎演習 B	2	専門基礎演習 A	2	専門基礎演習 B	2	専門応用演習 A	2	専門応用演習 B	2	専門研究演習	2	卒業研究	2		
入門科目			人文学概論	2	現代社会論	2													6単位		
					日本史入門	2															
キャリア支援科目			主体的学習法	2	プレゼンテーション演習	2	グループワーキング演習	2	社会人基礎力形成演習	2	社会人基礎力実践	2	データ分析	2					12単位		
専門関連科目			社会調査入門	2			社会調査方法論	2	現代社会論演習	2	社会調査演習	4	社会調査演習	-					46単位		
		マス・メディア論	2			国際政治論	2	フィールドワーク論	2	情報社会論	2	企業経営論	2								
						国際金融論	2	産業・組織心理学	2	国際経済・貿易論	2	比較企業文化論	2								
						地球環境論	2	異文化間コミュニケーション	2	消費者行動論	2	比較文化論演習	2								
							社会統計学	2			ビジネス英語	2	企業管理	2							
											アメリカ社会と文化	2	文化交流実践	2							
他学部	他学部開放科目																	0単位	0単位		
合計単位数				22		22		22		21		19		14		2		2	124単位	124単位以上	

# NEWLIFE 2012

## —キャリアプランの手引き—



### 相愛大学 学生・就職部 学生支援センター事務室

〒559-0033 大阪市住之江区南港中4-4-1

TEL: 06-6612-5932 E-mail: syusyoku@soai.ac.jp

【開室時間】(月)~(金)9:00~17:00/(土)9:00~14:00

※11:40~12:40は昼休みにつき、事務の取扱はできません。

長期休暇中の開室時間は異なりますので、掲示等で確認してください。



学生支援センター事務室は、学生生活に関わる様々な支援の他、就職するにあたって、各自の志望と個性に応じて適切な職業に就けるように「指導」「斡旋」「支援」などを行っています。

就職支援に関わる行事や講座を下表の通り実施していますので、積極的に参加してください。

## <2012年度 学生支援センター事務室 年間行事一覧>

月	日	曜日	行 事	場 所	1 回 生	2 回 生	3 回 生	4 回 生	参照ページ
4	2	月	就職ガイダンス(音楽・人間発達)	4-401			○		3
4	3	火	就職ガイダンス(人文)	4-401			○		3
4	6	金	基礎学力テスト	4-401	○				3
			社会人キャリアカアセスメント	3-460	○				3・8
4	12	木	インターンシップガイダンス	S307		○	○	○	7
			就活ウォーミングアップセミナー申込(～9/19まで随時受付)	学生支援センター事務室		○	○	○	
4	16	月	※夏期WORD講習会申込(～5/14まで)	学生支援センター事務室	○	○	○	○	5
			※基礎学力養成講座申込(～5/5まで)	学生支援センター事務室	○	○			6
4	17	火	※秘書検定申込(～5/5まで)	学生支援センター事務室	○	○	○	○	5
4	26	木	キャリアガイダンス	4-401		○			3
4	27	金	就職フォローアップ講座申込(～5/9まで)	学生支援センター事務室				○	8
5	10	木	進路登録ガイダンス	ホール			○		3
5	11	金	就職フォローアップ講座①	S307				○	8
5	14	月	基礎学力養成講座①	S307	○	○			6
5	17	木	就職適性テスト	4-401 3-460			○		3
5	18	金	就職フォローアップ講座②	S307				○	8
5	21	月	基礎学力養成講座②	S307	○	○			6
5	25	金	就職フォローアップ講座③	S307				○	8
5	28	月	基礎学力養成講座③	S307	○	○			6
5	31	木	留学生のための就職支援講座	S307			○	○	5
			夏期WORDクラス発表	学生支援センター事務室	申込者対象				
6	1	金	進路登録票提出	学生支援センター事務室			○		3
6	4	月	基礎学力養成講座④	S307	○	○			6
6	11	月	基礎学力養成講座⑤	S307	○	○			6
6	13	水	就活ウォーミングアップセミナー①	S307		○	○	○	7
6	14	木	就職サイト活用法(仕事研究①)	ホール			○		3
6	17	日	秘書検定試験	S307	申込者対象				5
6	20	水	就活ウォーミングアップセミナー②	S307		○	○	○	7
6	21	木	自己分析対策講座	ホール			○		3
6	27	水	就活ウォーミングアップセミナー③	S307		○	○	○	7
6	28	木	幼稚園教諭・保育士就職希望者対象マナー講座	S307		○	○	○	4
7	4	水	就活ウォーミングアップセミナー④	S307		○	○	○	7
7	11	水	就活ウォーミングアップセミナー⑤	S307		○	○	○	7
7	12	木	就職活動対策について(仕事研究②)	S307			○		3
7	18	水	就活ウォーミングアップセミナー⑥	S307		○	○	○	7
7	19	木	幼稚園教諭・保育士就職希望者対象就職説明会	S307				○	4
7	25	水	就活ウォーミングアップセミナー⑦	S307		○	○	○	7
7	26	木	キャリアガイダンス	4-401	○				3
8	6	月	夏期WORD2007基礎・応用講座(～8/10まで)	7-236	申込者対象				5
8	20	月	夏期MOS-WORD2007試験対策講座(～8/31まで 土、日除く)	7-236	申込者対象				5

月	日	曜日	行 事	場 所	1 回 生	2 回 生	3 回 生	4 回 生	参照ページ
9	19	水	就活ウォーミングアップセミナー⑧【インターンシップ体験発表】	S307		○	○	○	7
9	20	木	社会人キャリアカアセスメント	4-401 3-460		○			3・8
9	24	月	基礎学力養成講座⑥	S307	○	○			6
9	25	火	※秘書検定申込(～10/5まで)	学生支援センター事務局	○	○	○	○	5
9	27	木	論作文・エントリーシート対策講座	4-401			○		4
10	1	月	基礎学力養成講座⑦	S307	○	○			6
10	5	金	社会人基礎力チャレンジセミナー申込(～10/23まで)	学生支援センター事務局	○	○			6
10	8	月	基礎学力養成講座⑧	S307	○	○			6
10	11	木	SPI対策講座①	4-401			○		4
10	15	月	基礎学力養成講座⑨	S307	○	○			6
10	18	木	SPI対策講座②	4-401			○		4
10	25	木	業界研究について(仕事研究③)	S307			○		4
10	29	月	基礎学力養成講座⑩	S307	○	○			6
11	7	水	社会人基礎力チャレンジセミナー①	S307	○	○			6
11	8	木	新聞の読み方について(仕事研究④)	S307			○		4
11	11	日	秘書検定試験	S307	申込者対象				5
11	14	水	社会人基礎力チャレンジセミナー②	S307	○	○			6
11	21	水	社会人基礎力チャレンジセミナー③	S307	○	○			6
11	22	木	就職試験内定者体験発表会	ホール			○		4
11	28	水	社会人基礎力チャレンジセミナー④	S307	○	○			6
12	5	水	社会人基礎力チャレンジセミナー⑤	S307	○	○			6
12	13	木	面接トライアル講座①	ホール			○		4
12	14	金	公務員試験ガイダンス 公務員試験対策講習会申込(～1/29まで)	S307 学生支援センター事務局	○	○	○	○	6
12	20	木	就職活動のすすめ方①	S307			○		4
1	10	木	面接トライアル講座② 公開模擬面接	ホール			○		4
1	11	金	※春期EXCEL講習会申込(1/26まで)	学生支援センター事務局	申込者対象				5
1	17	木	就職活動のすすめ方②	S307			○		4
1	24	木	※就職模擬試験	S307			○		4
1	29	火	春期EXCELクラス発表	学生支援センター事務局	申込者対象				5
2	12	火	グループディスカッション模擬練習	S307			○		4
2	12	火	先輩との就職セミナー	ラウンジ			○		4
2	13	水	グループ面接模擬練習	S307			○		4
2	14	木	グループ面接模擬練習	S307			○		4
2	15	金	公務員試験受験対策講習会(～2/22まで、日除く)	S307	申込者対象				6
2	25	月	春期EXCEL2007基礎・応用講座(～3/1まで)	7-236	申込者対象				5
3	4	月	春期MOS-EXCEL2007試験対策講座(～3/15まで、土、日除く)	7-236	申込者対象				5
3	12	火	ヤマハシステム講師資格・グレード試験説明会 ヤマハ大人の音楽教室講師試験説明会	S307	○	○	○	○	4
3	13	水	カワイ音楽教室講師・グレード試験説明会	S307	○	○	○	○	4

注1. ※印の行事・講座については受講料、受験料が必要となります。(P5.～8参照)

注2. ■■■は3回生対象の行事であっても、一部のものを除き1、2回生の参加も可能です。  
詳しくは学生支援センター事務局までお問い合わせください。

注3. 行事・講座に関する詳細は、学生支援センター事務局(学生厚生館2F)前と、教学課前の2箇所と、ポータルに掲示されます。

注4. 上記表に記載の日程や教室が、事情により変更となる場合がありますので、掲示・ポータル等には注意してください。



## <行事内容について> (P1.2から抜粋し、再掲しています)

### 1回生対象のキャリア関連行事

月	日	曜日	行事・講座名	内 容
4	6	金	基礎学力テスト	自分の学力を知り、これからの学習目標を設定します。
			社会人キャリア力アセスメント	社会人キャリア力とは、社会人基礎力と社会常識力を合わせたものを言います。自分の「多様な人々と仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力と読み・書き・計算・マナー・時事問題などの常識力を量ります。 (P.8参照)
7	26	木	キャリアガイダンス	これからの大学生活の中で目標を策定していきます。

### 2回生対象のキャリア関連行事

月	日	曜日	行事・講座名	内 容
4	26	木	キャリアガイダンス	1回生の内容を振り返り、今後の学生生活の過ごし方を再確認します。
9	20	木	社会人キャリア力アセスメント	1回生で行ったアセスメントと比較し、社会人基礎力と社会人常識力の伸び幅を客観的に検証します。

### 3回生対象キャリア関連行事

就職活動に必要な行事です。必ず出席のこと。

月	日	曜日	行事・講座名	内 容
4	2・3	月・火	就職ガイダンス	就職支援の行事の年間スケジュールを説明します。
5	10	木	進路登録ガイダンス ※(要) 全員出席	職業安定法に基づく求職登録について説明します。 文部科学省および厚生労働省の調査がありますので、全員の進路登録が必要となります。そのための「進路登録票」の記入の仕方について説明を行います。 ※進路登録票提出 6月1日(金) 厳守 (全員要提出)
	17	木	就職適性テスト	自己の適性や能力を客観的に把握し、進路決定の参考となるテストです。 ※無料
6	14	木	就職サイト活用法 (仕事研究①)	就職情報企業が管理運営をしている、就職サイトへの登録・使用方法を説明します。当サイトにおけるインターンシップについても説明します。
	21	木	自己分析対策講座	就職活動において必須の自己分析の方法を学びます。 「就職活動サクセスシート・サクセス資料」を配布します。
7	12	木	就職活動対策について (仕事研究②)	就職情報企業より講師を招き、就職活動のスケジュールおよび活動対策についての説明会です。
9	27	木	論作文・ エントリーシート対策講座	大半の企業から提出を求められるエントリーシートについて書き方のポイントを学びます。また、作文の書き方など、忘れがちなポイントを見直します。
10	11	木	SPI対策講座①	SPIとは、基本能力と性格を分する適性テストの一つです。 多くの企業が採用試験としてSPIを使用しています。
	18	木	SPI対策講座②	
	25	木	業界研究について (仕事研究③)	就職情報企業より講師を招いての、企業研究・業界研究の方法と職種に関する講座です。

月	日	曜日	行事・講座名	内 容
11	8	木	新聞の読み方について (仕事研究④)	日本経済新聞社より講師を招いて、時事問題対策のための「新聞の読み方」を学習します。
	22	木	就職内定者体験発表会	就職活動を終えた4回生の就職活動のポイント、成功例、失敗例などの経験談を聞いて、今後の就職活動の参考にします。
12	13	木	面接トライアル講座①	面接におけるマナーと話し方についての講座です。
	14	金	公務員試験ガイダンス	東京アカデミーより講師を招いて、公務員全般に関するガイダンス(教員を除く)を行います。2/15~22まで公務員試験対策講習会を実施します。(P.6参照) ※申込制
	20	木	就職活動のすすめ方①	これからの就職活動のすすめ方を指導します。本学に届いている求人票の説明、および採用試験に必要な証明書の申込方法、公欠の取り方などを説明します。プレースメントデータ(本学求人データ)を配布します。
1	10	木	面接トライアル講座② (公開模擬面接)	6人の方に段上に上がってもらい公開模擬面接を行います。その様子を見て、2/13・14のグループ面接模擬演習へ活かします。
	17	木	就職活動のすすめ方②	これからの就職活動活動のノウハウについてお話します。プレースメントガイド(就職の手引き)を配布します。
	24	木	就職模擬試験	一般教養模擬試験を就職試験直前の力試しとして行います。 ※申込制、有料(700円)
2	12	火	グループディスカッション 模擬練習	リクルートスーツを着用し、実際にグループディスカッションを体験します。 ※申込制
		火	先輩との就職セミナー	OB・OGの方との懇談会です。就職活動や仕事のことなど聞きにくいことでも気軽に話せるチャンスです。是非とも参加してください。 ※申込制
	13・14	水・木	グループ面接模擬練習	リクルートスーツを着用し、実際にグループ面接を体験します。 ※申込制

#### 4回生対象キャリア関連行事

月	日	曜日	行事・講座名	内 容
6	28	木	幼稚園教諭・保育士 就職希望者対象 マナー講座	幼児教育現場で要求されるマナーについて学びます。就職活動だけでなく、実習中にも必要となる知識です。
7	19	木	幼稚園教諭・保育士 就職希望者対象 就職説明会	幼稚園・保育園の就職活動のすすめ方を指導します。

#### 全学年申込者対象キャリア関連行事

月	日	曜日	行事・講座名	内 容
3	12	火	ヤマハシステム講師資格・ グレード試験説明会 ヤマハ大人の音楽教室講師試験 説明会	ヤマハシステム講師 ヤマハ大人の音楽教室講師の採用試験の説明、および採用試験時に有利となるグレード試験の説明をします。 ※申込制
	13	水	カワイ音楽教室講師・グレード 試験説明会	カワイ音楽教室講師の採用試験、および採用試験時に有利となるグレード試験の説明をします。 ※申込制

## 〈各講習会・試験について〉

必要な講座を選択して就職活動に活かしてください。

### 【1】 WORD、EXCEL2007 基礎・応用講習会

＝全学年対象＝ ※申込 **要**

#### MOS-WORD、MOS-EXCEL2007 試験対策講習会

企業では、PCでの文書やデータ作りは不可欠です。少しでも早い段階から、アプリケーションソフトに慣れ、就職活動が始まるまでには、MOS-WORD2007、MOS-EXCEL2007の資格取得目指す講座になります。MOS試験を受験希望者は必ず基礎・応用講習会からの受講が必須です。

	申込期間	クラス発表	開講日	開講時間
夏期集中 WORD 基礎・応用講座	4月16日(月) ～5月14日(月)	5月31日(木)	8月6日(月)～10日(金)(5日間)	【基礎・応用】(午前・午後どちらか選択) 午前クラス 9:30～12:30 (90分×2コマ) 午後クラス 13:30～16:30 (90分×2コマ)
夏期集中 MOS-WORD 試験対策講座			8月20日(月)～8月31日(金) 土日除く(10日間)	
春期集中 EXCEL 基礎・応用講座	1月11日(金) ～26日(土)	1月29日(火)	2月25日(月)～3月1日(金) (5日間)	【MOS】(午前のみ) 午前クラス 9:30～12:30 (90分×2コマ)
春期集中 MOS-EXCEL 試験対策講座			3月4日(月)～15日(金) 土日除く(10日間)	

・場所:7-236 教室(予定)

・受講料: 基礎・応用講習会13,000円、MOS講習会25,000円  
(MOSの試験料は12,390円別途)

WORD 試験日	平成24年9月23日(日)
EXCEL 試験日	平成25年3月17日(日)(予定)

・申込者が10名以下のクラスは開講できませんので、クラスを変更する場合があります。

・申込が多数の場合は申込順、学年を考慮し受講者を絞り込む場合があります。

・申込期間締切後、クラス発表後に定められた期限までに受講料を納入してください。

申込については随時掲示・ポータルにてお知らせします。

・MOS試験の団体申し込みについては、後日お知らせします。

### 【2】 秘書検定試験

＝全学年対象＝ ※申込 **要**

一般事務職を希望する方であれば誰でも備えていなければならない職能としての基本的な実務知識を問う検定試験です。受験要領等詳細については、別途掲示等にて行います。

	申込期間	検定日	会場
第97回秘書検定試験	4月17日(火)～5月5日(土)	6月17日(日)	本学
第98回秘書検定試験	9月25日(火)～10月5日(金)	11月11日(日)	

・受験料は、教学課前の証明書発行機にて「申込書」を購入:準1級4,800円 2級3,700円 3級2,500円

◆1級は本学では実施しません

**【3】 公務員試験対策講習会(教員採用試験を除く)****= 全学年対象 = ※申込 **要****

公務員試験ガイダンス 12月14日(金) 16:40~18:10 S307にて実施  
 公務員全般に関するガイダンス(教員採用試験を除く)を行います。

公務員志望者対象の試験対策講座ですが、一般企業における一般常識・SPI対策にもなります。

- ・開講日：2月15日、16日、18日、19日、20日、21日、22日(全7日間)
  - ・時間：10:30~12:00、13:00~14:30(2コマ/日)
  - ・場所：S307
  - ・受講料：20,000円(7回すべての出席が望ましい)
  - ・申込期間：12月14日(金)~1月29日(火)
- ※申込者が25名以下の場合には開講できません。

**【4】 基礎学力養成講座****= 1・2回生対象 = ※申込 **要****

1・2回生を対象とした就職準備のための講座で、就職活動に必要とされる基礎的知識を確かなものにしていくことを目的としています。卒業後、社会人として必要な知識ですので、是非受講してください。講座では、言語能力分野(国語)と数学的能力分野(数学)を復習します。

- ・日程：前期 5月14日、21日、28日、6月4日、11日  
後期 9月24日、10月1日、8日、15日、29日(全10回 毎月曜日)
- ・定員：100名
- ・時間：16:40~18:10
- ・場所：S307
- ・受講料：無料(テキスト代 1,500円のみ必要)  
テキスト代を教学課前の証明書発行機にて「申込書」を購入後、学生支援センター事務室にて申込みこと。
- ・申込期間：4月16日(月)~5月5日(土) ※申込期間外の申込は要相談。学生支援センター事務室まで。

**【5】 社会人基礎力チャレンジセミナー****= 1・2回生対象 = ※申込 **要****

学生生活を充実したものにするために何が必要かを考えるセミナーです。社会に出るための基礎知識や、様々な場面で使える会話術、マナーも学びます。

- ・日時：11月7日、14日、21日、28日 12月5日 全5回(16:40~18:10)
- ・場所：S307
- ・受講料：無料
- ・申込期間：10月5日(金)~23日(火)

月日	講座内容
11月7日	社会人基礎力とは?~計画の立て方、企画の仕方
11月14日	自己分析で考えてみよう~弱みは強みに変えよう
11月21日	情報収集の仕方と求人票の見方~入りたい会社を探す力をつけて前に踏み出そう
11月28日	コミュニケーションアップ~覚えておくとお得な会話術、ビジネスマナー
12月5日	面接の基本を押さえる~実行してみよう

【6】 就活ウォーミングアップセミナー =2回生以上対象= ※申込(要)(随時受付)

インターンシップ(夏休みを利用)を体験して就職活動に挑みたい人、ビジネスマナーを学びたい人の為の講座です。  
 インターンシップ参加希望者は必須講座です。

- ・日 時 : 全 8 回 (16:40~18:10)
- ・場 所 : S307
- ・申込期間: 4月12日(木)~(随時受付)

月 日	講座内容
6月13日	会社とは?組織って何?一足早くビジネスワールドを覗こう
6月20日	自分のキャリアをデザインし、ビジネスマナーをスキルアップ
6月27日	イメージした会社での今後の行動を策定~私が入りたい会社はこんな会社
7月4日	インターンシップの計画の立て方、企画の仕方~働く姿をイメージしよう
7月11日	どんな会社があるんだろう、合うだろう~探索して見よう
7月18日	コミュニケーションアップ~会社で必要な会話術、ビジネスマナー、ビジネス知識
7月25日	プレゼンテーション力を身に付ける~構成の仕方、発表の仕方
9月19日	自分の体験をカタチにする~就職活動に向けて (インターンシップ体験発表)

☆インターンシップ参加希望者は、4月12日「インターンシップガイダンス」に必ず出席してください。

＝インターンシップとは＝

1. インターンシップとは、一般的には学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う(企業が提供する)ことを指し、一定の職業を体験することにより、より適性にあった職業選択を可能にし、学校から職場への円滑な移動を図ることを目的としたものです。
2. インターンシップに関しては、特段の取り決めがない限り、企業にはインターンシップ参加者を採用する義務はありませんし、参加学生についても、同様に当該企業への入社義務はありません。  
 (厚生労働省>労働政策研究支援情報>労働問題 Q&A より)

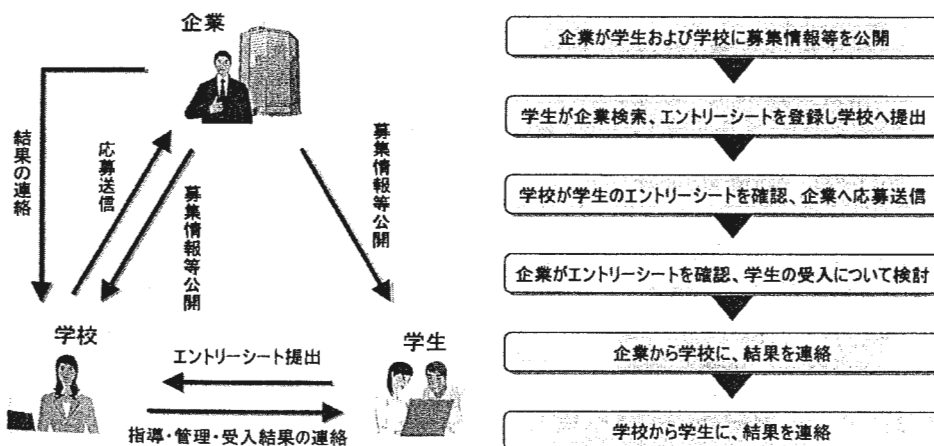
◎学校から登録できるインターンシップ

・大学コンソーシアム大阪 <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>参照ください

〈インターンシップの流れ〉 ※日程等について変更がある場合は掲示・ポータルにてお知らせします  
 出願(5月締切)→コンソーシアム面接(6月)→インターンシップ先発表→事前研修(7月)  
 →インターンシップ参加→事後研修(10月)

・インターンシップ・キャンパスウェブ <http://www.campusweb.or.jp/internship/web/>参照ください

全国展開のさまざまな業種の受け入れがあります。



【7】 就職フォローアップ講座

=4回生対象= ※申込 **要**

就職活動に出遅れた人、なかなか思うように内定がとれない人、そんな人たちへ 3 週間連続の集中フォローアップ講座です。

- ・日 時 : 5月11日、18日、25日 全3回(16:40~18:10)
- ・場 所 : S307
- ・受講料 : 無料
- ・申込期間: 4月27日~5月9日

【8】 基礎学力テスト

=1回生対象=

基礎学力テストでは、英語・国語・数学のテストを実施します。

- ・日 時 : 4月6日 10:30~11:30(英語) 12:30~14:00(国語・数学)
- ・場 所 : 3-460(人間発達学部)、4-401(音楽学部、人文学部)

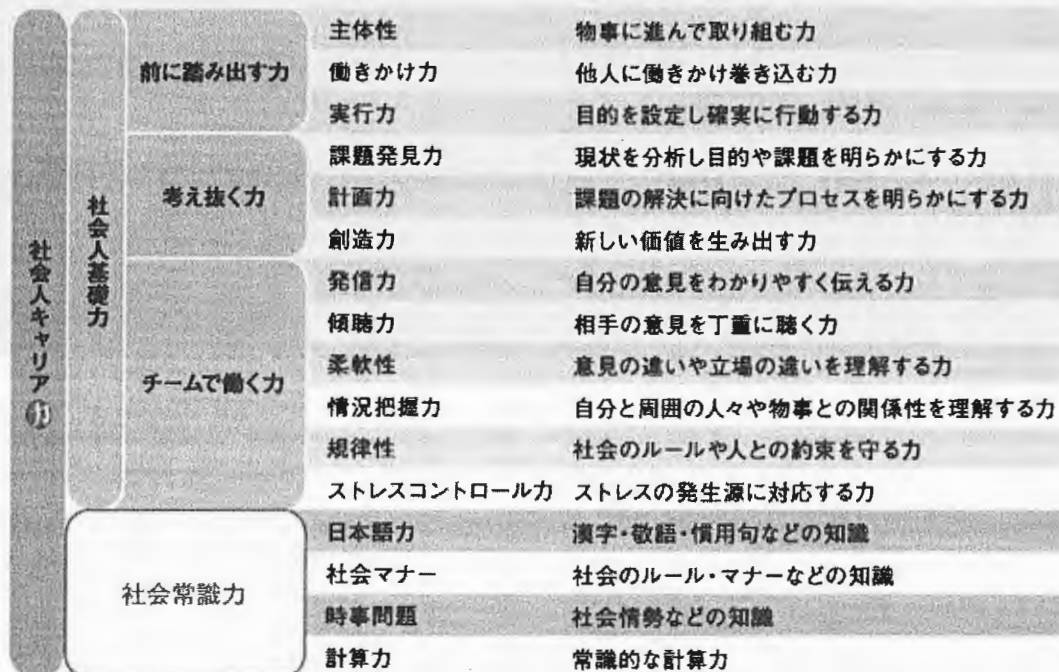
【9】 社会人キャリアカアセスメント

=1・2回生対象=

社会人キャリアカとは、「多様な人々と仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力(社会人基礎力)と社会常識力(読み・書き・計算・マナー・時事問題)等を発揮できる能力」のことで、「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として経済産業省が 2006 年から提唱しているものです。これらの能力を図る調査を行います。

- ・日 時 : [1回生]4月6日 14:10~15:20 [2回生]9月20日 13:20~14:50
- ・場 所 : 3-460(人間発達学部)、4-401(音楽学部、人文学部)

社会人キャリアカ = 社会人基礎力 + 社会常識力



★学生支援センター事務室では就職に関する個人相談(申込制)、個人面接模擬練習(申込制)、履歴書の添削等も行いますので積極的に利用してください。

★資料室について

資料室(学生支援センター事務室隣)は、就職活動をする為の準備や企業の情報などの収集、調査研究する場合などに利用するスペースです。

- ・パソコンによる企業検索…ポータルサイトから本学に届いた求人票の検索、就職サイトでの検索などのためにPCが6台設置されています。必要な情報の印刷も可能です。
- ・業種別企業ファイル…求人先から送られてきた入社案内、企業パンフレットなどがファイルされています。
- ・入社試験内容報告書…先輩達が受験した会社の試験内容や感想が書かれています。
- ・参考図書…就職活動問題集、業界紹介誌、会社四季報、会社名鑑、各就職ガイド、秘書検定試験参考本など就職活動に必要な図書が閲覧できます。

★行事によってはDVDの貸出を行っているものもありますので、「DVD貸出情報」(学生支援センター事務室前)で確認して利用してください。

★学生支援センター事務室前には、就職セミナーや合同説明会など就職活動に関するチラシを設置、配布をしています。

# 学修支援室 開室時間表

平成24年4月11日から

月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

4 コマ目	通常開室	科目	就職のための一般常識	閉室	ライティング相談	就職のための英語	就職のための数学	閉室
		担当	三好		千葉	山下	江草	
5 コマ目	予約専用	担当	三好	千葉	江草	山下	杉本	閉室

予約制を始めました。希望する日の前々日までにメールを出してください。

→ [kyotsukyoiku@soai.ac.jp](mailto:kyotsukyoiku@soai.ac.jp)

「就職のための一般常識」と「ライティング相談」を新設しました。

「就職のための一般常識」は就職試験の社会系統に対応します。

「ライティング相談」はエントリーシート・履歴書・レポート等に対応します。

共通教育センター



## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
1	学長	カネコ サトル 金児 暁嗣 <平成22年4月>		博士 (文学)		相愛学園 理事長 (平成24年1月) 相愛大学 学長 (平成22年4月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
（人文学部人文学科）												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 係 る 大 学 等 の 職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
1	兼任	学長	カネコ サトル 金児 暁嗣 <平成25年4月>		博士 (文学)		宗教心理学	1後	2	1	相愛学園理事長 (平24.12) 相愛大学学長 (平22.4)	5日
2	専	教授 (学部長)	ヤマモト ユキオ 山本 幸男 <平成25年4月>		博士 (文学)		人文学概論 ※ 日本文化史A 日本文化史B 文化資料論A (歴史文化) 日本文化特殊講義 (歴史文化) 基礎演習B 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	1前 2前 2後 3前 3後 1後 3前 3後 4前 4後	0.4 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平10.4)	5日
3	専	教授	スズキ ノリオ 鈴木 徳男 <平成25年4月>		博士 (文学)		日本文学入門1 日本文学概論 文化資料論A (日本文学) 日本文化特殊講義 (日本文学) 基礎演習A 専門基礎演習A 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	1前 1後 3後 3後 1前 2前 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平14.4)	5日
4	専	教授	ソン キュウフ 孫 久富 <平成25年4月>		博士 (文学)		漢文学講読B 日中文化交流史 日中比較文化論 文化資料論B (歴史文化) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究 海外研修	1後 2前 2後 3後 3前 3後 4前 4後 1前集中	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平10.4)	5日
5	専	教授	トリイ マサハル 鳥井 正晴 <平成25年4月>		修士※ (文学)		文学と人生 日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 基礎演習A 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	1前 2後 3後 1前 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平14.4)	5日

6	専	教授	クレタニ ミツトシ 呉谷 充利 <平成25年4月>	博士 (工学)	西洋美術史 社会と芸術 大阪文化入門B 中之島文化論 文化資料論A (大阪文化) 専門基礎演習B 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	2前 1後 2後 3前 3前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平18. 4)	5日
7	専	教授	シヤク テッシュウ 积 徹宗 <平成25年4月>	博士 (学術)	建学の精神 仏教思想と現代 人文学概論 ※ 宗教学概論B 宗教史 寺院運営論 仏教文化講読1 専門研究演習 卒業研究	1前 2後 1前 1後 2前 3前 2後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 0.4 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平22. 4)	5日
8	専	教授	ハツヅカ マネコ 初塚 真喜子 <平成25年4月>	文学修士	カウンセリング演習I 心理学実習 生涯発達の臨床心理学 (乳幼児期) 生涯発達の臨床心理学 (青年期) 発達心理学概説 カウンセリング論I 専門応用演習A 専門研究演習 卒業研究	2後 3後 2前 3前 1後 2前 3前 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平12. 4)	5日
9	専	教授	ブルーナ カックス テリーサ BRUNER-COX, Teresa <平成25年4月>	M. A. T (TESL/ TEFL)  B. A (Anthropology)  (米国)	文化人類学入門 ※ 異文化間コミュニケーション スピーチとプレゼンテーション ビジネス英語 コミュニケーション実践 アメリカの社会と文化 専門基礎演習B 海外研修	1後 2後 2後 3前 3前 3前 2後 1後集中	0.9 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平8. 4)	5日
10	専	教授	キノシタ(モリミン) アリコ 木下(森光) 有子 <平成25年4月>	修士※ (文学)	多文化社会論入門 ことばと文化 文化人類学入門 ※ 通訳入門 通訳演習 文化交流実践 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	1前 1前 1後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後	2 2 1.1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平14. 4)	5日
11	専	教授	カタオカ タダシ 片岡 尹 <平成25年4月>	経済学博士	経済学入門 国際金融論 企業管理 国際経済・貿易論 企業経営論 比較企業文化論 専門研究演習 卒業研究	1前 2前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 教授 (平23. 4)	5日

12	専	准教授	タカキ マナブ 高木 学 <平成25年4月>	修士※ (社会学)	社会学概説 サブカルチャー入門B 日本社会とメディア 日本のアニメ文化 文化資料論B (サブカルチャー) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究 グループワーキング演習	1後 1後 3前 2前 3後 3前 3後 4前 4後 2前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平23. 4)	5日
13	専	准教授	オノ マコト 小野 真 <平成25年4月>	博士 (文学)	宗教学概論A 仏教思想論 宗教哲学 比較宗教学 基礎演習B 専門応用演習A 専門応用演習B	1前 3前 3前 2後 1後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平20. 4)	5日
14	専	准教授	ササキ タカアキ 佐々木 隆晃 <平成25年4月>	修士※ (文学)	建学の精神 仏教学概論B 真宗学概論 真宗聖典学 真宗特殊講義 真宗伝道演習 基礎演習A 専門基礎演習B プレゼンテーション演習	1前 1後 1後 2前 3前 3後 1前 2後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平23. 4)	5日
15	専	准教授	マスダ ケイ 益田 圭 <平成25年4月>	修士 (人間・環境学)	人権教育 人文学概論 ※ 心理学実習 人間関係論 心理統計学 産業・組織心理学 社会統計学 専門基礎演習A 専門応用演習A 専門応用演習B 主体的学習法 データ分析	2前・後 1前 3後 2前 2前 2後 2後 2前 3前 3後 1前 3後	4 0.4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平18. 4)	5日
16	専	准教授	ニシサコ セイイチロウ 西迫 成一郎 <平成25年4月>	修士※ (社会学)	健康科学 心理学実習 社会心理学 健康心理学 グループダイナミックス 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	2前 3後 1前 2後 2前 3後 4前 4後	4 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平15. 4)	5日
17	専	准教授	イシカワ レイコ 石川 玲子 <平成25年4月>	文学修士	資格英語ⅢA 資格英語ⅢB 英米文化入門 英米文学概論 イギリスの社会と文化 翻訳入門 翻訳演習 英米文学講読 専門研究演習 卒業研究	2前 2後 1後 2前 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平14. 4)	5日

18	専	准教授	カド カズマサ 嘉戸 一将 <平成25年4月>	修士 (人間・環境学)		日本史入門 日本思想史 文化交流論 比較文化論 比較文化論演習 基礎演習B 専門基礎演習A 専門応用演習A 専門応用演習B 社会人基礎力実践	1後 3後 1前 3前 3後 1後 2前 3前 3後 3前	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平21. 4)	5日
19	専	准教授	フジタニ タダアキ 藤谷 忠昭 <平成25年4月>	博士 (社会学)		人文学概論 ※ 現代社会論 フィールドワーク論 情報社会論 社会調査入門 現代社会論演習 社会調査方法論 社会調査演習 専門研究演習 卒業研究	1前 1後 2後 3前 1前 2後 2前 3通 4前 4後	0.4 2 2 2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平15. 4)	5日
20	兼任	教授	エグサ ヒロユキ 江草 浩幸 <平成25年4月>	学術博士		大学生のための日本語入門 心理学入門 知覚心理学 学習心理学 心理学実験演習	1前・後 1後 2前 2後 2前	4 2 2 2 4	2 1 1 1 2	相愛大学 共通教育センター 教授 (平23. 4)	
21	兼任	教授	チバ シンヤ 千葉 真也 <平成25年4月>	修士※ (文学)		日本文化概論 大学生のための日本語入門 日本語表現法	1前 1前・後 2前・後	2 4 4	1 2 2	相愛大学 共通教育センター 教授 (平20. 4)	
22	兼任	教授	ヤマモト カズアキ 山本 和明 <平成25年4月>	文学修士※		日本文学入門2 日本古典文学史 浪速の文学	1後 2前 3後	2 2 2	1 1 1	相愛大学 人間発達学部 教授 (平20. 4)	
23	兼任	教授	ヤマシタ ノボル 山下 昇 <平成25年4月>	修士 (文学)		大学生のための日本語入門 インターンシップ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前・後 3前・後集中 1前 1後 2前 2後	4 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1	相愛大学 共通教育センター 教授 (平20. 4)	
24	兼任	教授	ハセガワ セイイチ 長谷川 精一 <平成25年4月>	博士 (教育学)		教育原論 学校と教師	1前・後 2前・後	4 4	2 2	相愛大学 共通教育センター 教授 (平24. 4)	
25	兼任	教授	ナカムラ ケイジ 中村 圭爾 <平成25年4月>	文学博士		人文学概論 ※ 社会人基礎力形成演習	1前 2後	0.4 2	1 1	相愛大学人文学部 教授 (平22. 4)	
	兼任	講師	ナカムラ ケイジ 中村 圭爾 <平成27年4月>	文学博士		人文学概論 ※ 社会人基礎力形成演習	1前 2後	0.4 2	1 1		
26	兼任	教授	ハシモト ジュンイチロウ 橋元 淳一郎 <平成25年4月>	修士 (理学)		サブカルチャー入門A 物理学入門	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 教授 (平9. 4)	
	兼任	講師	ハシモト ジュンイチロウ 橋元 淳一郎 <平成27年4月>	修士 (理学)		サブカルチャー入門A 日本のSFとバーチャル文化 文化資料論A (サブカルチャー) 現代文明論 物理学入門 日本文化特殊講義 (サブカルチャー)	1前 3前 3前 3前 1後 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1		

27	兼任	教授	クワハラ ヨシト 桑原 義登 <平成25年4月>	農学士		人間の心と行動 生涯発達臨床心理学 (児童期) 心理学研究法	1前 2後 2後	2 2 2	1 1 1	相愛大学文学部 教授 (平17. 4)	
	兼任	講師	クワハラ ヨシト 桑原 義登 <平成27年4月>	農学士		人間の心と行動 カウンセリング演習Ⅱ カウンセリング実習 生涯発達臨床心理学 (児童期) 心理学研究法	1前 3後 3前 2後 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1		
28	兼任	教授	マエガキ カズヨシ 前垣 和義 <平成26年4月>	経営学士		大阪文化入門A 現代大阪文化論 大阪ビジネス論	2前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	相愛大学文学部 教授 (平23. 4)	
	兼任	講師	マエガキ カズヨシ 前垣 和義 <平成27年4月>	経営学士		大阪文化入門A 現代大阪文化論 大阪ビジネス論 文化資料論B (大阪文化) 日本文化特殊講義 (大阪文化)	2前 2前 2後 3後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1		
29	兼任	教授	オオムラ エイショウ 大村 英昭 <平成26年4月>	博士 (社会学)		宗教社会学	2前	2	1	相愛大学文学部 教授 (平23. 4)	
	兼任	講師	オオムラ エイショウ 大村 英昭 <平成27年4月>	博士 (社会学)		宗教社会学	2前	2	1		
30	兼任	准教授	ナオバヤシ フタイ 直林 不退 (ナオバヤシ シュウイチ) (直林 修一) <平成25年4月>	博士 (文学)		仏教思想と現代 大学生のための日本語入門 日本仏教史A 日本仏教史B	2前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学文学部 准教授 (平23. 4)	
	兼任	講師	ナオバヤシ フタイ 直林 不退 (ナオバヤシ シュウイチ) (直林 修一) <平成27年4月>	博士 (文学)		仏教思想と現代 大学生のための日本語入門 日本仏教史A 日本仏教史B	2前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1		
31	兼任	准教授	ミヨシ ユキハル 三好 幸治 <平成25年4月>	法学修士		法学入門 日本国憲法	1前 1後	2 4	1 2	相愛大学 共通教育センター 准教授 (平20. 4)	
32	兼任	講師	ワタナベ ノリオ 渡邊 了生 <平成25年4月>	修士※ (文学)		仏教学概論A	1前	2	1	東京仏教学院 講師 (平12. 4)	
33	兼任	講師	ヒダカ アキラ 日高 明 <平成25年4月>	修士※ (文学)		哲学概論 仏教と社会福祉	1後 3前	2 2	1 1	相愛大学文学部 兼任講師 (平23. 4)	
34	兼任	講師	ハチヤ マユミ 蜂矢 真弓 <平成25年4月>	博士 (文学)		国語学概論 国語学演習A 国語学演習B	1後 3前 3後	2 2 2	1 1 1	相愛大学文学部 兼任講師 (平19. 9)	
35	兼任	講師	クリハラ ユカ 栗原 由加 <平成25年4月>	博士 (言語文化学)		言語学概論	1後	2	1	相愛大学文学部 兼任講師 (平18. 4)	
36	兼任	講師	キタヤマ ミツマサ 北山 円正 <平成25年4月>	文学修士		漢文学講義A 漢文学	1前 1後	2 2	1 1	神戸女子大学文学部 教授 (平15. 4)	
37	兼任	講師	ハマスミ マユ 濱住 真有 <平成27年4月>	修士※ (文学)		日本美術史	3後	2	1	大阪大学大学院 文学研究科 助教 (平22. 4)	
38	兼任	講師	モリタ テイコ 盛田 帝子 (イイクラ テイコ) (飯倉 帝子) <平成26年4月>	博士 (文学)		国語表現法	2前	2	1	相愛大学文学部 兼任講師 (平15. 4)	

39	兼任	講師	フクダ チカシ 福田 知可志 ＜平成26年4月＞	文学博士		漢文学史A 漢文学史B	2前 2後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平18. 4)
40	兼任	講師	フナオ ヨシヒロ 舟尾 善博 ＜平成27年4月＞	学士 (教育学)		書道A 書道B	3前 3後	1 1	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平18. 4)
41	兼任	講師	アライ マリア 荒井 真理亜 (シラセ マリア) (白瀬 真理亜) ＜平成27年4月＞	博士 (文学)		映像と文学	3前	2	1	関西大学文学部 兼任講師 (平15. 4)
42	兼任	講師	タナカ ヨシコ 田中 美子 ＜平成25年4月＞	修士※ (文学)		倫理学入門 日本の哲学A 日本の哲学B	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平16. 4)
43	兼任	講師	カツラ ブンガ 桂 文我 (オオヒガシ ユキヒロ) (大東 幸浩) ＜平成27年4月＞	高校卒業		上方落語論	3後	2	1	相愛大学客員教授 (平24. 4)
44	兼任	講師	サイカ タダヒロ 雑賀 忠宏 ＜平成26年4月＞	博士 (学術)		日本漫画史	2後	2	1	神戸大学大学院 人文学研究科 学術推進研究員 (平20. 4)
45	兼任	講師	ウサミ ナオヒデ 宇佐美 直秀 ＜平成26年4月＞	文学士		仏教と生活 ※ 仏教文化演習	2前 3後	0.67 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
46	兼任	講師	クラタ ヤオイ 蔵田 弥生 ＜平成26年4月＞	準学士		仏教と生活 ※ 仏教文化演習	2前 3後	0.67 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
47	兼任	講師	ヤマサキ ケイイチロウ 山崎 恵一郎 ＜平成26年4月＞	文学士		仏教と生活 ※ 仏教文化演習	2前 3後	0.67 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
48	兼任	講師	ノリヤマ サトル 乗山 悟 ＜平成25年4月＞	修士 (文学)		建学の精神 仏教思想と現代 パーリ語入門	1前 2後 2前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学国際文化学部 講師 (平22. 4)
49	兼任	講師	イノウエ アキラ 井上 陽 ＜平成26年4月＞	修士※ (文学)		サンスクリット語入門	2後	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平17. 4)
50	兼任	講師	フクモト ヤスユキ 福本 康之 ＜平成25年4月＞	修士※ (音楽)		宗教儀礼概論	1後	2	1	浄土真宗本願寺派教学 伝道研究センター 常任研究員(主任) (平21. 4)
51	兼任	講師	ナオミ ゲンテツ 直海 玄哲 ＜平成25年4月＞	修士※ (文学)		仏教史	1前	2	1	龍谷大学 兼任講師 (平2. 4)
52	兼任	講師	ハラダ シュウジ 原田 宗司 ＜平成26年4月＞	修士※ (文学)		真宗史	2後	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
53	兼任	講師	ササキ ジョウドウ 佐々木 奨堂 ＜平成26年4月＞	教育学修士※		身体論	2後	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
54	兼任	講師	サトウ ヌウスケ 佐藤 友亮 ＜平成26年4月＞	医学博士		身体論	2後	2	1	大阪大学大学院 医学系研究科 助教 (平23. 4)
55	兼任	講師	モリモトノリコ 森本 典子 ＜平成27年4月＞	修士 (神学)		宗教社会活動論	3前	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
56	兼任	講師	ウチモト ミクル 打本 未来 ＜平成27年4月＞	修士 (文学)		ビハラー演習	3後	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
57	兼任	講師	アマギシ ジョウエン 天岸 浄圓 ＜平成27年4月＞	文学士		真宗教学史・教団史	3前	2	1	行信教 講師 (昭60. 4)

58	兼任	講師	チカマツ ショウシュン 近松 照俊 ＜平成27年4月＞	文学士		真宗儀礼演習	3前	2	1	本願寺非常勤 現職待真 (平21. 4)
59	兼任	講師	チカマツ シンジョウ 近松 真定 ＜平成27年4月＞	修士 (文学)		真宗儀礼演習	3前	2	1	本願寺式務部侍真職 (平20. 4)
60	兼任	講師	ベッキ コウショウ 戸次 公正 ＜平成27年4月＞	修士 (文学)		仏教文化講読2	3後	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平23. 4)
61	兼任	講師	カツモト カレン 勝本 華蓮 ＜平成27年4月＞	博士 (文学)		アジアの仏教と社会	3後	2	1	東方学院 講師 (平21. 4)
62	兼任	講師	ニシダ ヨシオ 西田 吉男 ＜平成27年4月＞	教育学修士		カウンセリング実習	3前	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平13. 4)
63	兼任	講師	ヨコカワ マチコ 横川 真知子 (ダイドウ マチコ) (大道 真知子) ＜平成27年4月＞	文学修士		生涯発達の臨床心理学 (成人・高齢期) 異常心理学	3後 3前	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平16. 4)
64	兼任	講師	ナカムラ シンスケ 中村 慎佑 ＜平成25年4月＞	修士 (情報学)		パーソナリティの心理学 消費者行動論	1後 3前	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平21. 4)
65	兼任	講師	ニシイ ケイコ 西井 恵子 ＜平成27年4月＞	教育学修士		カウンセリング論Ⅱ 精神分析学	3前 3後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平13. 4)
66	兼任	講師	タナカ シゲキ 田中 茂樹 ＜平成27年4月＞	博士 (文学)		精神医学 神経心理学	3前 3後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平21. 4)
67	兼任	講師	シオタニ タカマサ 塩谷 尚正 ＜平成27年4月＞	修士※ (社会学)		家族心理学	3前	2	1	神戸女学院大学 人間科学部 兼任講師 (平22.10)
68	兼任	講師	オオノ ナオキ 大野 直樹 ＜平成25年4月＞	博士 (人間・環境 学)		国際関係入門 国際政治論	1後 2前	2 2	1 1	関西福祉大学 社会福祉学部 兼任講師 (平23. 4)
69	兼任	講師	フルタ マコト 古田 誠 ＜平成25年4月＞	社会学士		マス・メディア論	1前	2	1	和歌山放送 (平20. 9)
70	兼任	講師	ムカイ ソノヨ 向井 苑生 ＜平成26年4月＞	理学博士		地球環境論	2前	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平24. 4)
71	兼任	講師	タムラ シオン 多村 至恩 ＜平成25年4月＞	社会学修士		建学の精神 仏教思想と現代	1前 2前	2 2	1 1	浄土真宗本願寺派 総合研究所 研究員 (平17. 4)
72	兼任	講師	ホンダ アヤ 本多 彩 ＜平成25年4月＞	文学修士※		建学の精神 仏教思想と現代	1後 2前	2 2	1 1	兵庫大学生涯福祉学部 講師 (平22. 4)
73	兼任	講師	チタニ キミカズ 智谷 公和 ＜平成25年4月＞	修士※ (文学)		建学の精神	1前・後	4	2	相愛大学 兼任講師 (平8. 4)
74	兼任	講師	イケヤマ セツロウ 池山 説郎 ＜平成25年4月＞	Ph. D. (History of Mathematics) (米国)		科学と人間 科学史入門	2前 1前	2 2	1 1	京都産業大学 文化学部 講師 (平16. 9)
75	兼任	講師	ホンダ マコト 本多 真 ＜平成26年4月＞	国際文化学 博士		環境と人間	2前	2	1	浄土真宗本願寺派教学 伝道研究所 研究助手 (平24. 4)
76	兼任	講師	クワバラ ヒデユキ 桑原 英之 ＜平成26年4月＞	修士※ (文学)		生命と人間	2後	2	1	近畿大学 兼任講師 (平21. 4)
77	兼任	講師	スズキ ケイゴ 鈴木 敬吾 ＜平成26年4月＞	法学士		日本語表現法 音楽の楽しみ	2後 2前	2 2	1 1	相愛大学客員教授 (平23. 4)



78	兼任	講師	タナカ フジオ 田中 不二夫 ＜平成25年4月＞	修士 (文学)		西洋文化史 美学	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平11. 4)
79	兼任	講師	ニシオ ヤスヒロ 西尾 泰広 ＜平成25年4月＞	修士※ (文学)		日本歴史入門	1前	2	1	大阪教育大学教育学部 兼任講師 (平20. 4)
80	兼任	講師	オオニシ リクコ 大西 陸子 ＜平成26年4月＞	修士※ (文学)		世界歴史入門	2後	2	1	相愛大学 兼任講師 (平12. 4)
81	兼任	講師	セキグチ ヤスユキ 関口 靖之 ＜平成25年4月＞	教育学修士		地理学入門(地誌を含む)	1後	2	1	大阪教育大学 兼任講師 (平10. 4)
82	兼任	講師	スギモト ヨシオ 杉本 良雄 ＜平成25年4月＞	修士 (経済学)		経済学入門	1前	2	1	立命館大学経済学部 兼任講師 (昭62. 4)
83	兼任	講師	スガ マキコ 菅 万希子 ＜平成26年4月＞	博士(経済学) MBA(経営学修士)		経営学入門 マーケティング入門	2前 2後	2 2	1 1	帝塚山大学経営学部 講師 (平23. 4)
84	兼任	講師	オオタニ シンタロウ 大谷 新太郎 ＜平成26年4月＞	修士※ (観光学)		観光学入門	2前	2	1	阪南大学国際観光学部 准教授 (平22. 4)
85	兼任	講師	ツネモト ハジメ 常本 一 ＜平成25年4月＞	Bachelor of Arts in Peace Studies (米国)		政治学入門	1後	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平23. 9)
86	兼任	講師	ムカイ タダシ 向井 正 ＜平成25年4月＞	理学博士		数学入門 地球と宇宙	2後 1後	2 2	1 1	神戸大学 名誉教授 (平21. 4)
87	兼任	講師	ハラダ ナルヒコ 原田 匠彦 ＜平成25年4月＞	学士 (教養)		化学入門	1後	2	1	相愛高等学校 兼任講師 (平18. 4)
88	兼任	講師	オオタ カズタカ 太田 和孝 ＜平成25年4月＞	博士 (理学)		生物学入門	1前	2	1	相愛大学 兼任講師 (平24. 4)
89	兼任	講師	ナカガワ マナブ 中川 学 ＜平成26年4月＞	博士 (医学)		現代と医学	2後	2	1	関西医科大学 講師 (平23. 10)
90	兼任	講師	マエダ チユコ 前田 智恵子 ＜平成25年4月＞	準学士		看護介護入門	1後	2	1	相愛大学 人間発達学部 兼任講師 (平21. 4)
91	兼任	講師	オカモト カヨコ 岡本 香代子 ＜平成25年4月＞	医学博士		健康科学 健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	2前 1後 2前	2 1 1	1 1 1	京都大学 兼任講師 (平5. 4)
92	兼任	講師	オクノ マサミチ 奥野 暢通 ＜平成25年4月＞	教育学 修士		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2後	3 1	3 1	四天王寺大学 准教授 (平13. 4)
93	兼任	講師	ミナトノ エミ 港野 恵美 ＜平成25年4月＞	修士 (教育学)		健康とスポーツ実習	1前	1	1	京都大学 兼任講師 (平19. 4)
94	兼任	講師	シモジ シンヤ 下地 信也 ＜平成25年4月＞	修士 (社会学)		キャリアデザイン論 キャリアデザイン演習	1後 2後	2 2	1 1	関西外国語大学 外国語学部兼任講師 (平21. 4)
95	兼任	講師	オカモト クニコ 岡本 久仁子 ＜平成25年4月＞	文学士		情報処理演習	1前・後	8	4	大阪国際大学 講師 (平10. 4)
96	兼任	講師	オカダ ユタカ 岡田 裕 ＜平成25年4月＞	修士 (教育学)		情報処理演習 情報と社会	1前・後 1前	8 2	4 1	大阪芸術大学 芸術学部 講師 (平11. 4)
97	兼任	講師	ナカジマ キンヤ 中島 欣哉 ＜平成25年4月＞	修士※ (文学)		情報処理演習	1前・後	8	4	相愛大学 兼任講師 (平18. 4)

98	兼任	講師	ハヤシ ミエコ 林 美恵子 <平成25年4月>	修士※ (文学)		情報処理演習	1前・後	8	4	相愛大学人文学部 兼任講師 (平17. 4)
99	兼任	講師	ハギワラ マサキ 萩原 雅也 <平成25年4月>	博士 (創造都市)		生涯学習概論	1前	2	1	大阪樟蔭女子大学 学芸学部 教授 (平24. 4)
100	兼任	講師	ヤマモト ジュンイチ 山本 順一 <平成25年4月>	学術修士 政治学修士		図書館概論	1前	2	1	桃山学院大学 経営学部 教授 (平20. 4)
101	兼任	講師	ナワ ツキノスケ 名和 月之介 <平成26年4月>	人間福祉学博 士		ボランティア論 ボランティア体験	2前 2後	2 1	1 1	相愛大学 兼任講師 (平16. 4)
102	兼任	講師	イシイ ユミコ 石井 優美子 <平成25年4月>	芸術学士		音楽実技	1前・後	2	2	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平1. 4)
103	兼任	講師	トミオカ ミチコ 富岡 美知子 <平成26年4月>	M. A. (Speech Communication ) (米国)		異文化間教育論	2後	2	1	近畿大学 兼任講師 (平9. 4)
104	兼任	講師	ハヤシ ハルオ 林 春男 <平成26年4月>	法学士		宗門法規	2前	2	1	相愛大学 兼任講師 (平23. 12)
105	兼任	講師	カドノ ヒロアキ 葛野 洋明 <平成26年4月>	修士※ (文学)		布教法	2後	2	1	龍谷大学 実践真宗学研究所 特任教授 (平21. 4)
106	兼任	講師	タカハシ アキト 高橋 昭人 <平成26年4月>	学士 (文学)		動式作法	2後	2	1	相愛大学 兼任講師 (平19. 4)
107	兼任	講師	ヨハン E アルスドルフ J. E. Alsdorf <平成25年4月>	Master of Education Curriculum, In struction and Technology (米国)		英会話 I 英会話 II	1前 1後	2 2	1 1	京都外国語大学 講師 (平15. 9)
108	兼任	講師	モリカワ ヤスコ 森川 康子 <平成25年4月>	Masters in Education (米国)		英会話 I 英会話 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平9. 4)
109	兼任	講師	マイケル C ルイス Michael. C. Lewis <平成25年4月>	Mechanical Engineering Degree (英国)		英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平12. 4)
110	兼任	講師	クボ キミヒト 久保 公人 <平成25年4月>	博士 (言語文化)		英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平21. 4)
111	兼任	講師	タグチ (ナカジマ) ヒロコ 田口 (中島) 寛子 <平成25年4月>	Master of Arts Teaching English As A Second Language (米国)		英語 I 英語 II 資格英語 II A 資格英語 II B	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平15. 9)
112	兼任	講師	ニシガキ ユカ 西垣 有夏 <平成25年4月>	修士※ (文学)		英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	京都学園大学 人間文化学部 講師 (平16. 4)
113	兼任	講師	ノグチ マサコ 野口 昌子 <平成25年4月>	修士 (文学)		英語 I 英語 II 資格英語 I A 資格英語 I B	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平2. 4)
114	兼任	講師	ソウマ サオリ 相馬 沙織 (マツモト サオリ) (松本 沙織) <平成25年4月>	Master of Arts Linguistics (米国)		英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平18. 9)
115	兼任	講師	シマモト ケイタ 嶋本 慶太 <平成25年4月>	修士 (人間環境 学)		ドイツ語 I ドイツ語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平18. 4)

116	兼任	講師	タジマ アキヒロ 田島 昭洋 <平成25年4月>		博士 (文学)		ドイツ語 I ドイツ語 II	1 前 1 後	2 2	1 1	大阪市立大学 兼任講師 (平15. 4)
117	兼任	講師	コマツ ヒロアキ 小松 寛明 <平成25年4月>		修士 (文学)		イタリア語 I イタリア語 II	1 前 1 後	2 2	1 1	大阪音楽大学 兼任講師 (平元. 10)
118	兼任	講師	ケヤキダニ ユキコ 樺谷 由紀子 <平成25年4月>		修士 (文学)		イタリア語 I イタリア語 II	1 前 1 後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平元. 4)
119	兼任	講師	コマツ マサミチ 小松 正道 <平成25年4月>		修士※ (文学)		フランス語 I フランス語 II	1 前 1 後	2 2	1 1	関西学院大学文学部 兼任講師 (平21. 9)
120	兼任	講師	タナカ ヨウコ 田中 洋子 <平成25年4月>		修士※ (言語文化 学)		中国語 I 中国語 II	1 前 1 後	2 2	1 1	近畿大学経済学部 兼任講師 (平22. 4)
121	兼任	講師	リ ネイ 李 寧 <平成25年4月>		修士※ (地域研究)		中国語 I 中国語 II	1 前 1 後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平8. 4)

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	2人	2人	1人	6人	
	修 士	人	人	人	人	1人	3人	人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	3人	3人	人	人	人	6人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	3人	2人	2人	1人	8人	
	修 士	人	人	3人	3人	1人	3人	人	10人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。